宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第90集

SHIMO NA KA

下那珂遺跡

県総合農業試験場本場果樹園造成工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2004

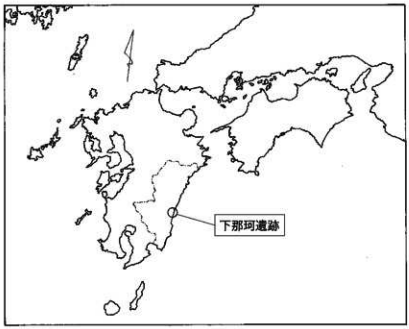
宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第90集

SHIMO NA KA

下那珂遺跡

県総合農業試験場本場果樹園造成工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



下那珂遺跡全景（南方の宮崎市街地をのぞむ）

①下那珂遺跡出土飛龍文鏡

②下那珂遺跡出土石庖丁

序

宮崎県教育委員会では，県総合農業試験場本場果樹園造成工事に伴い，宮崎県宮崎郡佐土原町に所在する下那珂遺跡の発掘調査を行いました。

下那珂遺跡は，昭和41年に地元の高校生が完形の弥生土器の壺と滑石製紡錘車を発見したことが契機となり存在が周知されるようになった遺跡です。その後，昭和42年に「下那珂貝塚」として発掘調査が行われ，弥生時代後期から終末期にかけての遺構・遺物が多く発見されました。現在でも該期の宮崎平野部の歴史像を解明する上で重要な遺跡となっています。

今回の調査では，旧石器時代から弥生時代にかけての遺構・遺物が多く検出されました。特に，弥生時代後期から終末期にかけての竪穴住居跡群は，総数で約120軒を数え，該期の宮崎県下における最大規模の集落遺跡発見となりました。また，出土した遺物は，多量の弥生土器をはじめ，勾玉文鏡・石庖丁・鉄器等，当時他地域との交流が盛んであったことを想定できる貴重な資料となりました。

本書が学術資料としてだけでなく，学校教育や生涯学習の場で活用され，埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

なお，調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ，御指導・御助言をいただいた先生方，ならびに地元の方々に心からの謝意を表します。

平成１６年３月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長　米良弘康

例　　言

1．本報告書は，宮崎県総合農業試験場本場果樹園造成工事に伴い，宮崎県教育委員会が行った下那珂遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は，宮崎県教育委員会が主体となり，宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。

3．発掘調査は二次に分けて行った。各次の調査期間は以下のとおりである。

（第１次）　平成11年度：平成11年11月15日から平成12年３月31日まで
　　平成12年度：平成12年　４月18日から平成12年５月31日まで
（第２次）　平成13年度：平成13年　８月20日から平成14年２月28日まで

4．昭和42年に宮崎県教育委員会が本遺跡付近を調査し，出土遺物については『下那珂貝塚』（宮崎県総合博物館1988『埋蔵文化財調査研究報告Ⅱ』）の報告書を刊行している。同敷地内の遺跡ではあるが，今回報告分が「下那珂遺跡」，昭和42年度調査分が「下那珂貝塚」と区別して呼称する。

5．現地での実測・写真撮影等の記録は主に甲斐貴充・田中光・高橋誠・日高広人・安楽哲史・橋川敏子・古屋美樹・堀田孝博・松永幸寿が行い，空中写真撮影は（株）スカイサーベイと（株）九州航空に委託した。その他，発掘調査期間中に多くの埋蔵文化財センター職員・調査員が遺構実測に加わった。実測者は以下のとおりである。
秋成雅博・阿部直人・今塩屋毅行・尾園賢二・加藤 学・金丸史絵・工藤基志・倉薗晴浩・栗山正明・重留康宏・新町芳伸・菅付和樹・高木祐志・高橋浩子・丹 俊詞・都成 量・外山宏幸・永田和久・永野高行・福田泰典・藤木 聡・松尾有年・松本 茂・山下健一・横山通久・渡部誠一郎・和山理啓（五十音順）

6．整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行った。図面の作成・実測・トレースは甲斐貴充が整理補助員の協力を得て行った。また，一部の遺物実測・トレースについては他の職員・調査員が行った。実測・トレース者は以下のとおりである。
旧石器時代遺物…松本茂・秋成雅博・藤木聡 ／ 石庖丁…古屋美樹 ／ 鉄器…丹俊詞

7．本書で使用した第１図「下那珂遺跡の位置と周辺遺跡図」は国土地理院発行の５万分の１図「宮崎北部」を，第２図「下那珂遺跡周辺図」は佐土原町役場発行の１千分の１図を基に作成した。

8．土層断面及び土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に拠っているが，数字等記載のない色名はその限りではない。

9．本書で使用した方位は，「N」と記載しているものは座標北（座標第Ⅱ系）であり，その他「M.N.」と記載しているものは磁北（磁針方位は西偏約5.5°）である。レベルは海抜絶対高である。

10. 本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。

ＳＡ…竪穴住居跡　ＳＣ…土坑　ＳＥ…溝状遺構　ＳＩ…集石遺構

ＳＰ…炉穴

11. 本書の遺構及び遺物実測の縮尺は明記しているが，主なものについては一部例外を除いて以下のように統一している。

集石遺構・炉穴…１／30　竪穴住居跡…１／60　土坑…１／20・１／60

磨製石鏃……２／３　石庖丁……１／３　敲石・石皿……１／３・１／６

それ以外の石器……１／２　弥生土器……１／４

12. 本書の執筆・編集は甲斐貴充が担当した。

13. 出土遺物・その他諸記録は，宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本 文 目 次

第Ⅰ章　はじめに …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の組織 …… 1
第３節　遺跡の位置と環境 …… 2

第Ⅱ章　調査の概要 …… 7
　第１節　調査の経過と概要 …… 7
　第２節　遺跡の基本層序 …… 8
　第３節　下那珂遺跡における土器分類 …… 10
　第４節　下那珂遺跡における石器分類と包含層出土石器 …… 15
　第５節　弥生時代の調査 …… 47
　　（１）Ａ区の調査 …… 47
　　（２）Ｃ区の調査 …… 111
　　（３）Ｂ区の調査 …… 112
　　（４）Ｄ区の調査 …… 128
　　（５）Ｅ・Ｆ区の調査 …… 148
　　（６）その他の遺物 …… 161
　第６節　旧石器時代～縄文時代の調査 …… 162

第Ⅲ章　まとめ …… 207

挿 図 目 次

第１図　下那珂遺跡の位置と周辺遺跡図（１／25,000） …… 4
第２図　下那珂遺跡周辺地形図（１／2,000） …… 5
第３図　下那珂遺跡グリッド配置図及び弥生時代遺構検出状況図（１／1,200） …… 6
第４図　土層堆積状況図（Ｄ区南壁）（１／100） …… 9
第５図　包含層出土石器(1)〈磨製石鏃①〉（２／３） …… 16
第６図　包含層出土石器(2)〈磨製石鏃②・磨製石鏃未製品〉（２／３） …… 17
第７図　包含層出土石器(3)〈石庖丁①－ＩＡ類・ＩＢ類・ＩＣ類〉（１／３） …… 18
第８図　包含層出土石器(4)〈石庖丁②－ⅡＡ類・ⅡＢ類・ⅡＣ類〉（１／３） …… 20

第 9図　包含層出土石器(5)〈石庖丁③－ⅡC類〉（1／3）…… 21
第 10図　包含層出土石器(6)〈石庖丁④－ⅡC類〉（1／3）…… 22
第 11図　包含層出土石器(7)〈石庖丁⑤－ⅡD類・ⅢC類・Ⅳ類〉（1／3）…… 23
第 12図　包含層出土石器(8)〈石庖丁⑥－Ⅳ類・Ⅴ類〉（1／3）…… 24
第 13図　包含層出土石器(9)〈石庖丁⑦－Ⅴ類〉（1／3）…… 25
第 14図　包含層出土石器(10)〈砥石①－ⅠA類〉（1／2）…… 27
第 15図　包含層出土石器(11)〈砥石②－ⅠB類〉（1／2）…… 28
第 16図　包含層出土石器(12)〈砥石③－ⅠB類・Ⅱ類〉（1／2）…… 29
第 17図　包含層出土石器(13)〈砥石④－Ⅱ類・ⅢA類〉（1／2）…… 31
第 18図　包含層出土石器(14)〈砥石⑤－ⅢA類〉（1／2）…… 32
第 19図　包含層出土石器(15)〈砥石⑥－ⅢA類・ⅢB〉（1／2）…… 33
第 20図　包含層出土石器(16)〈砥石⑦－ⅢB類〉（1／4）…… 34
第 21図　包含層出土石器(17)〈削器①〉（1／2）…… 34
第 22図　包含層出土石器(18)〈削器②〉（1／2）…… 35
第 23図　包含層出土石器(19)〈蛤形剥片削器①－Ⅰ類〉（1／2）…… 36
第 24図　包含層出土石器(20)〈蛤形剥片石器②－Ⅰ類〉（1／2）…… 37
第 25図　包含層出土石器(21)〈蛤形剥片石器③－Ⅰ類・Ⅱ類〉（1／2）…… 38
第 26図　包含層出土石器(22)〈蛤形剥片石器④－Ⅱ類・Ⅲ類〉（1／2）…… 39
第 27図　包含層出土石器(23)〈礫器①〉（1／2）…… 40
第 28図　包含層出土石器(24)〈礫器②〉（1／2）…… 41
第 29図　包含層出土石器(25)〈磨製石斧・打製石斧①〉（1／2）…… 42
第 30図　包含層出土石器(26)〈打製石斧②〉（1／2）…… 43
第 31図　包含層出土石器(27)〈打製石斧③〉（1／2）…… 44
第 32図　包含層出土石器(28)〈敲石・凹石・磨石・石皿・台石〉（1／3・1／6）…… 45
第 33図　包含層出土石器(29)〈剥片石器・礫器〉（1／2）…… 46
第 34図　A・C区地形図及び遺構配置図（1／1,000）…… 48
第 35図　45号竪穴住居跡（SA45）図（1／60）…… 49
第 36図　45号竪穴住居跡（SA45）出土遺物図（1／4・1／3）…… 50
第 37図　43・44号竪穴住居跡（SA43・44）図（1／60）…… 51
第 38図　44号竪穴住居跡（SA44）出土遺物図（1／4・1／3・2／3）…… 52
第 39図　43号竪穴住居跡（SA43）出土遺物図（1／4）…… 52
第 40図　21号竪穴住居跡（SA21）図（1／60）…… 53
第 41図　21号竪穴住居跡（SA21）出土遺物図（1／4・1／2・1／3）…… 54
第 42図　34・35・36・37・38・39号竪穴住居跡（SA34・35・36・37・38・39）・11号土坑（SC11）図（1／60）…… 55
第 43図　35・36・37・38・39号竪穴住居跡（SA35・36・37・38・39）・11号土坑（SC11）土層断面図（1／60）…… 56

第 44図　34・35号竪穴住居跡（ＳＡ34・35）出土遺物図（1／4・1／2）…… 57
第 45図　37号竪穴住居跡（ＳＡ37）出土遺物図（1／4・1／3・1／6）…… 58
第 46図　38号竪穴住居跡（ＳＡ38）出土遺物図（1／4）…… 58
第 47図　39号竪穴住居跡（ＳＡ39）出土遺物図（1／4・1／2）…… 59
第 48図　40・41・42号竪穴住居跡（ＳＡ40・41・42）出土遺物図（1／4・2／3）…… 60
第 49図　40・41・42号竪穴住居跡（ＳＡ40・41・42）図（1／60）…… 61
第 50図　63・64号竪穴住居跡（ＳＡ63・64）・15・21号土坑（ＳＣ15・21）図（1／60）…… 62
第 51図　63号竪穴住居跡（ＳＡ63）出土遺物図（1／2）…… 63
第 52図　11号土坑（ＳＣ11）出土遺物図（1／4）…… 63
第 53図　15号土坑（ＳＣ15）出土遺物図（1／4）…… 63
第 54図　65号竪穴住居跡（ＳＡ65）出土遺物図（1／4）…… 64
第 55図　65号竪穴住居跡（ＳＡ65）図（1／60）…… 64
第 56図　84・85・86・87・88号竪穴住居跡（ＳＡ84・85・86・87・88）図（1／60）…… 65
第 57図　86号竪穴住居跡（ＳＡ86）出土遺物図（1／4）…… 66
第 58図　11・12・13号竪穴住居跡（ＳＡ11・12・13）図（1／60）…… 67
第 59図　11号竪穴住居跡（ＳＡ11）出土遺物図（1／4・1／3・1／2）…… 68
第 60図　12号竪穴住居跡（ＳＡ12）出土遺物図（1／4・2／3）…… 68
第 61図　13号竪穴住居跡（ＳＡ13）出土遺物図（1／4・1／3）…… 69
第 62図　1・2号竪穴住居跡（ＳＡ1・2）図（1／60）…… 69
第 63図　2号竪穴住居跡（ＳＡ2）出土遺物図（1／4・1／2）…… 70
第 64図　3号竪穴住居跡（ＳＡ3）図（1／60）…… 70
第 65図　9・10号竪穴住居跡（ＳＡ9・10）図（1／60）・
　　9号竪穴住居跡（ＳＡ9）出土遺物図（1／2）…… 71
第 66図　66・67・68・69・70号竪穴住居跡（ＳＡ66・67・68・69・70）図（1／60）…… 73
第 67図　71・72・73・74・75・76・77・83号竪穴住居跡（ＳＡ71・72・73・
　　74・75・76・77・83）・16号土坑（ＳＣ16）図（1／60）…… 75
第 68図　71・72・73・74・75・76・77・83号竪穴住居跡（ＳＡ71・72・73・
　　74・75・76・77・83）・16号土坑（ＳＣ16）土層断面図（1／60）…… 76
第 69図　77号竪穴住居跡（ＳＡ77）土層断面図（1／60）…… 77
第 70図　18号竪穴住居跡（ＳＡ18）出土遺物図（1／4）…… 77
第 71図　18・79・80・81・82号竪穴住居跡（ＳＡ18・79・80・81・82）・
　　14号土坑（ＳＣ14）図（1／60）…… 78
第 72図　14号土坑（ＳＣ14）出土遺物図（1／4・1／3）…… 79
第 73図　14号竪穴住居跡（ＳＡ14）出土遺物図（1／4）…… 80
第 74図　15号竪穴住居跡（ＳＡ15）出土遺物図（1／4・1／2）…… 80
第 75図　14・15・16号竪穴住居跡（ＳＡ14・15・16）・4号土坑（ＳＣ4）図（1／60）…… 81
第 76図　4号土坑（ＳＣ4）出土遺物図（1／4）…… 82

第 77図　19号竪穴住居跡（ＳＡ19）出土遺物図（１／４）…… 82
第 78図　25・26号竪穴住居跡（ＳＡ25・26）出土遺物図（１／４）…… 83
第 79図　17・19・20・25・26号竪穴住居跡（ＳＡ17・19・20・25・26）図（１／60）…… 84
第 80図　25・26号竪穴住居跡（ＳＡ25・26）土層断面図（１／60）…… 85
第 81図　28号竪穴住居跡検出（ＳＡ28）出土遺物図（１／４・１／２）…… 85
第 82図　28・29号竪穴住居跡（ＳＡ28・29）・10号土坑（ＳＣ10）図（１／60）…… 86
第 83図　29号竪穴住居跡（ＳＡ29）出土遺物図（１／４・１／３・１／２）…… 87
第 84図　４号竪穴住居跡（ＳＡ４）出土遺物図（１／４）…… 87
第 85図　４・５号竪穴住居跡（ＳＡ４・５）図（１／60）…… 88
第 86図　５号竪穴住居跡（ＳＡ５）出土遺物図（１／４・１／２）…… 88
第 87図　30・31・32・33・46・50号竪穴住居跡（ＳＡ30・31・32・33・46・50）図（１／60）…90
第 88図　30・32・33号竪穴住居跡（ＳＡ30・32・33）出土遺物図（１／２・１／４・２／３）…91
第 89図　46号竪穴住居跡（ＳＡ46）出土遺物図（１／４・１／３）…… 92
第 90図　46・47・48・49・59・60・62号竪穴住居跡（ＳＡ46・47・48・49・
59・60・62）・１号溝状遺構（ＳＥ１）図（１／60）…… 93
第 91図　47号竪穴住居跡（ＳＡ47）出土遺物図（１／４・１／２・１／３）…… 94
第 92図　48号竪穴住居跡（ＳＡ48）出土遺物図（１／４・１／３）…… 94
第 93図　７号竪穴住居跡（ＳＡ７）出土遺物図（１／４・１／２）…… 95
第 94図　６・７・８・55・60・61・62号竪穴住居跡（ＳＡ６・７・８・55・
60・61・62）・３号（ＳＣ３）土坑図（１／60）…… 96
第 95図　３号土坑（ＳＣ３）出土遺物図（１／４）…… 97
第 96図　13号竪穴住居跡（ＳＡ13）出土遺物図（２／３・１／２）…… 98
第 97図　51号竪穴住居跡（ＳＡ51）出土遺物図（１／４）…… 99
第 98図　52号竪穴住居跡（ＳＡ52）出土遺物図（１／４）…… 100
第 99図　51・52・53・54・56・89号竪穴住居跡（ＳＡ51・52・53・54・56・89）・
２・９・17・18・19号土坑（ＳＣ２・９・17・18・19）図（１／60）…… 101
第100図　54号竪穴住居跡（ＳＡ54）出土遺物図（１／４・２／３・１／３）…… 102
第101図　56号竪穴住居跡（ＳＡ56）出土遺物図（１／４・１／２・１／１）…… 103
第102図　９号土坑（ＳＣ９）出土遺物図（１／２・２／３）…… 104
第103図　57号竪穴住居跡（ＳＡ57）出土遺物図（１／４・１／３）…… 105
第104図　57・58号竪穴住居跡（ＳＡ57・58）・
１・12号土坑（ＳＣ１・12）図（１／60）…… 106
第105図　58号竪穴住居跡（ＳＡ58）出土遺物図（１／４・２／３・１／３）…… 106
第106図　22号竪穴住居跡（ＳＡ22）出土遺物図（１／４・１／２・１／３）…… 107
第107図　23号竪穴住居跡（ＳＡ23）出土遺物図（１／４）…… 107
第108図　22・23・24号竪穴住居跡（ＳＡ22・23・24）
８・20号土坑（ＳＣ８・20）図（１／60）…… 108

第109図　24号竪穴住居跡（ＳＡ24）出土遺物図（1／4）…… 109
第110図　27号竪穴住居跡（ＳＡ27）出土遺物図（1／4・1／2）…… 110
第111図　27号竪穴住居跡（ＳＡ27）出土遺物図（1／60）…… 110
第112図　90号竪穴住居跡（ＳＡ90）図（1／60）及び出土遺物図（2／3）…… 111
第113図　Ｂ区地形図及び遺構配置図（1／250）…… 112
第114図　91号竪穴住居跡（ＳＡ91）図（1／60）…… 113
第115図　91号竪穴住居跡（ＳＡ91）出土遺物図（1／4・2／3・1／3）…… 114
第116図　92号竪穴住居跡（ＳＡ92）図（1／60）…… 115
第117図　93・94号竪穴住居跡（ＳＡ93・94）図（1／60）…… 116
第118図　93号竪穴住居跡（ＳＡ93）出土遺物図①（1／4）…… 116
第119図　93号竪穴住居跡（ＳＡ93）出土遺物図②（1／2・1／3・1／6）…… 117
第120図　95・96号竪穴住居跡（ＳＡ95・96）図（1／60）…… 117
第121図　95号竪穴住居跡（ＳＡ95）出土遺物図（1／4・1／2・2／3・1／3）…… 118
第122図　96号竪穴住居跡（ＳＡ96）出土遺物図（1／1・1／4・1／3）…… 119
第123図　97・98・99号竪穴住居跡（ＳＡ97・98・99）図（1／60）…… 121
第124図　97号竪穴住居跡（ＳＡ97）出土遺物図①（1／4・1／3）…… 121
第125図　97号竪穴住居跡（ＳＡ97）出土遺物図②（1／4）…… 122
第126図　98号竪穴住居跡（ＳＡ98）出土遺物図（1／4）…… 122
第127図　99号竪穴住居跡（ＳＡ99）出土遺物図（1／4）…… 123
第128図　100号竪穴住居跡（ＳＡ100）出土遺物図（1／4）…… 123
第129図　101号竪穴住居跡（ＳＡ101）出土遺物図（1／4）…… 124
第130図　102号竪穴住居跡（ＳＡ102）出土遺物図（1／4）…… 124
第131図　22号土坑（ＳＣ22）図（1／20）及び出土遺物図（1／4）…… 125
第132図　23・24号土坑（ＳＣ23・24）図（1／40）…… 125
第133図　23・24号土坑（ＳＣ23・24）出土遺物図（1／4）…… 126
第134図　Ｂ区包含層出土遺物図①（1／4）…… 126
第135図　Ｂ区包含層出土遺物図②（1／4）…… 127
第136図　下那珂遺跡Ｄ区地形図及び遺構配置図（1／600）…… 128
第137図　103・104・105・106・107号竪穴住居跡
（ＳＡ103・104・105・106・107）図（1／60）…… 130
第138図　103・107号竪穴住居跡（ＳＡ103・107）土層断面図（1／60）…… 131
第139図　103号竪穴住居跡（ＳＡ103）出土遺物図（1／4・1／3）…… 131
第140図　104号竪穴住居跡（ＳＡ104）出土遺物図①（1／4・1／3）…… 132
第141図　104号竪穴住居跡（ＳＡ104）出土遺物図②（1／2・1／3）…… 133
第142図　105号竪穴住居跡（ＳＡ105）出土遺物図（1／4・1／3）…… 133
第143図　106号竪穴住居跡（ＳＡ106）出土遺物図（1／4・1／2・1／3）…… 134
第144図　107号竪穴住居跡（ＳＡ107）出土遺物図（1／4・1／3）…… 135

第145図　108・109・110・111・112号竪穴住居跡
（ＳＡ108・109・110・111・112）図（1／60）…… 136
第146図　109号竪穴住居跡（ＳＡ109）出土遺物図（1／4・1／3・2／3・1／2）…… 137
第147図　110号竪穴住居跡（ＳＡ110）出土遺物図（1／4）…… 137
第148図　111号竪穴住居跡（ＳＡ111）出土遺物図（1／4）…… 138
第149図　112号竪穴住居跡（ＳＡ112）出土遺物図（1／4）…… 138
第150図　113・114・115号竪穴住居跡（ＳＡ113・114・115）図（1／60）…… 139
第151図　114号竪穴住居跡（ＳＡ114）出土遺物図①（1／4）…… 140
第152図　114号竪穴住居跡（ＳＡ114）出土遺物図②（1／4・1／2・1／3・2／3）… 141
第153図　115号竪穴住居跡（ＳＡ115）出土遺物図（1／4・1／2・1／3・1／6）…… 142
第154図　25号土坑（ＳＣ25）図（1／40）…… 143
第155図　25号土坑（ＳＣ25）出土遺物図（1／4・1／3）…… 144
第156図　Ｄ区包含層出土遺物図①（1／4）…… 146
第157図　Ｄ区包含層出土遺物図②（1／4）…… 147
第158図　Ｅ・Ｆ区遺構配置図（1／600）…… 148
第159図　116・117・118号竪穴住居跡（ＳＡ116・117・118）図（1／60）…… 149
第160図　116号竪穴住居跡（ＳＡ116）出土遺物図（1／4・1／2・2／3）…… 150
第161図　117号竪穴住居跡（ＳＡ117）出土遺物図①（1／4）…… 151
第162図　117号竪穴住居跡（ＳＡ117）出土遺物図②（1／4）…… 152
第163図　119号竪穴住居跡（ＳＡ119）図（1／60）…… 153
第164図　119号竪穴住居跡（ＳＡ119）出土遺物図（1／4・1／3）…… 153
第165図　120号竪穴住居跡（ＳＡ120）図（1／60）…… 154
第166図　120号竪穴住居跡（ＳＡ120）出土遺物図（1／4）…… 154
第167図　26号土坑（ＳＣ26）図（1／40）及び出土遺物図（1／4）…… 155
第168図　27・28・29号土坑（ＳＣ27・28・29）図（1／40）及び出土遺物図（1／4）…… 156
第169図　30号土坑（ＳＣ30）出土遺物図（1／4）…… 157
第170図　Ｆ区包含層出土遺物図①（1／4）…… 158
第171図　Ｆ区包含層出土遺物図②（1／4）…… 159
第172図　Ｆ区包含層出土遺物図③（1／4）…… 160
第173図　遺構外出土鉄器・石製勾玉図（1／1・2／1）…… 161
第174図　縄文時代遺構配置図（1／1,500）…… 162
第175図　1号・2号集石遺構（ＳＩ1・2）（1／30）図 …… 163
第176図　1号・2号・3号炉穴（ＳＰ1・2・3）図（1／30）…… 164
第177図　4号炉穴（ＳＰ4）（1／30）図 …… 165
第178図　旧石器時代～縄文時代石器図①（2／3）…… 166
第179図　旧石器時代～縄文時代石器図②（2／3）…… 167
第180図　旧石器時代～縄文時代石器図③（1／2）…… 167

第181図　旧石器時代～縄文時代石器図④（1／2）…… 168

表目次

第 1 表～第 3 表　下那珂遺跡検出竪穴住居跡及び土坑計測表 …… 169～171
第 4 表～第11表　下那珂遺跡出土石器計測表(1)～(8) …… 172～179
第12表～第38表　下那珂遺跡出土土器観察表(1)～(27) …… 180～206

写真図版目次

写真図版 1　下那珂遺跡遠景（南方宮崎市街地方向をのぞむ）…… 巻頭 1
写真図版 2　①下那珂遺跡出土亀龍文鏡／②下那珂遺跡出土石庖丁 …… 巻頭 2
写真図版 3　55号竪穴住居跡（ＳＡ55）出土遺物 …… 97
写真図版 4　3号土坑（ＳＣ3）出土遺物 …… 98
写真図版 5　52号竪穴住居跡（ＳＡ52）出土遺物① …… 100
写真図版 6　52号竪穴住居跡（ＳＡ52）出土遺物② …… 102
写真図版 7　下那珂遺跡遠景 …… 215
写真図版 8　下那珂遺跡全景（Ａ～Ｃ区：一次調査分）…… 216
写真図版 9　①Ａ区全景／②Ｂ区全景 …… 217
写真図版10　①Ａ区竪穴住居跡検出状況(1)（南西部）／ …… 218
②Ａ区竪穴住居跡検出状況(2)（東部）／
③Ａ区竪穴住居跡検出状況(3)（北東部）／
④Ａ区竪穴住居跡検出状況(4)（北部）
写真図版11　①下那珂遺跡全景（Ｄ～Ｆ区：二次調査分）／
②Ｄ区竪穴住居跡群／③ＳＡ103 …… 219
写真図版12　①Ａ区竪穴住居跡（63・64号）／②Ａ区竪穴住居跡（19・25・26号）／ …… 220
③Ａ区竪穴住居跡（41・42号）／④Ａ区竪穴住居跡（17～19・25・26号）／
⑤Ａ区竪穴住居跡（18号）／⑥Ａ区竪穴住居跡（34～39号）
写真図版13　①Ａ区竪穴住居跡（29号）／②Ａ区竪穴住居跡（27号）／ …… 221
③Ｂ区竪穴住居跡（93・94号）／④Ｂ区竪穴住居跡（91号）／
⑤Ｂ区竪穴住居跡（95・96号）／⑥Ａ区竪穴住居跡（34～39号）
写真図版14　①15号土坑／②Ｂ区竪穴住居跡（97号）／ …… 222
③Ａ区竪穴住居跡（54・56号）／④Ａ区竪穴住居跡（21号）／
⑤Ａ区竪穴住居跡（51～54・56号）・3号土坑／⑥ＳＡ56出土状況
写真図版15　①Ａ区竪穴住居跡（6～8・55・60～61号）／ …… 223

②A区竪穴住居跡（11～13号）／③A区竪穴住居跡（５号）／④５号土坑／
⑤A区竪穴住居跡（43号）／⑥D区竪穴住居跡群
写真図版16 ①D区南側竪穴住居跡検出状況／②ＳＡ103内土坑／ …… 224
③D区竪穴住居跡（114・115号）／④25号土坑／
⑤D区南側谷地形埋没状況(1)／⑥D区南側谷地形埋没状況(2)
写真図版17 ①１号炉穴（ＳＰ１）／②２号炉穴（ＳＰ２）／③集石遺構（ＳＩ１）／ …… 225
④２号集石遺構（ＳＩ２）
写真図版18 ①包含層出土磨製石鏃(1)／②包含層出土磨製石鏃(2) ／ …… 226
③包含層出土磨製石鏃(3)及び磨製石鏃未製品 ／
④遺構出土磨製石鏃及び磨製石鏃未製品
写真図版19 ①包含層出土石庖丁(1)（ＩＡ類・ＩＢ類）／ …… 227
②包含層出土石庖丁(2)（ＩＣ類・ⅡＡ類）
写真図版20 ①包含層出土石庖丁(3) （ⅡＡ類・ⅡＢ類・ⅡＣ類）／ …… 228
②包含層出土石庖丁(4)（ⅡＣ類）
写真図版21 ①包含層出土石庖丁(5) （ⅡＣ類・ⅡＤ類）／ …… 229
②包含層出土石庖丁(6) （ⅡＤ類）
写真図版22 ①包含層出土石庖丁(7) （ⅡＤ類・ⅢＣ類・Ⅳ類）／ …… 230
②包含層出土石庖丁(8) （Ⅳ類・Ｖ類）
写真図版23 ①包含層出土石庖丁(9) （Ｖ類）／②遺構出土石庖丁(1) …… 231
写真図版24 ①遺構出土石庖丁(2)／②遺構出土石庖丁(3) …… 232
写真図版25 ①包含層出土砥石(1)（ＩＡ類）／ …… 233
②包含層出土砥石(2)（ＩＡ類・ＩＢ類）／
③包含層出土砥石(3)（ＩＢ類・Ⅱ類）／
④包含層出土砥石(4)（Ⅱ類・ⅢＡ類）
写真図版26 ①包含層出土砥石(5)（ⅢＡ類）／②包含層出土砥石(6)（ⅢＡ類）／ …… 234
③包含層出土砥石(7)（ⅢＡ類・ⅢＢ類）／④包含層出土砥石(8)（ⅢＢ類）
写真図版27 ①包含層出土削器／②包含層出土蛤形剥片石器(1)（Ｉ類）／ …… 235
③包含層出土蛤形剥片石器(2)（Ｉ類・Ⅱ類）／
④包含層出土蛤形剥片石器(3)（Ⅱ類・Ⅲ類）
写真図版28 ①包含層出土礫器／②包含層出土石斧(1)／③包含層出土石斧(2)／ …… 236
④包含層出土敲石(1)・石皿
写真図版29 ①包含層出土敲石(2)・磨石／②包含層出土台石／③A区遺構出土砥石／ …… 237
④A・B区遺構出土敲石・凹石／⑤A・B区遺構出土石器／
⑥D・F区遺構出土石器
写真図版30 ①ＳＡ45出土土器／②ＳＡ44出土土器(1)／③ＳＡ44出土土器(2)／ …… 238
④ＳＡ45出土土器(3)／⑤ＳＡ43出土土器／⑥ＳＡ21出土土器(1)／
⑦ＳＡ21出土土器(2)／⑧ＳＡ38出土土器／⑨ＳＡ39出土土器(1)／

⑩ＳＡ39出土土器(2)／⑪ＳＡ39出土土器(3)／⑫ＳＡ40出土土器
写真図版31 ①ＳＡ41出土土器／②ＳＣ15出土土器／③ＳＡ86出土土器(1)／ …… 239
④ＳＡ11・13・２出土土器／⑤ＳＡ18出土土器／⑥ＳＣ14出土土器／
⑦ＳＡ15出土土器／⑧ＳＣ４出土土器／⑨ＳＡ25出土土器／
⑩ＳＡ29出土土器(1)／⑪ＳＡ29出土土器(2)／⑫ＳＡ５出土土器(1)
写真図版32 ①ＳＡ５出土土器(2)／②ＳＡ５出土土器(3)／③ＳＡ５出土土器(4)／ …… 240
④ＳＡ33出土土器／⑤ＳＡ46出土土器／⑥ＳＡ47出土土器(1)／
⑦ＳＡ48出土土器(1)／⑧ＳＡ48出土土器(2)／⑨ＳＡ７出土土器／
⑩ＳＡ５出土土器(5)・ＳＡ21出土土器(3)／⑪ＳＡ47出土土器(2)
写真図版33 ①ＳＡ51出土土器／②ＳＡ54出土土器(1)／③ＳＡ54出土土器(2)／ …… 241
④ＳＡ54出土土器(3)／⑤ＳＡ57出土土器／⑥ＳＡ22出土土器(1)／
⑦ＳＡ22出土土器(2)／⑧ＳＣ８出土土器／⑨ＳＡ91出土土器(1)／
⑩ＳＡ91出土土器(2)／⑪ＳＡ91出土土器(3)／⑫ＳＡ91出土土器(4)
写真図版34 ①ＳＡ91出土土器(5)／②ＳＡ91出土土器(6)／③ＳＡ93出土土器(1)／ …… 242
④ＳＡ93出土土器(2)／⑤ＳＡ93出土土器(3)／⑥ＳＡ93出土土器(4)／
⑦ＳＡ93出土石器／⑧ＳＡ95出土土器／⑨ＳＡ97出土土器(1)／
⑩ＳＡ97出土土器(2)／⑪ＳＡ97出土土器(3)／⑫ＳＡ98出土土器(1)
写真図版35 ①ＳＡ98出土土器(2)／②ＳＡ98出土土器(3)／③ＳＡ99出土土器／ …… 243
④ＳＡ100出土土器／⑤ＳＡ101出土土器(1)／⑥ＳＡ101出土土器(2)／
⑦ＳＡ101出土土器(3)／⑧ＳＡ102出土土器／⑨ＳＣ22出土土器／
⑩ＳＣ24出土土器(1)／⑪ＳＣ24出土土器(2)／⑫Ｂ区包含層出土土器(1)
写真図版36 ①ＳＡ101出土土器(4)／②Ｂ区包含層出土土器(2)／ …… 244
③Ｂ区包含層出土土器(2)／④Ｂ区包含層出土土器(3)／
⑤Ｂ区包含層出土土器(4)／⑥Ｂ区包含層出土土器(5)／
⑦Ｂ区包含層出土土器(6)／⑧Ｂ区包含層出土土器(7)／
⑨Ｂ区包含層出土土器(8)／⑩ＳＡ103出土土器(1)／
⑪ＳＡ103出土土器(2)／⑫ＳＡ103出土土器(3)
写真図版37 ①ＳＡ103出土土器(4)／②ＳＡ104出土土器(1)／③ＳＡ104出土土器(2)／ …… 245
④ＳＡ104出土土器(3)／⑤ＳＡ106出土土器(1)／⑥ＳＡ106出土土器(2)／
⑦ＳＡ107出土土器(1)／⑧ＳＡ107出土土器(2)／⑨ＳＡ109出土土器／
⑩ＳＡ111出土土器／⑪ＳＡ114出土土器(1)／⑫ＳＡ114出土土器(2)
写真図版38 ①ＳＡ114出土土器(3)／②ＳＡ114出土土器(4)／③ＳＡ115出土石器／ …… 246
④ＳＣ25出土土器(1)／⑤ＳＣ25出土土器(2)／⑥ＳＣ25出土土器(3)／
⑦ＳＣ25出土土器(4)／⑧ＳＣ25出土土器(5)／⑨ＳＣ25出土土器(6)／
⑩ＳＣ25出土土器(7)／⑪Ｄ区包含層出土土器(1)／⑫Ｄ区包含層出土土器(2)
写真図版39 ①Ｄ区包含層出土土器(3)／②Ｄ区包含層出土土器(4)／
③Ｄ区包含層出土土器(5)／④Ｄ区包含層出土土器(6)／

⑤D区包含層出土土器(7)／⑥D区包含層出土土器(8)／
⑦D区包含層出土土器(9)／⑧D区包含層出土土器(10)／
⑨SA116出土土器(1)／⑩SA116出土土器(2)／
⑪SA116出土土器(3)／⑫SA116出土土器(4)
写真図版40 ①SA116出土土器(5)／②SA117出土土器(1)／③SA117出土土器(2)／ …… 248
④SA117出土土器(3)／⑤SA117出土土器(4)／⑥SA117出土土器(5)／
⑦SA117出土土器(6)／⑧SA119出土土器(1)／⑨SA119出土土器(2)／
⑩SA120出土土器(1)／⑪SA120出土土器(2)／⑫SA120出土土器(3)
写真図版41 ①SC26出土土器／②SC29出土土器(1)／③SC29出土土器(2)／ …… 249
④SC30出土土器／⑤F区包含層出土土器(1)／⑥F区包含層出土土器(2)／
⑦F区包含層出土土器(3)／⑧F区包含層出土土器(4)／
⑨F区包含層出土土器(5)／⑩F区包含層出土土器(6)／
⑪F区包含層出土土器(7)
写真図版42 ①F区包含層出土土器(8)／②F区包含層出土土器(9)／ …… 250
③F区包含層出土土器(10)／④F区包含層出土土器(11)／
⑤F区包含層出土土器(12)／⑥F区包含層出土土器(13)／
⑦F区包含層出土土器(14)／⑧F区包含層出土土器(15)／
⑨F区包含層出土土器(16)／⑩F区包含層出土土器(17)／
⑪F区包含層出土土器(18)／⑫F区包含層出土土器(19)
写真図版43 ①96号竪穴住居跡出土鳥龍文鏡(1)（表面）／ …… 251
②96号竪穴住居跡出土鳥龍文鏡(2)（裏面）／
③A区出土線刻をもつ弥生土器／
④出土鉄器（鉄鏃・刀子）／⑤出土装飾品
写真図版44 ①山石器時代石器(1)（ナイフ形石器・尖頭器）／ …… 252
②旧石器時代石器(2)（削器・細石刃核）／③縄文時代石器(1)（打製石鏃）／
④縄文時代石器(2)（打製石鏃）／⑤縄文時代土器

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

農業試験場本場果樹園整備事業は，農業試験研究機関が21世紀の本県農業および農業関連産業の技術革新を先導する機関として，多様化・高度化するニーズに的確に対応し得るよう，本県農業研究の拠点機関である総合農業試験場本場の研究機能の充実強化を図る一環として計画された事業である。

この計画を受けて県教育委員会文化課では，平成９年度から事業を担当する農政水産部農政企画課と協議を行い，平成12年度工事発注箇所を平成11年度に調査（第１次調査）を行うこととし，第１次調査分を平成11年６月16日に試掘調査を実施した。その結果，多くの弥生時代の遺物が出土し，遺構の存在が確認され，記録保存の措置を執ることとなった。

第１次調査は，当初，6,000㎡の調査対象面積を，平成11年11月15日から平成12年３月31日までのおよそ４か月半を計画していたが，予想以上の遺構・遺物出土のため，新たに平成12年４月18日から同年５月31日まで期間延長して調査を実施した。

平成13年度工事発注箇所は，平成13年８月に試掘調査を実施した。その結果，第１次調査に匹敵する遺構・遺物の存在が確認され，第２次調査として記録保存の措置を執ることとなった。第２次調査は，調査対象面積5,700㎡を平成13年８月20日から平成14年２月28日まで実施した。

第２節　調査の組織

下那珂遺跡の発掘調査及び整理・報告書作成作業は下記の組織で実施した。

調査主体　宮崎県教育委員会

調査機関　宮崎県埋蔵文化財センター

（平成11年度）

下那珂遺跡第１次発掘調査(1)

所長	田中　守
副所長	江口　京子
庶務係長	児玉　和昭
調査第二係長	青山　尚友
同主査	鈴木　健二
同主事	高橋　誠
同主事	口高　広人
同調査員	安楽　哲史

（平成12年度）

下那珂遺跡第1次発掘調査(2)

所長	矢野　剛
副所長兼総務課長	菊地　茂仁
副所長兼調査第二課長	岩永　哲夫
総務課総務係長	亀井　維子
調査第二課調査第二係長	菅付　和樹
同課調査第二係主事	甲斐　貴充
同調査員	安楽　哲史
同課調査第四係調査員	堀田　孝博
同調査員	松永　幸寿

（平成13年度）

下那珂遺跡第２次発掘調査・遺物整理

所長	矢野　剛
副所長兼総務課長	菊地　茂仁
副所長兼調査第二課長	岩永　哲夫
総務課総務係長	亀井　維子
調査第二課調査第三係長	菅付　和樹
同　主任主事	田中　光
同　主任主事	甲斐　貴充
同　調査員	古屋　美樹

（平成14年度）

下那珂遺跡　遺物整理

所長	米良　弘康
副所長兼総務課長	大薗　和博
副所長兼調査第二課長	岩永　哲夫
総務課総務係長	野邊　文博
調査第二課調査第三係長	菅付　和樹
同　主任主事	甲斐　貴充

（平成15年度）

下郡珂遺跡　遺物整理・報告書作成

所長	米良　弘康
副所長兼総務課長	大薗　和博
副所長兼調査第二課長	岩永　哲夫
総務課総務係主幹兼係長	石川　恵史
調査第二課調査第三係長	菅付　和樹
同　主任主事	甲斐　貴充

第３節　遺跡の位置と環境（第１図）

下那珂遺跡（第１図－１）は，宮崎郡佐土原町大字下那珂字峯前に所在する。遺跡は，佐土原町南端の宮崎市との境界付近にあり，石崎川左岸の標高約42mの城ヶ峰台地南端上に位置する。城ヶ峰台地は，標高約60mと高くはないものの宮崎平野との比高差が大きく，平野部から見れば突出した岬のようである。台地南端にある本遺跡からは，宮崎平野の北部が一望に見渡せる。この城ヶ峰台地を中心とする周辺には多くの遺跡が点在する。以下，簡単ではあるが，周辺遺跡の概要を述べる。

城ヶ峰台地上には下那珂貝塚（縄文～弥生時代：文献①・②）・陳肪城跡（中世：第１図－２・文献③）が，台地の斜面上には城ヶ峰横穴墓群（古墳時代後期：第１図－３・文献③・④）が点在する。下那珂貝塚は，地元高校生によって線刻の飛鳥が描かれている壺形土器と滑石製紡錘車が発見され，遺跡の存在が確認された。昭和42年には，宮崎県教育委員会によって調査が行われ，貝塚１・竪穴住居跡１軒をはじめ多数の弥生土器片や石庖丁などの石器類が確認された（文献①・②）。

また，城ヶ峰台地北側の佐土原町側には，中溝遺跡（弥生時代～中世：・第１図－４・文献⑤）・平村遺跡（縄文時代～中世：第１図－５・文献③）・尾原遺跡（弥生時代～中世：第１図－６・文献③）・小平遺跡（弥生時代：第１図－７・文献③）・小牧遺跡（中近世：第１図－８・文献⑥）・下ノ山遺跡（弥生時代～中世：第１図９・文献⑦）・広瀬村古墳群（古墳時代）・土器田横穴墓群（古墳時代：第

1図－10・文献⑧・⑨）・下那珂馬場古墳（古墳時代・第1図－11・文献⑩）・堤下遺跡（弥生～古墳時代：第1図－12・文献⑪）・伊賀給遺跡（弥生時代～中世：第1図－13・文献⑫）などがある。特に，中溝遺跡（文献④）は，1972年（昭和47年）に一ッ葉有料道路建設工事に伴い発掘調査が行われ，土坑や竪穴住居跡1軒のほか，弥生時代後期前半に比定される土器片が検出された。「中溝式土器」の標識遺跡である。土器田横穴墓群（文献④・⑧・⑨）は，133基から成る横穴墓群であり，6世紀中頃から8世紀にかけて造営されたと考えられている。1975年～1982年まで3回合計7基の発掘調査が実施され，須恵器・土師器・鉄鏃・馬具など数多くの副葬品が検出された。中でも土器田東1号横穴墓は，玄室内部において線刻壁画が確認され，特筆すべきものがある。下那珂馬場古墳は，広瀬古墳群の一つである。未調査ではあるが，全体的な墳形を残しており，推定墳長約70mの前方後円墳である。城ヶ峰台地南側の宮崎平野側には，弥生時代後期前半の袋状口縁壺形土器が出土した西片瀬原遺跡（弥生時代：第1図－14・文献④・⑬），弥生時代～中近世の土器・石器・陶磁器類や水田跡が確認された保木下遺跡（弥生時代～中近世：第1図－15・文献⑭）・住吉古墳群（古墳時代・第1図－16・文献④）がある。住吉古墳群は，本来，3基の前方後円墳から構成されていたが，現在残っているのは住吉1号墳（墳長約67m）の1基だけである。

このように，下那珂遺跡を取り巻く地域には数多くの遺跡が点在する。注目すべきは弥生時代後期から古墳時代にかけての遺跡が多いことである。これは，弥生時代後期～古墳時代，当地が付近の平野部を豊かな生産基盤背景として，組織的な社会集団を形成していたことを想起させるものである。下那珂遺跡は，そうした一連の遺跡群の中でも規模の大きな集落遺跡であり，周辺地域の中核の一つを担っていたと考えられる。

【 参考文献 】

文献①：石川恒太郎・栗原文蔵1968「宮崎市外佐土原町下那珂弥生遺跡」『九州考古学』33・34号九州考古学会

文献②：宮崎県総合博物館1988『埋蔵文化財調査研究報告Ⅱ 下那珂貝塚』

文献③：佐土原町教育委員会1991「佐土原町遺跡詳細分布調査報告書」『佐土原町文化財調査報告書第5集』

文献④：宮崎県1992『宮崎県史』資料編考古1

文献⑤：宮崎県道路公社1972『佐土原中溝遺跡調査報告書』

文献⑥：佐土原町教育委員会2003「小牧遺跡」『佐土原町文化財調査報告書第25集』

文献⑦：佐土原町教育委員会2003「下ノ山遺跡」『佐土原町文化財調査報告書第26集』

文献⑧：佐土原町教育委員会1982「土器田西横穴墓群」『佐土原町文化財調査報告書第2集』

文献⑨：佐土原町教育委員会1983「土器田東横穴墓群(2)・東1号横穴墓保存措置報告」『佐土原町文化財調査報告書第3集』

文献⑩：近藤義郎編 2000「下那珂馬場古墳」『前方後円墳集成』補編 角川書店

文献⑪：佐土原町教育委員会1999「堤下遺跡」『佐土原町文化財調査報告書第17集』

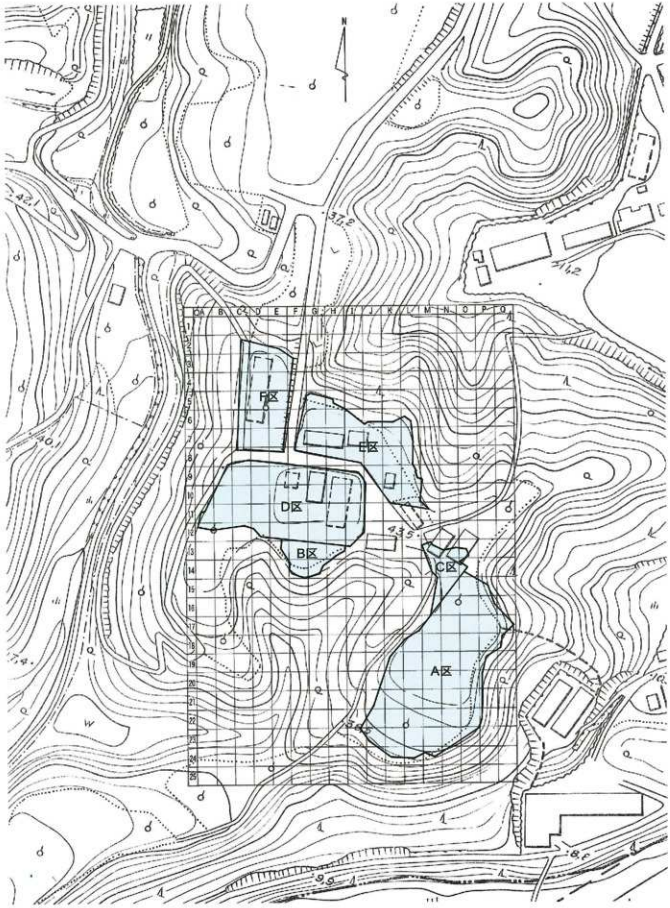
文献⑫：佐土原町教育委員会1999「伊賀給遺跡」『佐土原町文化財調査報告書第14集』

文献⑬：出中茂1974「宮崎県出土の丹彩袋状口縁壺形土器について」『研究紀要』3宮崎県総合博物館

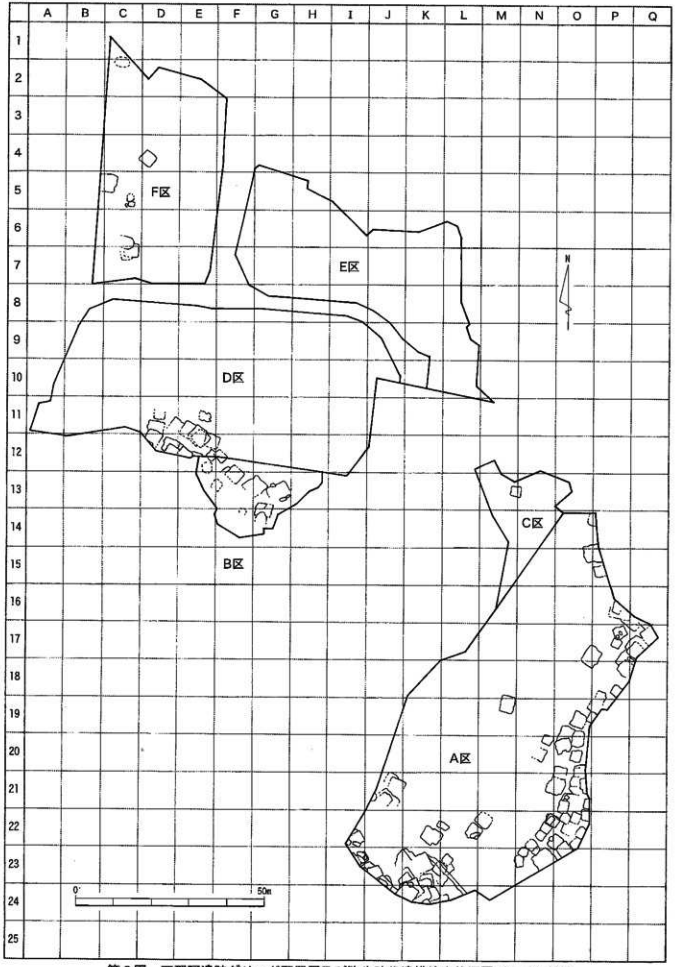
文献⑭：宮崎県教育委員会1986『保木下遺跡』

1．下那珂遺跡　2．諏訪城跡　3．城ヶ峰横穴墓群　4．中溝遺跡　5．平村遺跡　6．尾原遺跡
7．小平遺跡　8．小牧遺跡　9．下ノ山遺跡　10．土器田横穴墓群　11．下那珂馬場古墳
12．堤下遺跡　13．伊賀給遺跡　14．西片瀬原遺跡　15．保木下遺跡　16．住吉古墳群

第１図　下那珂遺跡の位置と周辺遺跡図（１／25,000）



第２図　下那珂遺跡周辺地形図（１／2,000）



第３図　下那珂遺跡グリッド配置図及び弥生時代遺構検出状況図（１／1,200）

第Ⅱ章　調査の概要

第１節　調査の経過と概要（第３図）

下那珂遺跡の調査面積は12,320㎡である。果樹園造成工事の工程上，平成11・12年度の一次調査（5,670㎡）と平成13年度の二次調査（6,650㎡）の２回に分けて調査を行った。また，調査の工程上，調査区域をAからFの６区画に分割した。各調査区域の内訳は，一次調査分がA区（4,800㎡）・B区（450㎡）・C区（420㎡）であり，二次調査分がD区（3,200㎡）・E区（1,950㎡）・F区（1,500㎡）である。

一次調査（平成11年11月～平成12年５月）では，調査区の南東側A・C区・北西部南端のB区に着手した。まず，重機により基本層序第Ⅰ層の耕作土を除去したところ，耕作土及び基本層序第Ⅱ～Ⅲ層より多量の弥生土器片をはじめ，磨製石器類（石庖丁・磨製石鏃・石斧・砥石）・縄文土器（貝殻条痕文系）・細石刃核・打製石器（石鏃・削器・石核・剥片）など旧石器～弥生時代の遺物が出土した。次に，調査区の大部分がアワオコシスコリア堆積層まで削平されていたが，第Ⅳ層上部で精査を行った。精査の結果，弥生時代の竪穴住居跡群・弥生時代の土坑・縄文時代の集石遺構・縄文時代の炉穴・時期不明のピット多数・時期不明の掘立柱建物といった遺構群が検出された。各遺構を掘り下げたところ，弥生土器・石器・鉄器・銅鏡片が確認された。竪穴住居跡は，台地辺縁部に集中し，互いに重なりながら，不確定なものも含め合計102軒にのぼった。

平成12年５月，第Ⅳ層の調査終了後，A区の南側（約400㎡）にて第Ⅵ層の検出を行った。検出作業の結果，遺構として縄文時代早期の集石遺構１基，遺物として縄文早期土器片・細石刃や剥片などの石器類が確認された。

二次調査（平成13年８月～平成14年２月）では，平成13年の８月から調査区北西側のD区に着手した。D区の調査区の基本層序第Ⅰ層の耕作土を除去したところ，B区と隣接する南側では弥生土器片が数多く検出されたが，他の場所からはあまり検出されなかった。第Ⅰ層除去後，人力によって第Ⅱ～Ⅲ層の掘り下げを行った。さらに第Ⅳ層上面で精査を行ったところ，遺構としては時期不明のピット多数・弥生時代の竪穴住居跡15軒・縄文時代早期の炉穴跡１基，遺物としては多量の弥生土器・石器・縄文土器・石器が調査区南側からほぼ同レベルで検出された。これは，本来斤陵地であったD区が削平されていたことを示している。また，南側以外の大部分では，基本層序の第Ⅷ層のアワオコシスコリアの堆積層が検出された。

D区の調査と平行しつつ，平成13年12月からE区とF区の調査に着手した。第Ⅰ層を重機により除去した結果，E区とF区東側は，D区の大部分と同じくアワオコシスコリア堆積層まで削平されていた。F区の西側は，第Ⅱ層以下が残っており，第Ⅳ層上面で精査を行ったところ，遺構としては弥生時代の竪穴住居跡３軒・時期不明の土坑数基・縄文早期の炉穴跡１基が，遺物としては弥生時代の多量の土器・石器類が検出された。

E区東端山地部分では，第Ⅰ～第Ⅵ層までが薄く堆積しており，層別の検出作業が困難であった。表土を重機により除去した後に，人力で掘り下げを行ったところ，遺構としては時期不明の溝状遺構１条，遺物としては縄文土器・弥生土器・石器類が検出された。

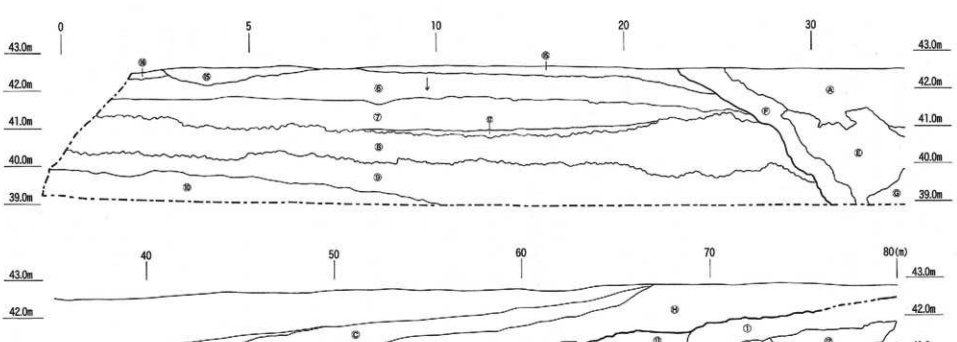
一次・二次の調査をとおして，弥生時代の竪穴住居跡120軒と土坑30基・縄文時代の集石遺構２基と炉穴４基・時期不明のピット多数，コンテナ450箱を超す弥生土器を中心とする多量の遺物が確認され，本遺跡が現在のところ宮崎県域最大級の弥生時代後期集落の一つであることがわかった。

現地での記録図面作成のため，両年度を通じて国土座標（ＸＹ座標）に乗じた共通の10mグリッドを設置した。更にこのグリッドを利用して，南北方向は北から南へ１～25・東西方向は西から東へＡ～Ｑに区画し，この２つの組み合わせで区画（例えば「Ｆ13区」・「Ｐ17区」など）を設定した。以後の文章にこの区画を用いることとする。

第２節　遺跡の基本層序

下那珂遺跡は，従来の丘陵地形が削平されていたので，不安定な堆積状況を呈し，上から下まで基本的な層序を形成する場所が少なく，場所によって堆積状況が大きく異なる。しかし，部分的に確認される層位を繋ぎ合わせると以下のようになる。主な遺物・遺構包含層は，弥生時代の第Ⅳ層，縄文時代早期の第Ⅵ層である。

第Ⅰ層	基本層序第Ⅰ層…明褐色土（Hue 2.5Y3/1～2/1）。土質はやわらかく，含有物は少ない。表土もしくは耕作土である。
第Ⅱ層	基本層序第Ⅱ層…黒色土（Hue 10YR3/1～2/1）。第Ⅰ層同様，土質はやわらかく，含有物は少ない。
第Ⅲ層	基本層序第Ⅲ層…黒褐色土（Hue10YR3/2～2/2）。土のかたさは普通。第Ⅱ層と第Ⅳ層の漸移的な層と考えられる。
第Ⅳ層	基本層序第Ⅳ層…暗褐色土（Hue 10YR3/3～3/4）。土のかたさは普通。少ししまりがなくボロボロしている。弥生土器片を多く含む。弥生時代中心の包含層と考えられる。
第Ⅴ層	基本層序第Ⅴ層…黄褐色土（Hue 10YR5/6～4/4）。アカホヤ火山灰の二次的堆積物と考えられる。
第Ⅵ層	基本層序第Ⅵ層…褐色土（Hue 10YR5/1～4/1）。土のかたさは普通。少ししまりがなく，乾燥するとボロボロする。縄文早期土器を多く含む。縄文時代早期の包含層と考えられる。
第Ⅶ層	基本層序第Ⅶ層…黄灰色土（Hue 10YR6/6～6/8）。きめ細やかなローム層である。粘性も少しあるが，ザラザラもしている。ＡＴ火山灰の風化層と考えられる。
第Ⅷ層	基本層序第Ⅷ層…黄橙色土（Hue 7.5YR5/6）。非常にかたくしまっている。径１cm以下の微細な軽石を多く含む。アワオコシスコリア層と考えられる。
第Ⅸ層	基本層序第Ⅸ層…淡黄色土（Hue 2.5Y8/4）。非常に硬くしまっている。イワオコシスコリア層と考えられる。
第Ⅹ層	基本層序第Ⅹ層…礫層。径２～10cm程度の円礫から成る層である。



①**黒褐色土**(Hue 10YR-3/2)…基本層序の第Ⅲ層。／②**暗褐色土**(Hue 10YR-3/4)…基本層序の第Ⅳ層。弥生土器を含む。／③**黄褐色土**(Hue 10YR-5/6)…基本層序の第Ⅴ層。アカホヤ火山灰堆積層。／④**褐色土**(Hue 10YR-4/1)…基本層序の第Ⅵ層。縄文土器を含む。／⑤**黄灰色土**(Hue 10YR-6/8)…基本層序の第Ⅶ層。／⑥**黄橙色土**(Hue 7.5YR-5/6)…基本層序の第Ⅷ層。アワオコシスコリア層。／⑦**淡黄色土**(Hue 2.5Y-8/4)…基本層序の第Ⅸ層。イワオコシスコリア層。／⑧**礫層**(Hue 10YR-4/1)…基本層序の第Ⅹ層。径2～10cmの円礫から構成される。／⑨**淡黄橙粘質土**(Hue 10YR-8/3)…しまりがあり硬質な粘質土。右下方向に傾斜している。／⑩**明青灰粘質土**(Hue 5B～5PB)…しまりがあり硬質な粘質土。／⑪**黒色土**(Hue 2.5Y-2/1)…しまりなく柔らかい。／⑫**暗褐色土**(Hue 10YR-4/4)…弥生時代の遺構埋土の可能性がある。／⑬**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…④層と⑤層の漸移的な層の可能性がある。遺物は含まない。／⑭**黒褐色土**(Hue 10YR-3/1)…①層に似ているが③層の黄褐色土ブロックが混入する。／⑮**褐灰色土**(Hue 10YR-5/1)…後世の撹乱土。／⑯**黒褐色土**(Hue 5YR-2/2)…後世の耕作土。／⑰**にぶい黄橙色土**(Hue 10YR-6/3)…構成土はきめ細かい。／Ⓐ～Ⓗ…後世の造成土。木材片や弥生土器片が多く含まれる。

第４図　土層堆積状況図〈Ｄ区南壁〉（１／100）

第３節　下那珂遺跡における土器分類

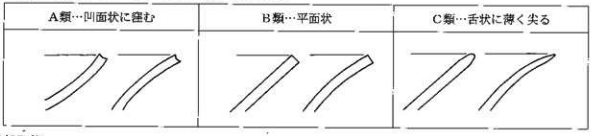
本遺跡において，主に弥生時代後期から終末期に属すると考えられる多くの弥生土器が出土した。その多くは竪穴住居跡や土坑といった遺構，もしくは基本層序の第Ⅰ層から第Ⅳ層の包含層から出土した。以後本報告書の記述は遺構や出土区毎に区切られるため，記述するにあたり全体の表現統一を図る必要がある。

ここでは，まず器種を大別（甕・壺・高坏・鉢・その他）し，さらに各器種において表れる特徴を示す各部の形態差により数類に細分する。

■甕…口唇部・口縁部（頸部形態も含む）・胴部・底部の各形態の組合せによって大きく甕Ⅰ類～甕Ⅲ類に分類した。甕各部の形態分類及び甕の分類状況は以下のとおりである。

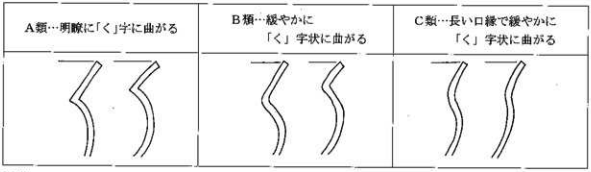
口唇部形態

主に断面の形状によってA～Cの３類に分類する。



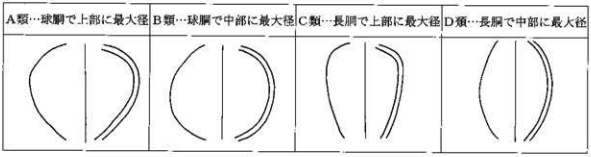
口縁部形態

口縁部から頸部にかけての屈曲形状によってA～C類の３類に分類する。

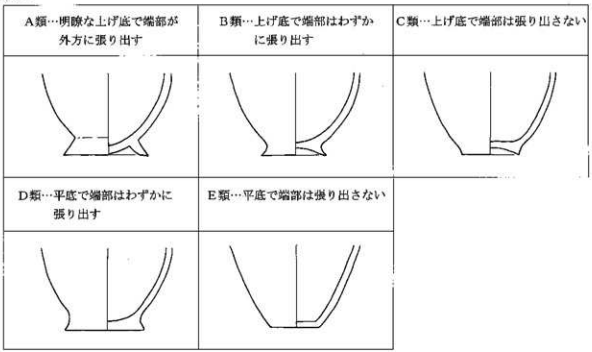


胴部形態

胴部の形状によってA～D類の４類に分類する。



底部形態



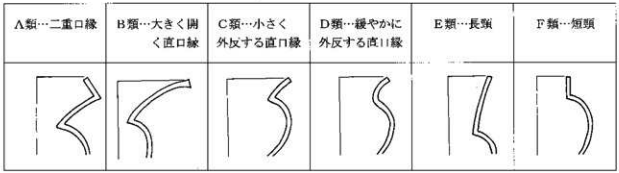
甕Ⅰ類…口唇部は凹面（口唇部形態A類）または平面（口唇部形態B類）で口縁部が狭い。口縁部は明確な「く」字状に曲がり，胴部との明瞭な境界線がある（口縁部形態A類）。底部は平底か上げ底で端部が外方にわずかに張り出すものが多い。（底部形態B・D類）。

甕Ⅱ類…口唇部はやや丸みがある（口唇部形態C類）が平面に近い（口唇部形態B類）。口縁部は緩やかに「く」字状に曲がり，胴部との明瞭な境界線はない（口縁部形態B類）。底部はやや上げ底で端部が張り出すもの（底部形態B類）や，やや上げ底で端部が張り出さないもの（底部形態C類），平底で端部が張り出す（底部形態D類）ものが多い。

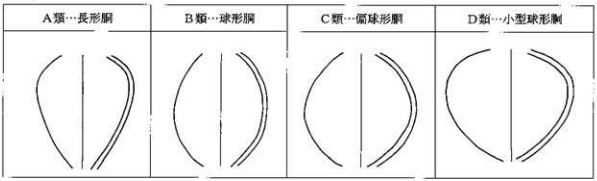
甕Ⅲ類…口唇部は先細りが認められる（口唇部形態C類）。口縁部は緩やかに「く」字状に曲がり，胴部との明瞭な境界線はない（口縁部形態B類）。断面はやや丸みがある。底部は小さく，平底でわずかに張り出すもの（底部形態D類）や張り出しのないもの（底部形態E類）がある。器面調整に平行タタキを用いるのもこの段階である。

■壺（二重口縁壺・直口縁壺・長頸壺）…口縁部・胴部・底部の各形態の組合せによって大きく壺Ⅰ類～壺Ⅵ類に分類した。壺各部の形態分類及び壺の分類状況は以下のとおりである。

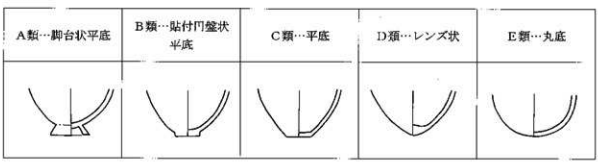
口縁部形態



胴部形態



底部形態



壺Ⅰ類…二重口縁壺。口縁部は二重口縁（口縁部形態A類）。胴部形態は長形胴（胴部形態A類）・球形胴（胴部形態B類）が多い。底部はレンズ状（底部形態D類）か丸底（底部形態E類）のものが多い。

壺Ⅱ類…直口縁壺（1）。口縁部は大きく開きながら外反する直口縁（口縁部形態B類）。胴部形態は長形胴（胴部形態A類）・球形胴（胴部形態B類）が多い。底部は貼付円盤状平底（底部形態B類）・レンズ状（底部形態D類）・丸底（底部形態E類）が多い。

壺Ⅲ類…直口縁壺（2）。口縁部は短く小さく外反する直口縁（口縁部形態C類）。胴部形態は長形胴（胴部形態A類）・球形胴（胴部形態B類）が多い。底部は貼付円盤状平底（底部形態B類）・レンズ状（底部形態D類）・丸底（底部形態E類）が多い。

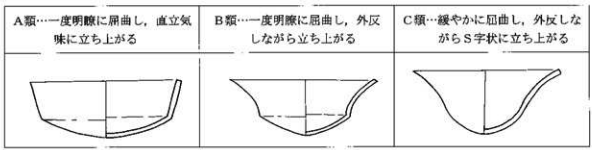
壺Ⅳ類…直口縁壺（3）。口縁部は頸部から緩やかに伸びながら外反する直口縁（口縁部形態D類）。胴部形態は長形胴（胴部形態A類）が多い。底部は貼付円盤状平底（底部形態B類）・レンズ状（底部形態D類）・丸底（底部形態E類）が多い。

壺Ⅴ類…長頸壺。口縁部は長頸（口縁部形態E類）。胴部形態は球胴形（胴部形態B類）か偏球形胴（胴部形態C類）が多い。底部はレンズ状（底部形態D類）か丸底（底部形態E類）のものが多い。

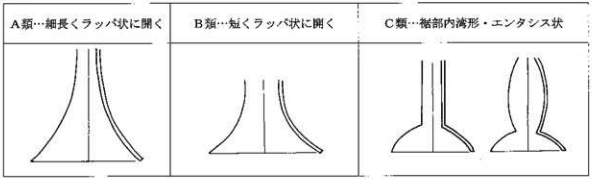
壺Ⅵ類…短頸壺。口縁部は直立気味の短頸（口縁部形態F類）。胴部形態は小型の球形胴（胴部形態B類）や偏球形胴（胴部形態C類）が多い。底部はレンズ状（底部形態D類）か丸底（底部形態E類）のものが多い。

■**高坏**…坏部・脚部の各形態の組合せによって大きく高坏Ⅰ類～高坏Ⅲ類に分類した。高坏各部の形態分類及び高坏の分類状況は以下のとおりである。

坏部形態



脚部形態



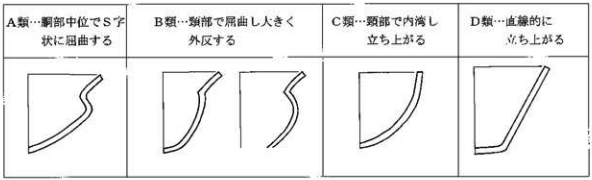
高坏Ⅰ類…坏部は一度明瞭に屈曲し直立気味に立ち上がる（坏部形態A類）。脚部は細長くラッパ状に開くもの（脚部形態A類），短くラッパ状に開くもの（脚部形態B類）が多い。

高坏Ⅱ類…坏部は一度明瞭に屈曲し緩やかに外反しながら立ち上がる（坏部形態B類）。脚部は細長くラッパ状に開くもの（脚部形態A類），短くラッパ状に開くもの（脚部形態B類）が多い。

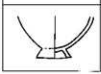
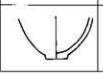
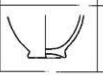
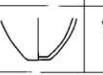
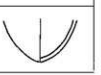
高坏Ⅲ類…坏部は緩やかに屈曲し外反しながら立ち上がる（坏部形態C類）。脚部は短くラッパ状（脚部形態B類）と裾部内湾形・エンタシス状（脚部形態C類）が多い。

■**鉢**…大きく浅鉢と深鉢に分ける。浅鉢（鉢Ⅰ類）と深鉢（鉢Ⅱ類）はそれぞれ口縁部～胴部の形態と底部形態によって細分する。

胴部形態（口縁部・頸部形態を含む）



底部形態

A類…脚台付き平底	B類…貼付円盤状平底	C類…張り出しをもつ上底	D類…丸底	E類…平底	F類…尖底
					

鉢Ⅰ類…浅鉢タイプ。胴部・底部形態によって鉢ⅠA類～鉢ⅠD類に細分する。

鉢ⅠA類…胴部中位でS字状に屈曲する（胴部形態A類）。底部は貼付円盤状平底（底部形態B類）や丸底（底部形態D類）が多い。

鉢ⅠB類…頸部で屈曲し大きく外反する（胴部形態B類）。底部は貼付円盤状平底（底部形態B類）や丸底（底部形態D類）が多い。

鉢ⅠC類…頸部で内湾しながら立ち上がる（胴部形態C類）。底部は丸底（底部形態D類）や平底（底部形態E類），尖底（底部形態F類）が多い。

鉢ⅠD類…底部から直線的に広がりながら立ち上がる（胴部形態D類）皿状のタイプである。底部は貼付円盤状平底（底部形態B類）・張り出しをもつ上げ底（底部形態C類）・平底（底部形態E類）が多い。

鉢Ⅱ類…深鉢タイプ。胴部・底部形態によって鉢ⅡA類・鉢ⅡB類に細分する。

鉢ⅡA類…頸部で屈曲し大きく外反する（胴部形態B類）。底部は脚台付き平底（底部形態A類）や貼付円盤状平底（底部形態B類）が多い。

鉢ⅡB類…頸部で内湾しながら立ち上がる（胴部形態C類）。底部は貼付円盤状平底（底部形態B類）や丸底（底部形態C類）が多い。

鉢ⅡC類…底部から直線的に広がりながら立ち上がる（胴部形態D類）。底部は張り出しをもつ上げ底（底部形態C類）・平底（底部形態E類）が多い。

第４節　下那珂遺跡における石器分類と包含層出土石器　（第５図～第33図）

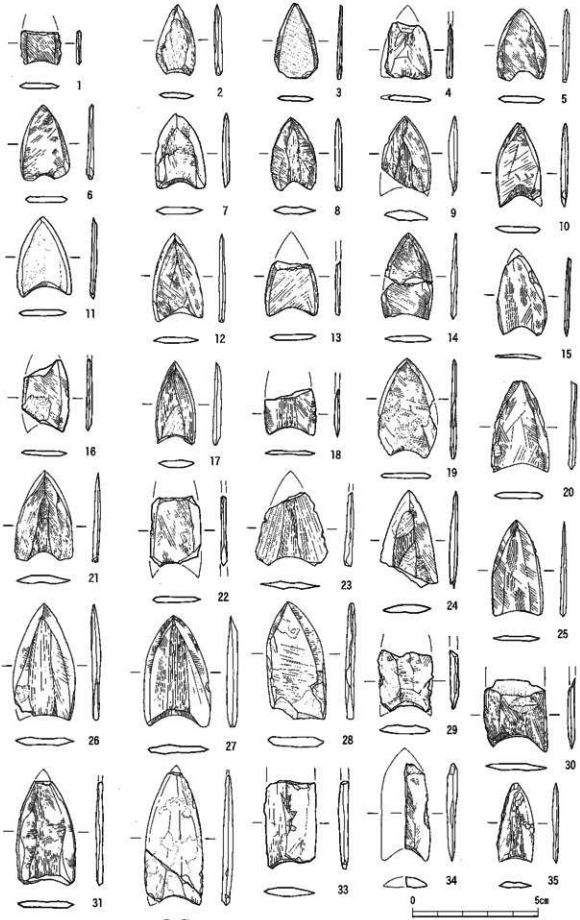
遺物の多くは，竪穴住居跡や土坑などの遺構，もしくは基本層序の第Ⅰ層から第Ⅳ層の包含層から出土した。遺物，特に石器については，その多くが弥生時代に帰属すると考えられるが，削器や蛤形剥片石器などの一部の打製石器は縄文時代に帰属すると考えられ，時期区分が難しい。ここでは，あえて時代別にすることなく，器種別に述べることとする。なお，明らかに弥生時代以前に属すると考えられる遺物（縄文土器・細石刃・ナイフ形石器など）は後に別項「第６節旧石器時代～縄文時代の調査」を設けて記述する。なお，個々の石器の計測値については巻末の「石器計測表（第４表～第11表）」に記載している。

■磨製石鏃（第５図・第６図－１～47・遺構出土－413・428・500・501・506・559・601・611・619・657・682・862・901・1024・1141）…磨製石鏃は包含層出土の47点と遺構出土の15点の計62点が出土した。磨製石鏃の分類は，一般的な分類の基準として基部と基辺の形状が挙げられる。基部形状として，茎の有無が挙げられるが，本遺跡出土磨製石鏃は全て無茎である。基辺形状は，わずかに平基を含むが，その多くが凹基である。長さは2.8～5.8cm，平面形態は水滴形や砲弾形と多少のばらつきはあるが，比較的まとまった形状を呈する。しかし，こうしたまとまりから若干逸脱したタイプもある。40・41・47は側縁に明瞭な刃部を設けず棒状のタイプである。46は側縁を一度緩やかに屈曲させるタイプである。45は基辺形状が平基型で中央に鏑をもつタイプである。

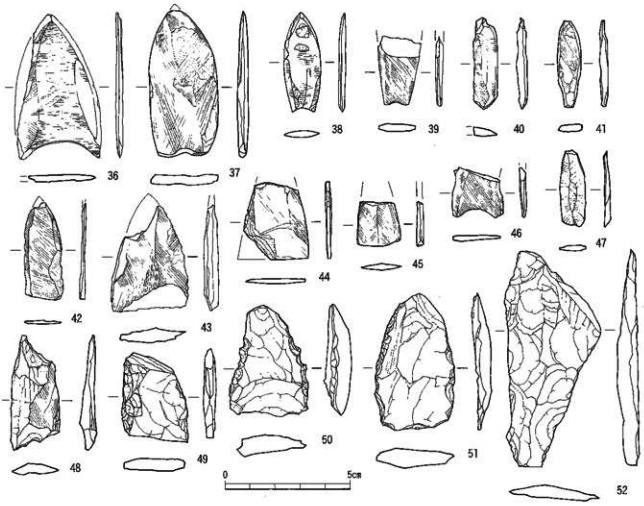
使用石材はほとんどが頁岩もしくはホルンフェルスである。特に緑色の頁岩が多く，磨製石鏃62点中34点（55%）と半数近くを占める。また，ほとんどが部分的な微細な欠け程度の完形であり，半分以上欠けているような欠損品は少ない。欠損箇所は先端の切っ先部分（32/62点）が多く，使用の痕跡が認められる。

■磨製石鏃未製品（第６図－48～52・遺構出土－364）…いずれも頁岩製であり，ほとんど全て緑色頁岩製である。周縁に微細な剥離をもつ尖頭状石器や削器的な加工剥片石器とも考えられるが，用材である緑色頁岩が磨製石鏃に多用されていることから，磨製石鏃未製品と考えられる。48は表面の一部と裏面側縁の一部に研磨痕が確認できる。欠損品というよりもむしろ製作途中品か失敗品ではなかろうか。49～51は周縁に微細な剥離を施しており，石鏃の原型を形作ったと考えられる。52は長さ8.8cmの剥片で，他と同じく周縁に微細な剥離を施している。36・37のようなやや大型の磨製石鏃用と考えられる。

■石庖丁（第７図～第13図－53～172）…石庖丁は，一部重複するかもしれないが，包含層出土120点と遺構出土23点の計143点が出土した。本遺跡出土の石庖丁は，一部の打製を除き，その多くが磨製である。しかしながら，平面形態にいくつかのヴァリエイションがあり，大きくⅠ～Ⅴ類（Ⅰ類…穿孔しているが両側端に抉りをもたない・Ⅱ類…両側端に抉りをもつが穿孔はない・Ⅲ類…穿孔と両側端の抉りを両方もつ・Ⅳ類…打製・Ⅴ類…その他）に大別できる。さらに各類は上縁の背部と下縁の刃部によってA～D類（A類…弧背直刃，B類…直背弧刃，C類…直背直刃，D類…弧背弧刃）に細分できる。ただし，下縁の刃部形態は研ぎ直しなどにより，製作当初より変形する可能性があるので，必ずしも有効



第５図　包含層出土石器(1)〈磨製石鏃①〉（２／３）



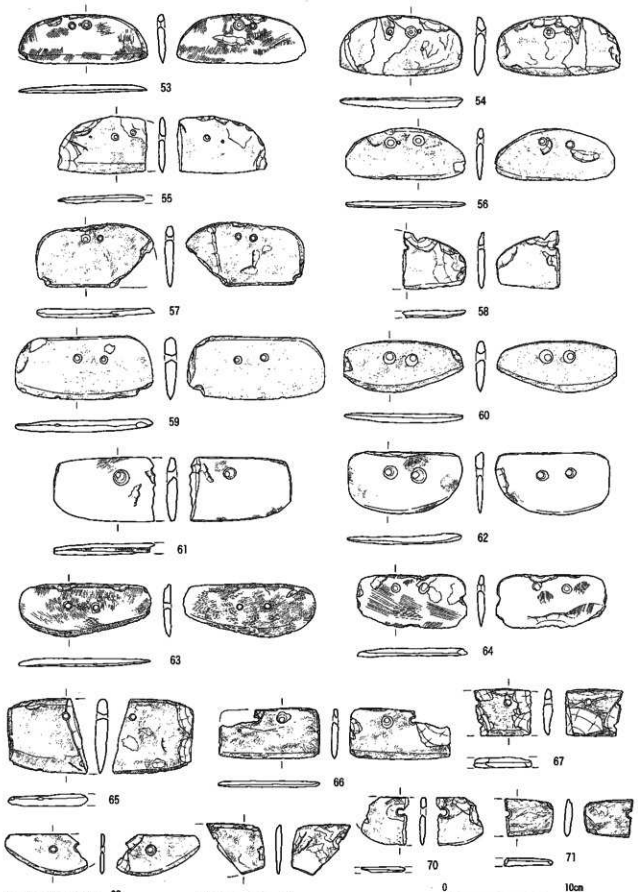
第６図　包含層出土石器(2)〈磨製石鏃②・磨製石鏃未製品〉（２／３）

な分類基準となり得ないかもしれない。主たる使用石材は頁岩・ホルンフェルス・砂岩の堆積岩系である。以下にⅠ～Ⅴ類の大分類とA～D類の小分類の組合せによる本遺跡の石庖丁分類を示す。また，ここで用いる「全長」は側縁間，「幅」は背部と刃部間，「紐間」は２つの穿孔間の値を示す。

ＩＡ類「穿孔・弧背直刃型」(53～59・431)…穿孔あり・抉りなし・背部弧状・刃部直線状の特徴をもつ。頁岩とホルンフェルスを主石材とする。53～56・58は背部が半円状を描くが，57・59は隅丸方形状を呈し，ＩＣ類（直背直刃タイプ）との中間形態的要素をもつ。55は２つの穿孔が認められるが，そのうち１つが未貫通である。側縁に抉りもなく，何のための穿孔なのか疑問が残る。

ＩＢ類「穿孔・直背弧刃型」(60～64・68)…穿孔あり・抉りなし・背部直線状・刃部弧状の特徴をもつ。60は頁岩製で平面杏仁形を呈する。61・62はホルンフェルス製で平面形態が隅丸方形状を呈する。64は頁岩製で一側縁に抉りがあり，２つの穿孔がある。１つの穿孔は穿ち直した痕跡がある。

ＩＣ類「穿孔・直背直刃型」(65～67・69～71・905)…穿孔あり・抉りなし・背部直線状・刃部直線状の特徴をもつ。全て頁岩製である。このタイプは他のタイプに比べて周縁の調整・表裏面の器面調整が丁寧な印象をうける。65は幅が5.8cmと広く，大型の石庖丁である。66は四つ角が直角に近く，きれ



第７図　包含層出土石器(3)〈石庖丁①－ＩＡ類・ＩＢ類・ＩＣ類〉（1／3）

いな長方形を呈する。

ⅡA類「抉り・弧背直刃型」(72～83・476・613)…穿孔なし・抉りあり・背部弧状・刃部直線状の特徴をもつ。頁岩とホルンフェルスを主石材とする。76・77は全体に研磨が施されているが，所々に打製による剥離跡が残る。80・83は小型である。他のものが全長７～９cm前後であるのに対して，83は完形であるにも関わらず全長5.6cmと非常に小さい。

ⅡB類「抉り・直背弧刃型」(84～88・387・915)…穿孔なし・抉りあり・背部直線状・刃部弧状の特徴をもつ。84の側縁の抉りは，他のように打ち欠いた後に研磨して作出するのではなく，鏃状の道具で穿孔した後に研磨を施して作出したと考えられる。86・87は背部に剥離が認められる。86は刃部にも微細な剥離が認められ，背部と刃部ともに使用痕跡と考えられる。87の背部の剥離は整形時の調整痕跡だと考えられ，磨製と打製の折衷タイプである。

ⅡC類「抉り・直背直刃型」(89～122・348・349・363・444・630・683・699・837・861)…穿孔なし・抉りあり・背部直線状・刃部直線状の特徴をもつ。平面形態は略長方形であり，本遺跡出土石庖丁で最も多いタイプである。使用石材の大部分を頁岩とホルンフェルスが占める。背部は断面形平坦状もしくは舌状に丁寧な研磨を，刃部は鋭く丁寧な研磨を施す。93・97・102・115のように，部分的，特に背部に打製による調整痕が残る。他のⅡ類同様，打製による粗い調整後に研磨を施し整形を施していたと推察される。102は未貫通の穿孔が残り，ⅢB類に入る可能性もある。

ⅡD類「抉り・弧背弧刃型」(123～133・347・423・810)…穿孔なし・抉りあり・背部弧状・刃部弧状の特徴をもつ。平面形態は杏仁形もしくは木葉形を呈する。前に述べたとおり，刃部は摩耗や研ぎ出しにより直線状から弧状に変形する可能性があるが，背部にその可能性はない。このことから，このタイプは製作当初から意図的に背縁・刃縁ともに弧状に湾曲させていたようである。使用石材は他と同じく頁岩とホルンフェルスが主体であるが，ホルンフェルスが多い傾向がある。124は側縁に抉りをもちながら穿孔をももつタイプである。

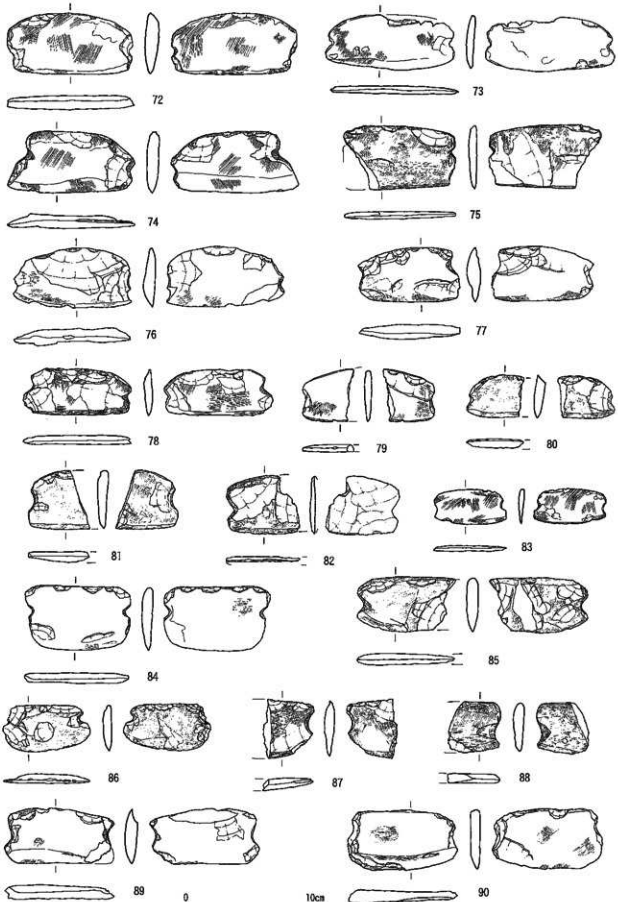
ⅢB類「穿孔抉り・直背弧刃型」(687)…穿孔あり・抉りあり・背部直線状・刃部弧状の特徴をもつ。包含層からの出土はなく，ＳＡ96出土の１点のみである。

ⅢC類「穿孔抉り・直背直刃型」(134～137)…穿孔あり・抉りあり・背部直線状・刃部直線状の特徴をもつ。４点の出土であるが，そのうち１点（136）は１穴，２点（135・137）は２穴のうち１穴が未貫通と非機能的な穿孔といえる。

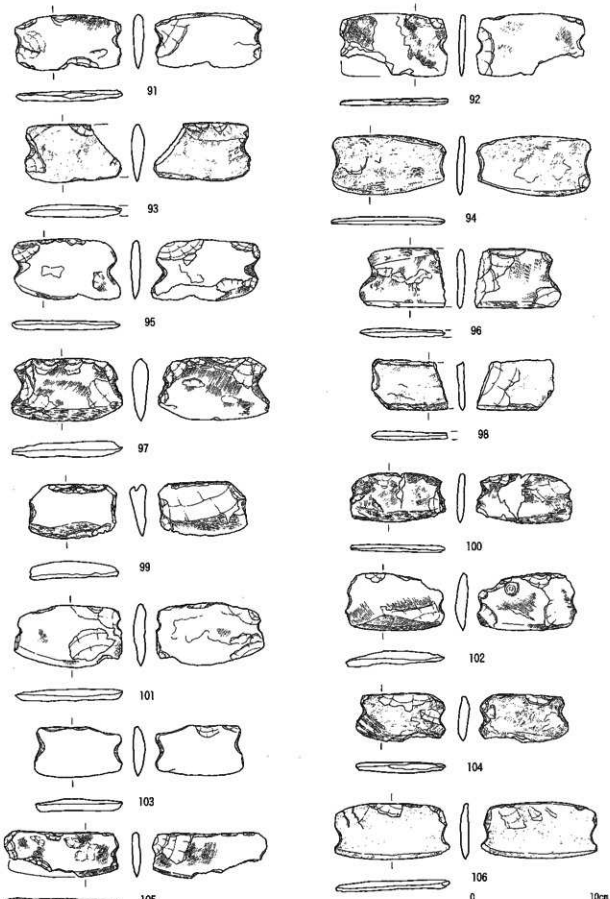
Ⅳ類「打製」(138～143・477)…穿孔のあるものはないが，138・139・142・143には抉りがある。いずれも背縁と刃縁に細かい打製の調整剥離が認められる。石庖丁未製品とも考えられるが，このままで使用していたとも考えられる。

Ⅴ類「その他」(144～172・478・668・1057)…破片であるために全容がわからないものや未製品であるためにⅠ～Ⅳ類に当てはまらないものを一括して扱う。形態や性質によってさらにａ～ｄ類に細分する。

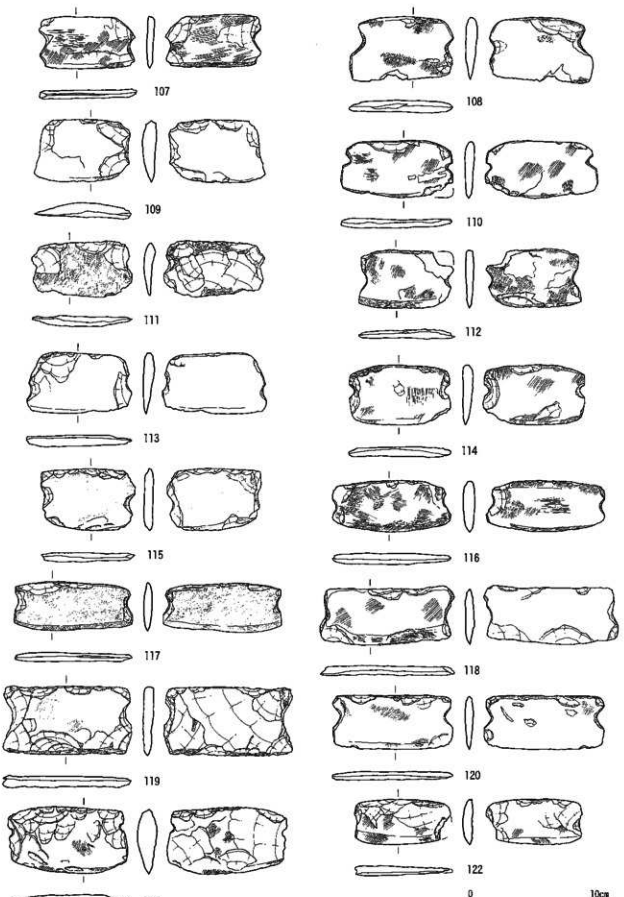
Ⅴａ類…（144～148）背部や側縁の整形が認められない不定形の一群。刃部は研磨により作出しているが，ほかの部分は打製である。いわば局部磨製的な石庖丁である。144以外は，平面形態が不定形でありながら，両側縁に抉りが施してある。144は磨製石鏃に多く用いられる緑色頁岩製である。磨製石鏃未製品の可能性があるが，部分的な研磨や左側縁にわずかに抉りのような剥離があることから，石庖



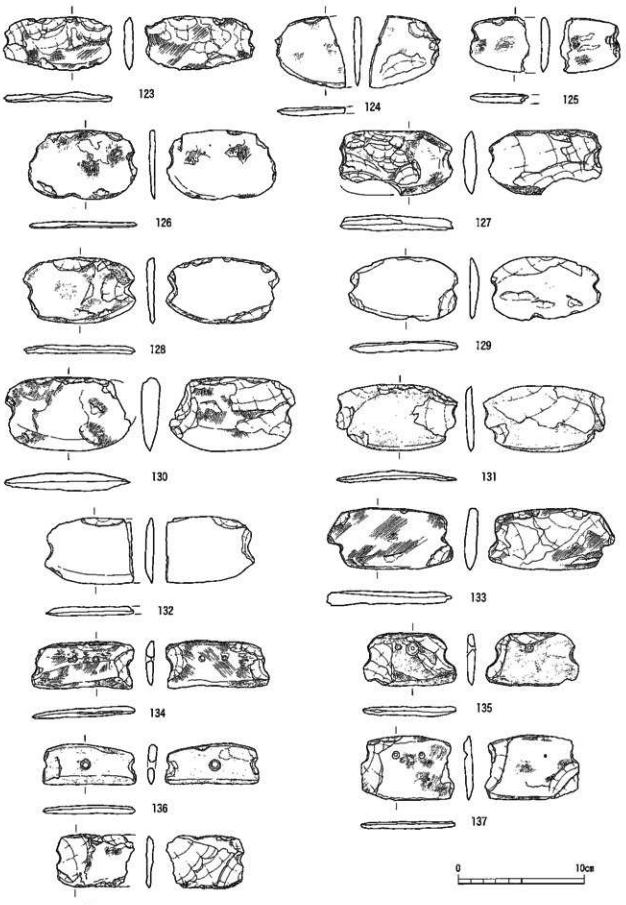
第８図　包含層出土石器(4)〈石庖丁②－ⅡA類・ⅡB類・ⅡC類〉（1／3）



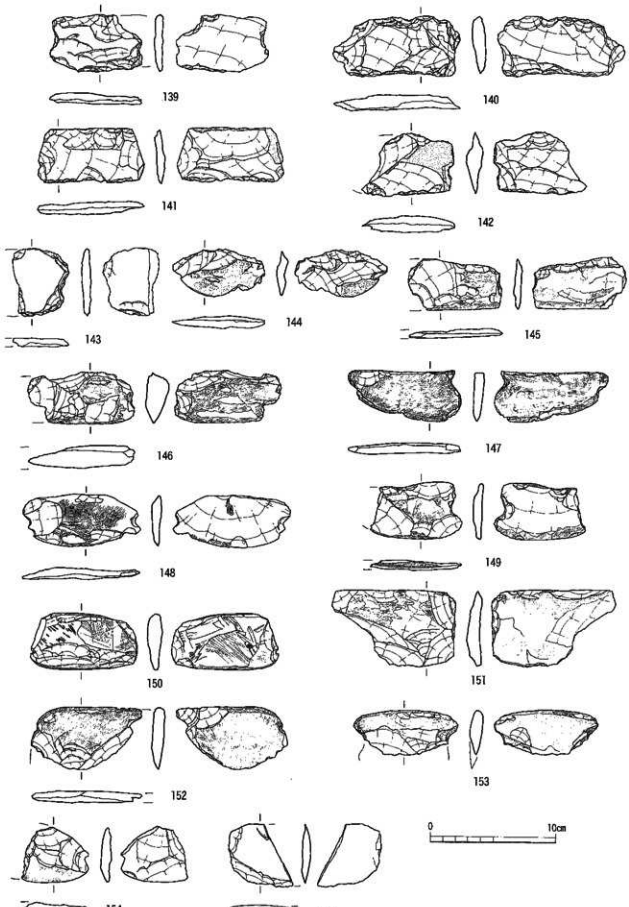
第９図　包含層出土石器(5)〈石庖丁③－ⅡＣ類〉（１／３）



第10図　包含層出土石器(6)〈石庖丁④－ⅡC類〉（1／3）



第11図　包含層出土石器(7)〈石庖丁⑤－ⅡD類・ⅢC類・Ⅳ類〉（1／3）



第12図　包含層出土石器(8)〈石庖丁⑥－Ⅳ類・Ⅴ類〉（1／3）

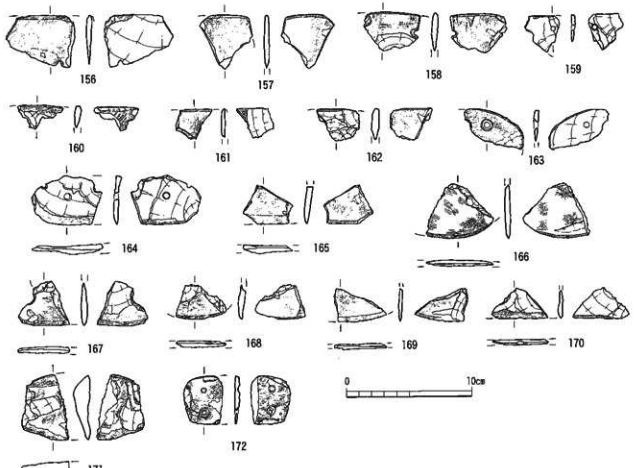
丁として扱う。147は背部以外全面に研磨が施されているが平面形態不定形である。使用途中で折れたⅡB類の石庖丁を再利用して作った可能性もある。

Ⅴb類（149～151）…石庖丁またはそれに近い平面形態を有しながら，刃部を有しない一群。149はⅡC類と平面形態を同じくするが，刃部を有しない。また，剥離のためか製作途中のためか表裏面の研磨が部分的である。150は直背直刃の平面形態と類似するが，抉りはなく，刃部を有しない。また，表裏面の部分的に研面があるが，線状痕（後述する砥石のａ種研磨痕）が認められ，表面調整研磨面というよりは砥石の研面に近い。石庖丁未製品から砥石への転用品とも考えられる。

Ⅴc類（152～171）…破片であるが，形態から石庖丁と考えられる一群。152～163は背部が残る破片である。157・162以外は穿孔が認められる。164～171は刃部が残る破片である。167は上部が剥離しているが，抉りをもつⅡ類で直刃タイプである。171は背部と刃部が一部残る破片である。粗い剥離により未製品との印象も受けるが，背部と刃部が研磨されており，実際に使用されたものと考えられる。

Ⅴd類（172）…緑色頁岩製の破片で，１つの穿孔と１つの未貫通の穿孔をもつ。表裏面と背部は研磨により平坦に整えられ，下半に行くにつれ薄く鋭利となり刃部を作出しているようである。側縁も薄く鋭利であり，削器的な様相を呈しているが，石庖丁の範疇にいれることとした。

■砥石（第14図～第20図－173～260）……明確な研磨痕のあるもの，明確な研磨痕はないが滑らかな凹面が確認できるものを砥石として扱う。包含層出土88点と遺構出土25点の計113点が出土した。使用



第13図　包含層出土石器(9)（石庖丁⑦－Ⅴ類）（１／３）

石材は頁岩が主である。素材の形態によりⅠ類（定形砥石）・Ⅱ類（不定形砥石）・Ⅲ類（自然礫砥台）に大別できる。さらに，Ⅰ類～Ⅲ類は大きさによってＡ・Ｂ類に細分できる。ただし，石庖丁と同じく磨製石器の特徴として，研磨によって製作当初より変形する可能性があるので，必ずしも有効な分類基準となり得ないかもしれない。

また，研磨痕跡として考えられるものは，肉眼観察による分類になるが，凹凸著しく線状に深く残る「線状痕（ａ種研磨痕）」・擦傷のように細く浅く残る「擦痕（ｂ種研磨痕）」・光沢面として残る「光沢痕（ｃ種研磨痕）」の３種に細分できる。

以下にⅠ～Ⅲ類の大分類とＡ・Ｂ類の小分類の組合せによる本遺跡の砥石分類を示す。

Ⅰ類「定型砥石」（173～214）…使用の段階でそうなったのかもしれないが，直方体などの整った形態に整形した一群。断面形の形状によってⅠＡ類（柱状砥石）とⅠＢ類（板状砥石）に小分類できる。

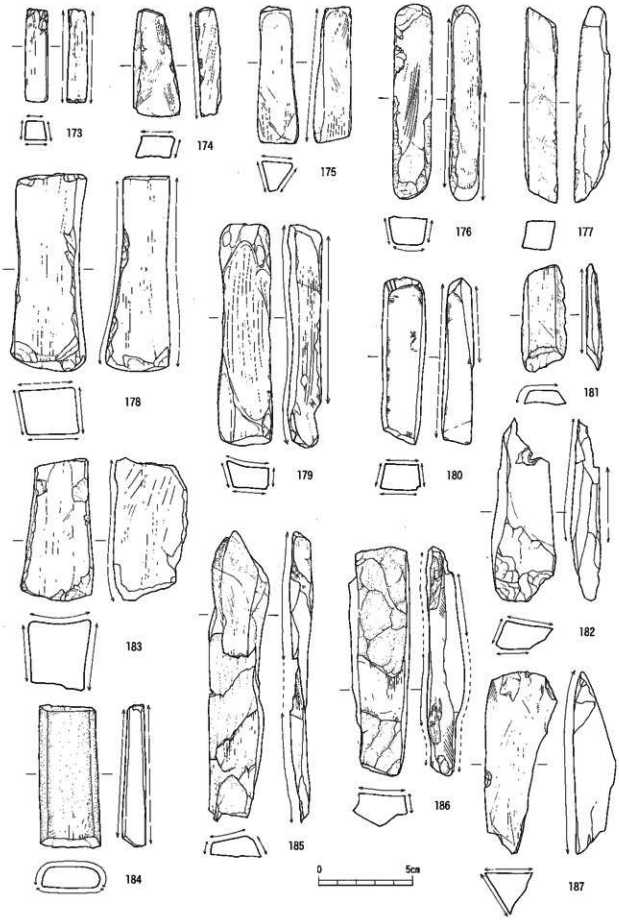
ⅠＡ類「柱状砥石」（173～187）…断面の長辺と短辺の比率が２を超えないもの。研磨面は４面にわたるものが多い。研磨各面は縦と横方向からの往復運動によって中央部が凹面状に窪むものが多い。研磨痕跡はほとんどがｃ種研磨痕でわずかにｂ種研磨痕が認められる。

176は凹面状ではなく平面状の研磨面をもち，中央部にこのタイプでは珍しくａ種研磨痕をもつ。177は明確な研磨痕が認められず，砥石使用前段階や使用初期段階の可能性がある。175・187は直方体ではなく，３面が研磨面の三角柱タイプである。185は裏面が剥離のためか研磨が認められない。ⅠＢ類に入る可能性もある。186は185同様，剥離がいたる箇所にあるが，わずかに残った側面と裏面から柱状のプロポーションが想定できる。

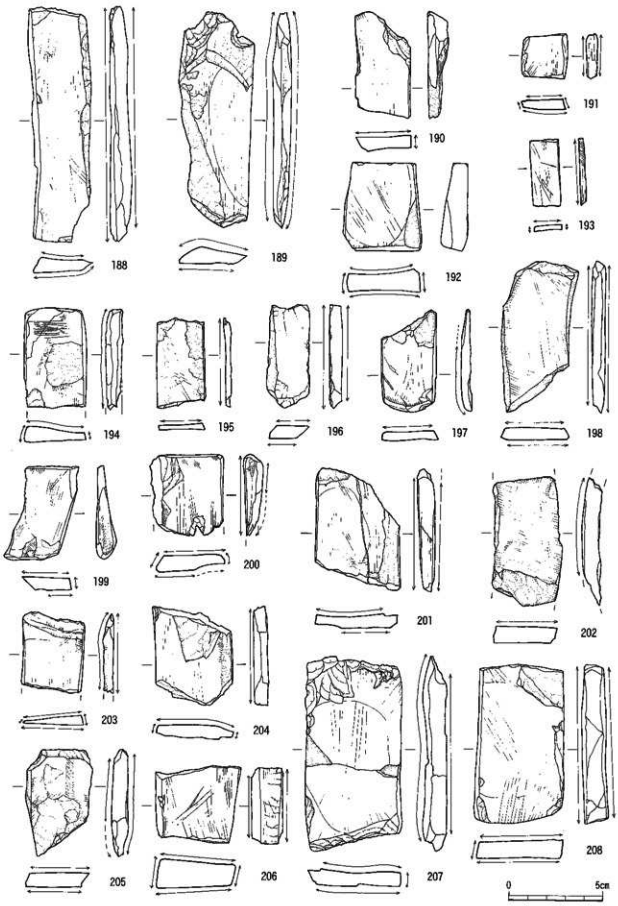
ⅠＢ類「板状砥石」（188～214）…断面の長辺と短辺の比率が２を超えるもの。頁岩を主要石材とする。ⅠＡ類が完形に近い残存状況に比べ，折れて欠損しているものが多い。研磨面は４面（191・192・193・200・203・206・208・210～214）のものもあるが，１～３面のものが多い。面積の広い表裏面を研面として使用するのは理に適った行為であるが，時として厚さ２㎜にも満たない側面を研面として使用している場合がある。研磨各面は緩やかに中央部が凹面状に窪むものがあるが，平面状のものが多い。研磨痕跡はⅠＡ類同様，ほとんどがｃ種研磨痕でわずかにｂ種研磨痕が認められる。ｂ種研磨痕に見られる研磨方向は縦方向と斜方向が主である。

192・202・210は緑色頁岩製の砥石である。192・210は，折れているがⅠＡ類のように研磨面が凹面状に窪む。194は表面に横方向のａ種研磨痕をもつ。205は剥離が著しいが，わずかに残る研磨面にａ種研磨痕が認められる。206は粘板岩製で，ツルツルの光沢面に不定方向のｂ種研磨痕が認められる。212は表面の研面に凹面状２つの窪みがあり，その１つには明瞭なａ種研磨痕が認められる。

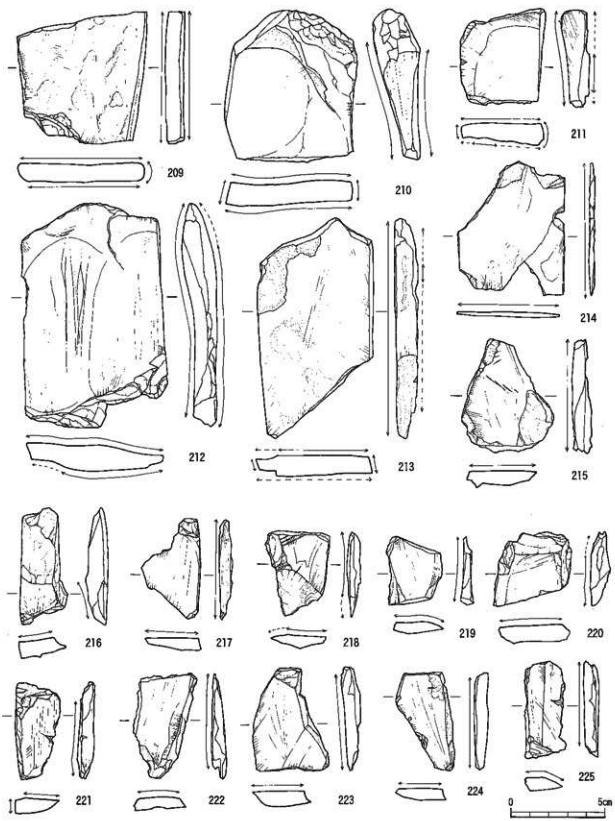
Ⅱ類「不定形剥片砥石」（215～236）…本来ⅠＡ類かⅠＢ類であったものが，何らかの衝撃により剥離し，剥片状になったと考えられる一群。その多くが剥離によって裏面に研磨痕をもたない。石材は頁岩が主である。研磨各面は緩やかに中央部が凹面状に窪むものがあるが，平面状のものが多い。研磨痕跡はほとんどがｃ種研磨痕とｂ種研磨痕が認められる。ｂ種研磨痕に見られる研磨方向は縦方向と斜方向が主である。



第14図　包含層出土石器(10)〈砥石①－ＩＡ類〉（１／２）



第15図　包含層出土石器(11)〈砥石②－ＩＢ類〉（１／２）



第16図　包含層出土石器(12)〈砥石③－ⅠB類・Ⅱ類〉（1／2）

216・217・218・221は側面が平坦であり，Ⅰ類の定型砥石の破片であると推測される。225は表面に赤色の斑文が認められる。鉄分の付着であろうか。218・223・224は斜方向のａ種研磨痕が認められる。227は一度剥離した剥離面を，再度研面として利用した形跡がある。238は剥離した剥片に若干の加工を施し，手になじむような大きさにしている。表面全体に斜方向のｂ種研磨痕が認められる。

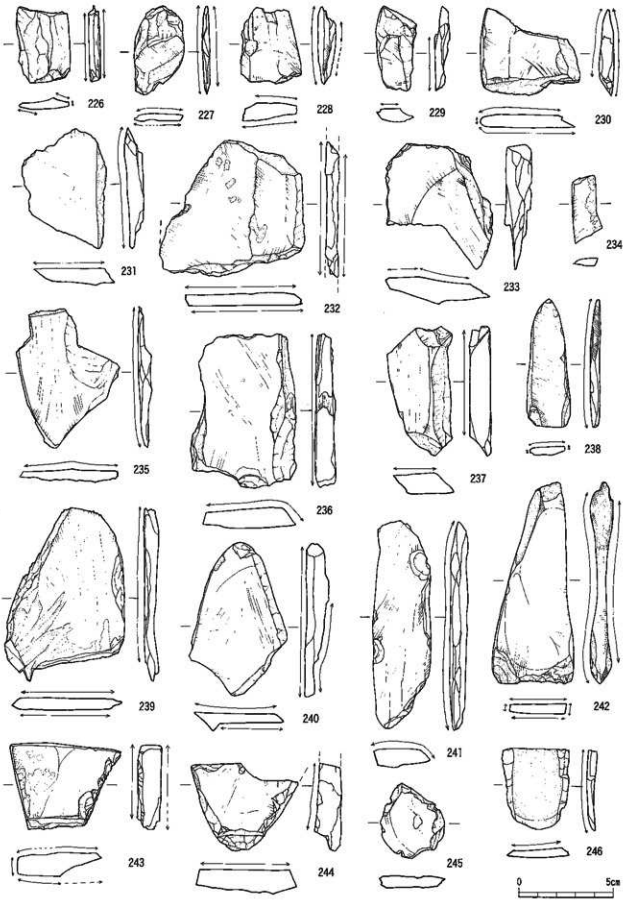
Ⅲ類「自然礫砥石」（236～260）…自然礫をほとんど加工せずに砥石に転用したと考えられる一群。主な使用石材は頁岩であるが，大形のものには砂岩などが用いられている傾向がある。使用する礫の大きさによって，**ⅢＡ類**（棒礫状砥石）・**ⅢＢ類**（台石状砥石）に細分できる。

ⅢＡ類「棒礫状砥石」（236～259）…全長８～15cm前後の縦長で，手に持てる程度の棒状礫を利用した砥石。主たる使用石材は頁岩である。研磨面は表裏の２面のものが多い。研磨面は，他類と同じく平坦状のものと凹面状のものがあるが，凸面状のもの（241・243・249・250・251・252・254・255・259）が多いことを１つの特徴として挙げることができる。これは砥石を置いて用いたのではなく，手に持って使用した可能性がある。

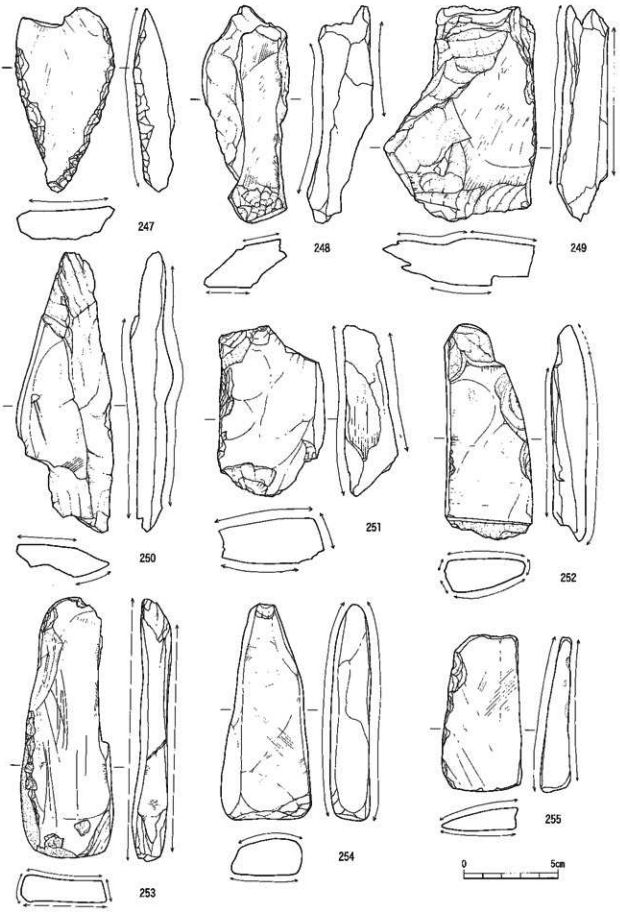
239の表面下部には斜方向の浅い樋状剥離が数条確認できる。これは砥面の上から施されており，彫刻刀のような鋭利で硬いもので削ったと考えられる。241は側縁の１つが平坦状になっており，石庖丁の背部のようでもある。242は頁岩製で４面の研磨面をもつ。表裏面は特に縦の往復運動による摩耗が著しい。ⅠＢ類と特徴が共通するようであるが，端部の厚さから考えると，本来棒状の自然礫であったと考えられる。243は右側縁に剥離が施されている。246は畦原型細石刃核を砥石に転用している可能性がある。後述するが，畦原型細石刃核は本遺跡で多数確認されており（第Ⅱ章－第６節参照），本来下郷珂遺跡に存在したものだと考えられる。旧石器時代の石器を弥生人が拾い，別の石器として再利用するという偶然の事象を示す可能性がある。256～259は４もしくは２面の研磨面をもち，大振りで厚さの厚い礫を用いているが，手に持てる大きさであることからⅢＡ類に分類する。258は表面に敲打痕が残り，敲石としての使用が考えられる。

ⅢＢ類「台石状砥石」（260～265）…大振りな礫を利用した砥石。大形のものが多く，据え置いて利用したと考えられる。使用石材はほとんどが砂岩である。研磨面は主にｃ種研磨痕である。特にⅢＢ類に認められるｃ種研磨痕は光沢があり，手触りが非常に滑らかである。

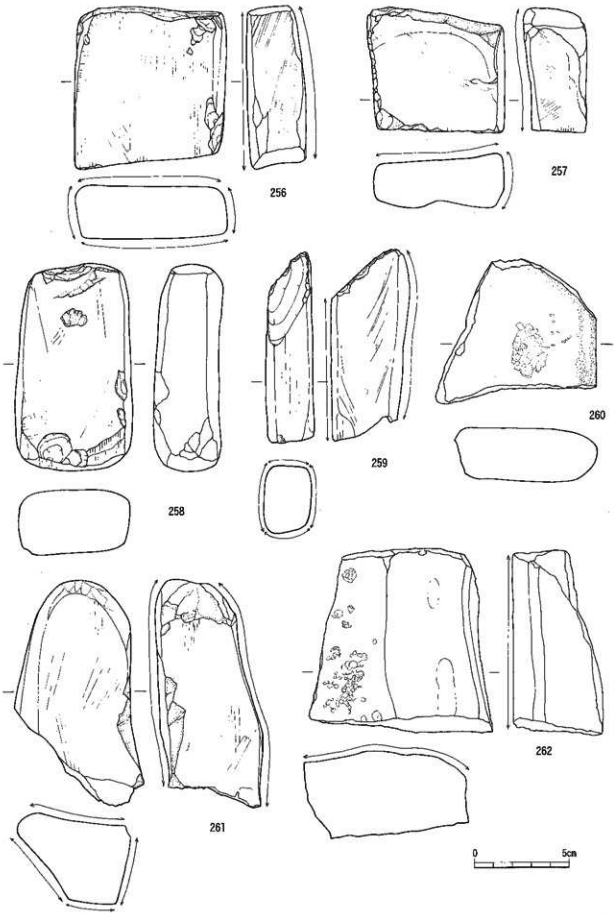
260は砂岩製であり，明確な研磨面はないが，表面中央部に赤化が認められる。261は砂岩製で，変則的な４面の研磨面をもつ。各研磨面は皿状に窪んでおり，うち３面は窪みの中心部が赤化している。262は細かい研磨面が５面ある。各研磨面は縦方向の往復運動によって出来たと考えられる。264は両側端中央部が打ち欠かれており，石錘に使用されていたと考えられる。両側面はｃ種研磨痕による研磨面が認められる。



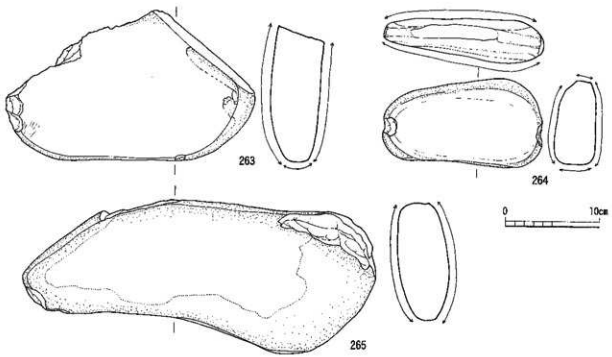
第17図　包含層出土石器(13)〈砥石④－Ⅱ類・ⅢA類〉（1／2）



第18図　包含層出土石器(14)〈砥石⑤－ⅢA類〉（1／2）



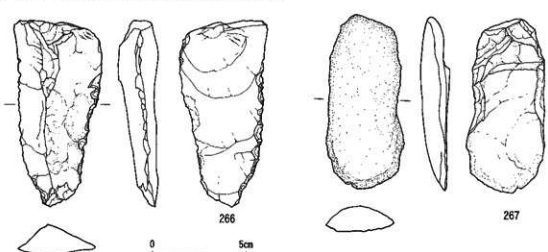
第19図　包含層出土石器(15)〈砥石⑥－ⅢA類・ⅢB〉（1／2）



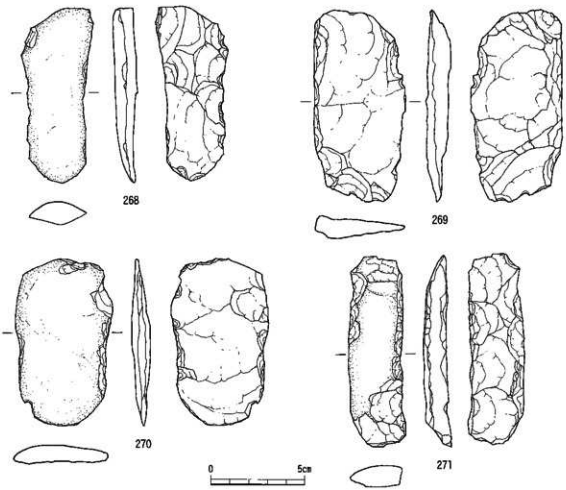
第20図　包含層出土石器(16)〈砥石⑦－ⅢB類〉（1／4）

■削器（第21図・第22図－266～271）

6点出土した。いずれも包含層出土である。石材はホルンフェルス・凝灰岩など比較的硬質なものを用いる。自然礫から打ち剥がした縦長長方形礫片を素材とするため，267～271の一面には自然面が残る。縦長長方形礫片素材の長辺部，つまり両側縁を細かく打ち欠いて刃部を作出している。266は，自然礫を用いたというより縦長剥片素材を用いた削器であり，他の削器と比して刃部の剥離が微細である。旧石器～縄文時代の削器の可能性がある。267は剥離が上部分に集中しており，刃部というより握部を作っているようにも見える。下部分は石核から剥離した時のままであるが，このままの状態で鋭利な刃部を作出している。269は，他に比して素材片が薄く，片側縁に使用痕ともとれるような刃部が作出されており，石庖丁の製作途上の失敗製品とも考えられる。



第21図　包含層出土石器(17)〈削器①〉（1／2）



第22図　包含層出土石器(18)〈削器②〉（1／2）

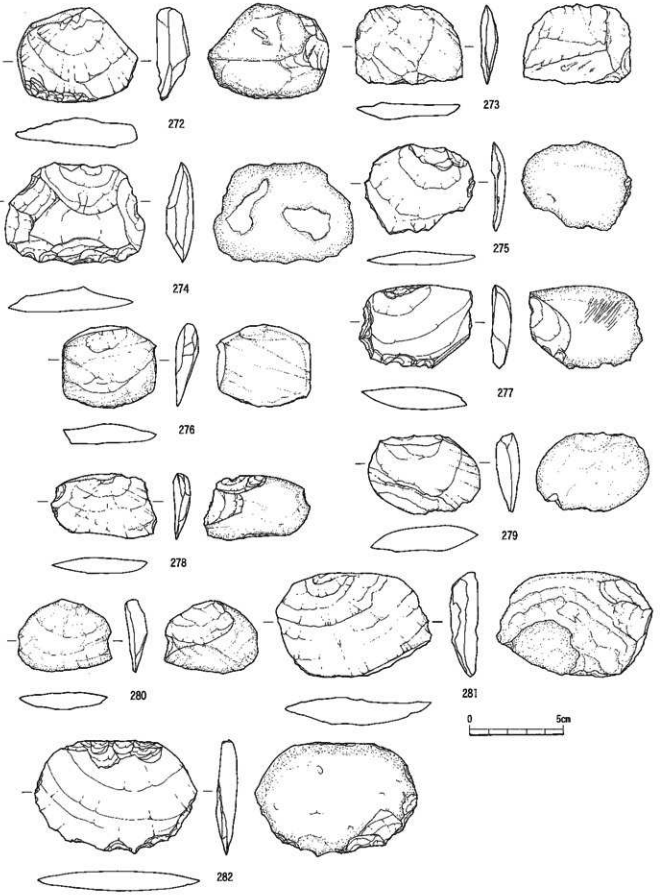
■鉾形剥片石器（第24図～第27図－272～302）

42点出土した。遺構出土（390・408・809）及びアカホヤ火山灰層下層（1160・1161）の計6点を除いては包含層出土である。砂岩・凝灰岩・ホルンフェルス・緑色珪質岩などの自然礫（特に円礫）を母岩とする。自然礫の端部を打ち剥がした周縁の鋭い剥片を利用する剥片石器である。多くは周縁の一部に刃部としての加工痕跡や使用痕跡が認められ，削器・使用痕有る剥片・二次加工有る剥片等の範疇に入ると考えられる。一方で，一部は加工痕跡や使用痕石が認められず，石器と認識しづらいものもある。しかし，いずれも素材剥片形態が類似しており，「鉾形剥片石器」というカテゴリーを設けることとする。大きさは4～11cmとばらつきがあるが，大サイズ（10cm前後）・中サイズ（7cm前後）・小サイズ（5cm前後）と大きく3つに分類できる。

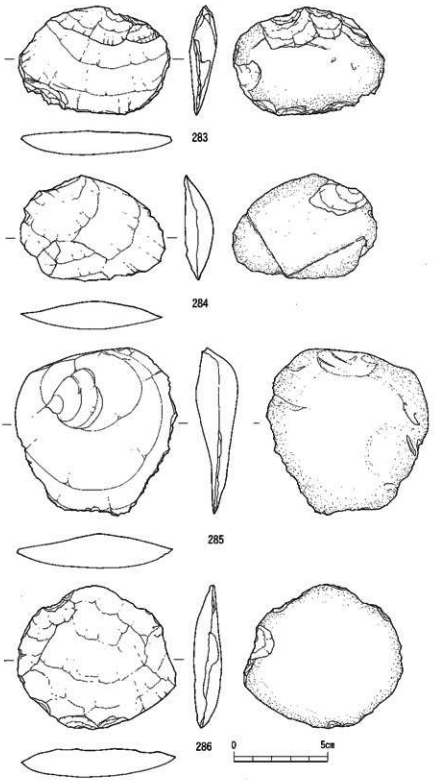
また，これらの一群は，剥片の作出方法や形態によってⅠ～Ⅲ類に分類できる。

Ⅰ類（272～293）…円礫の自然面を背面とする剥片を素材とする。平面は楕円形，断面楔形となる。上縁は，（A）打面調整が行われていないもの（272～288）と（B）打面調整が行われているもの（289～293）がある。どちらかといえば打面調整を行わない傾向にある。

側縁から下縁にかけて刃部調整が行われているものが多く，272・274・277・282・283・285・287・



第23図　包含層出土石器(19)〈蛤形剥片削器①－Ⅰ類〉（1／2）



第24図　包含層出土石器(20)〈蛤形剥片石器②－Ⅰ類〉（1／2）

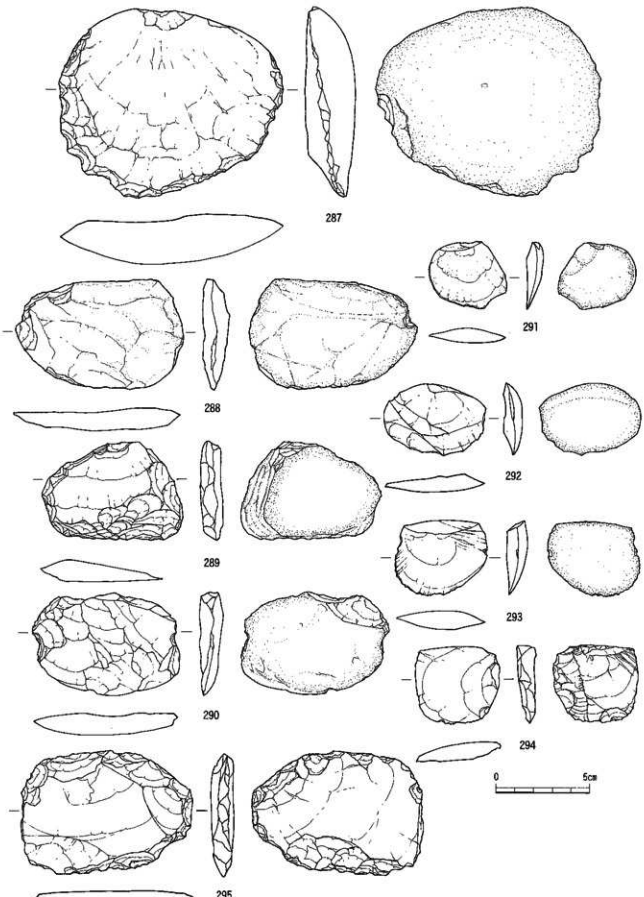
289には明確な剥離が施されている。大サイズ～中サイズの比較的大型のものに刃部調整が行われている傾向がある。

277は，背面の自然面に砥石に認められる線状痕（a種研磨痕）が認められる。砥石機能の兼用，砥石に転用，砥石から転用といった可能性が想定できる。288は，両側辺中央部に抉りらしき調整が認められ，石庖丁未製品や類似品の可能性がある。

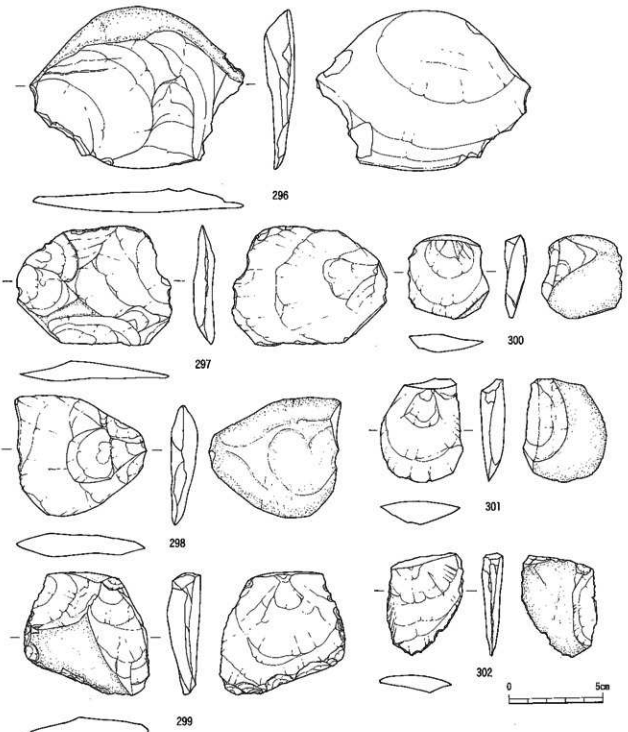
Ⅱ類（294～297・390）…一度，自然礫を片面とする剥片を剥離した後，その片面を剥離した剥片を素材とする。背面が自然面でなく剥離面であること以外，Ⅰ類との大きな相違点はない。Ⅰ類同様，剥片作出時に，（A）打面調整が行われていないもの（296・297・390），（B）打面調整が行われているもの（294・295）がある。明確な刃部調整は認められないが，いずれも側縁から下縁にかけて使用痕及び微細な剥離が認められる。

294は，一度目の剥離作業から90°打面を転移して剥離作業を行っている。

Ⅲ類（298～302）…縦長剥片を素材とする。素材剥片が縦長であること以外，Ⅰ・Ⅱ類との大きな相違点はない。（A）打面調整が行われていないもの（298・408），（B）打面調整が行われているもの（299～302）がある。横長剥片素材よりも打面調整を行う傾向がある。

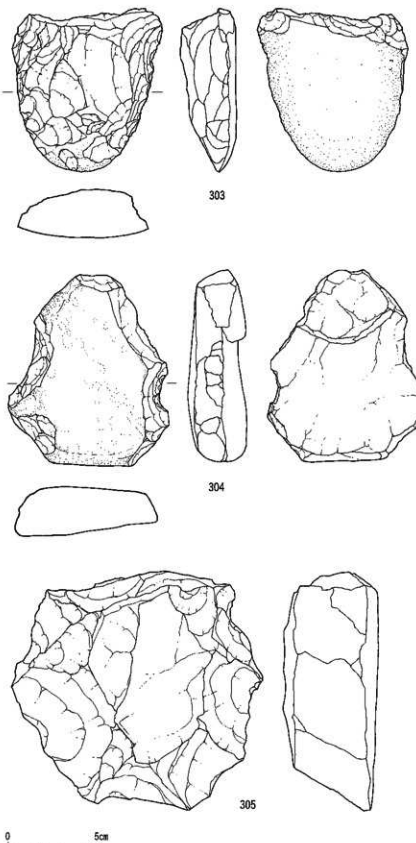


第25図　包含層出土石器(21)〈給形剥片石器③－Ⅰ類・Ⅱ類〉（1／2）



第26図　包含層出土石器(22)〈蛤形剥片石器④－Ⅱ類・Ⅲ類〉（1／2）

包含層以外出土のものは，縄文時代早期と考えられる礫群中から1点，縄文時代早期の集石遺構中から1点，弥生時代後期の竪穴住居跡中から3点，弥生時代以降の時期不明土坑から2点，アカホヤ火山灰層以下の包含層（下那河基本層序の第Ⅵ層）から2点である。主に縄文時代早期に属するものと弥生時代後期に属するものがあると考えられるが，両者を形態及び製作技法的な観点から区別することは現段階では難しい。しかしながら，288は両側辺中央部の抉りらしき調整から，石庖丁との関連が想起でき，弥生時代に属するものが少なからず存在することが推定される。

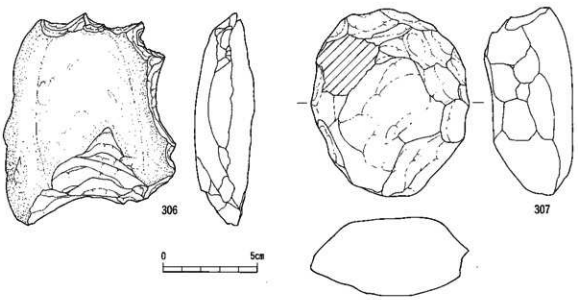


第27図　包含層出土石器(23)〈礫器①〉（1／2）

■礫器（第27図・第28図－303～307・409）

6点出土した。うち1点はSA39出土（409）である。石材は泥岩・砂岩・溶結凝灰岩・ホルンフェルスなど多様性がある。用途は，長さ8～15cmと手に握ることのできる大きさであることから，手に握り用いていたと推察される。素材径10cm前後の円礫及び推定径20cm以上の大型礫の一部から打ち剥がした礫片を用いる。いずれも周縁を大きく打ち欠くことによって鋭い刃部を作出する。

307は長径10cm程のホルンフェルス製円礫の周縁を打ち欠いている。303～306は大型礫の礫片を打ち欠いて作られている。刃部を作出する面にはヴァリエイションがあり，自然面のみを加工する（304・306）・剥離面のみを加工する（303・305・409）パターンがある。前掲した鉢形剥片石器との違いは，素材剥片の厚さともいえるが，部分的に刃部作出を行う鉢形剥片石器に対し周縁全体に刃部作出を行うところにある。



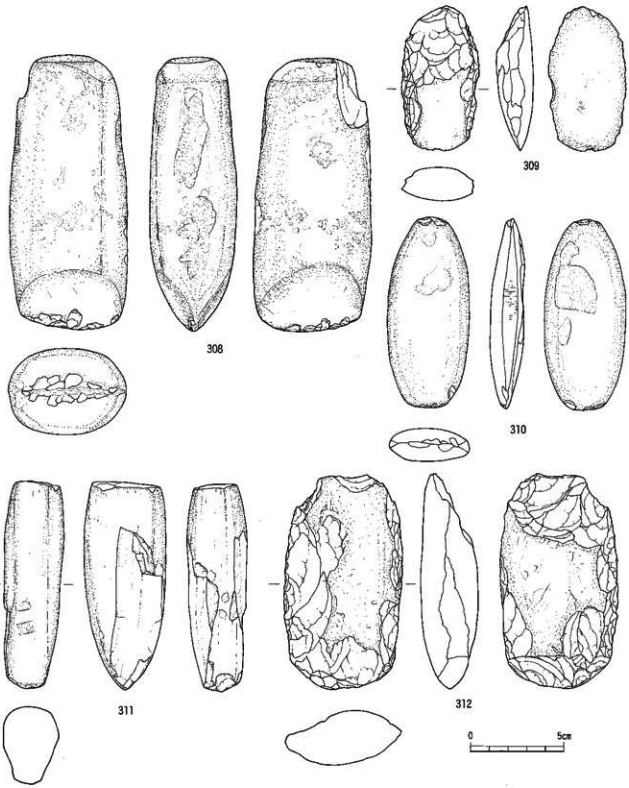
第28図　包含層出土石器(24)〈礫器②〉（1／2）

■磨製石斧（第29図－308～312）

磨製石斧は5点出土した。いずれも表採及び包含層出土である。個数は少ないが，太型蛤刃石斧や柱状片刃石斧など多様性のある出土となった。308は太型蛤刃石斧である。基部及び刃部の一部が欠損しているがほぼ完形である。刃部の欠損状況は使用痕跡と考えられる。全長約14cm，断面形は厚さ4.5cmの楕円形を呈する。所々に敲打痕が残るが，全体的に丁寧な研磨が施されている。309は全長約8cmの小形石斧である。基部の片面が打製であるが，基部の片面及び刃部は丁寧な研磨を施している。310は全長約10.3cmの小形石斧である。平面形態は杏仁形を，断面は長楕円形を呈する。全面に丁寧な研磨を施しており，特に刃部は鋭利に仕上げている。311は柱状片刃石斧である。基部の側縁が剥落しているが，ほぼ完形である。断面形は隅丸長方形で，基部に抉りをもたないタイプである。308同様，刃縁の磨滅が著しく，頻繁な使用が考えられる。312は打製というべきか，磨製というべきか難しい石斧である。刃部及び側縁は打製によって刃部作出が行われているが，その他の面は研磨によって調整が施してある。磨製石斧の製作途上品の可能性もある。

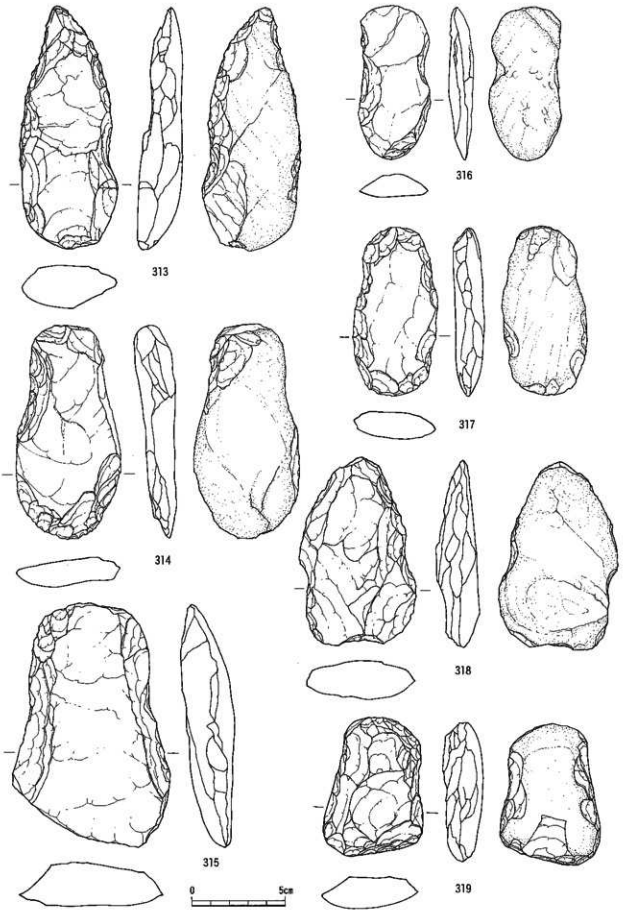
■打製石斧（第29図～第31図－313～323・425）

打製石斧は12点出土した。12点中ＳＡ11出土（425）の1点を除いて表採及び包含層出土である。石材は頁岩やホルンフェルスを主とする。いずれも，礫器のように自然礫及び大型礫の一部から打ち剥がした礫片を素材として用いる。素材を大まかな剥離で整形した後に側縁及び刃部を細かい剥離で調整する。平面形態には若干のバラエティーがあり，基部が尖る涙滴形のもの（313・318）・基部が丸く両側縁に抉りをもつ撥形のもの（314～317・319・320）・基部が両側縁に丸く抉りをもたない長楕円形のもの（321・322）がある。また，刃部の作出方法にもいくつかの方法があり，自然面と剥離面研磨による両刃タイプ（322）・自然面と打製剥離による両刃タイプ（313・314・316～318・320）・両面打製剥離による両刃タイプ（319・321）がある。315・323は刃部欠損のため不明である。また，320は，刃部欠損したものを再利用したものなのか切断面を刃部として利用したものなのか判断が難しい。

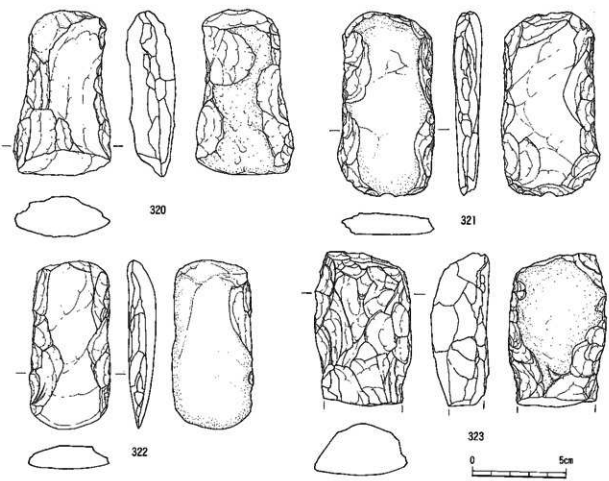


第29図　包含層出土石器(25)〈磨製石斧・打製石斧①〉（1／2）

側縁の抉りは，握槌の握部や石斧の柄との装着部の可能性が考えられる。全国的にはこのような形態を石鍬として扱い，宮崎県城では打製石斧として扱うことが多い。今回は打製石斧として扱ったが，石鍬としての可能性も大いにある。



第30図　包含層出土石器(26)〈打製石斧②〉（1／2）



第31図　包含層出土石器(27)〈打製石斧③〉（1／2）

■敲石・凹石・磨石・石皿・台石（第32図－324～338）

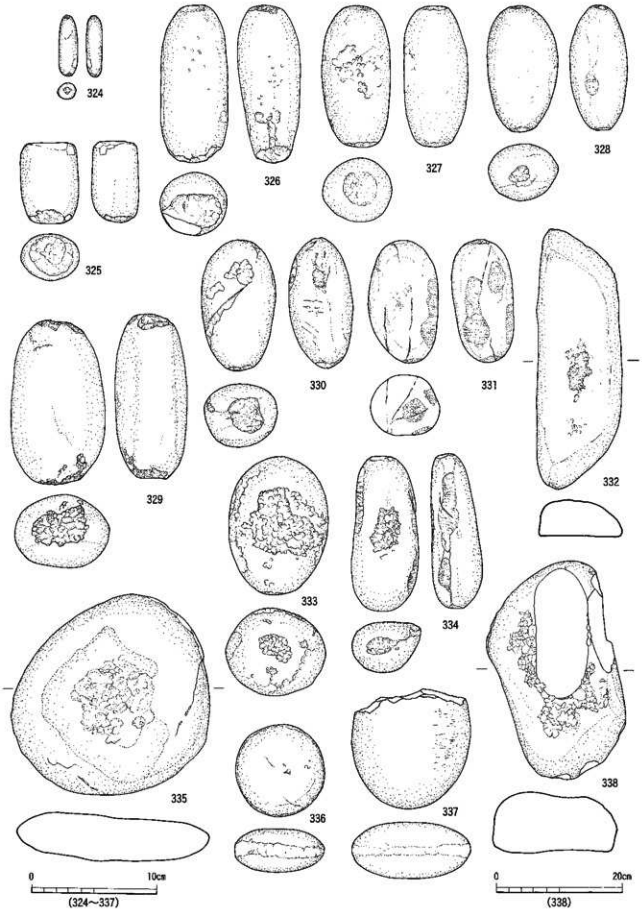
34点出土した。そのうち遺構出土は19点と全体の約56%を占めている。石材が凝灰岩である磨石以外の敲石・凹石・台石は，使用石材のほとんどが砂岩である。

敲石（324～331）は基本的に棒状の砂岩を用い，上下両端に敲打痕をもつ。中には上下端の敲打痕の他に表裏面の中心部に敲打による窪みをもつものがある（332～334）。敲石と凹石の兼用と考えられる。また，331は上下端の敲打痕の他に側縁部分に磨痕が認められる。

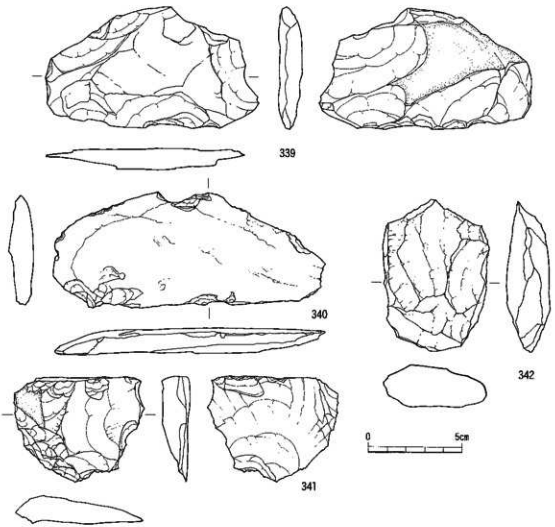
凹石（332～335）は敲石と同じ棒状の砂岩を用いるもの（332・335）と球状の砂岩を用いるもの（333）がある。333は表面中央部に敲打痕があるが大きな窪みはなく，敲石的な要素が強い。334は表面中央部の敲打痕だけでなく，側縁に磨痕が認められる。

磨石（336・337）は凝灰岩の扁平な円礫を用いる。336は表裏面一面に磨痕が認められ，周縁に敲打痕が認められる。337は一部欠損しているが，表裏面全面に磨痕が認められ，一部擦痕が残る。

石皿（338）は砂岩製の大振りの礫を用いる。表面には敲打痕と磨痕が，裏面には磨痕が，側面には研磨痕が認められる。表面は台石として利用された後に石皿として再利用されたと考えられる。この石皿は，遺構外出土であり帰属年代が不明であったが，側面の研磨痕から砥石としての利用が想定され，弥生時代に属すると考えられる。



第32図　包含層出土石器(28)（敲石・凹石・磨石・石皿・台石）〈1／3・1／6〉



第33図　包含層出土石器(29)〈剥片石器・礫器〉（1／2）

■その他（第33図－339～342）

339はホルンフェルス製の剥片石器である。横長剥片を素材とし，周縁とくに下側縁に剥離を施している。大きさは全長約11cmである。大きさ，剥離の箇所から考えて石庖丁の未製品と考えられる。340は横長剥片を素材とし，下側縁に使用痕跡と考えられる剥離が数カ所，上側縁中央部に抉りらしきものが1カ所確認できる。上側縁中央部の抉りらしきものは柄の装着部であった可能性があり，石鎌の可能性がある。341は珪質岩製の削器である。下縁と両側縁に微細な剥離を施し刃部を作出している。342はホルンフェルス製の礫器である。周縁を大きく打ち欠いて調整を行っている。下部は比較的鋭利に尖っており，石斧の一種だとも考えられる。

第５節　弥生時代の調査

（１）　Ａ区の調査（第34図～第112図）

Ａ区は南ブロックに位置し，Ｘ軸は14～24ラインを，Ｙ軸はＪ～Ｐライン内4,200㎡の調査区である。

調査は１次調査において実施した。調査前の状況は，果樹園であり，Ｏ17グリッド付近を頂部とする緩やかな傾斜地であった。最頂部のＯ17グリッドと最下部のＪ23グリッドは高低差約６ｍである。調査は始めに果樹園の耕作土及び造成土の除去を行ったが，作業中におびただしいまでの弥生土器片が出土し，作業がはかどらなかった。耕作土と造成土の除去を行うと，調査区東側と南側の周縁部にのみ基本層序の第Ⅳ層以下が残っていた。他の大部分は傾斜地にも関わらず削平が行われており，アワオコシスコリア層・イワオコシスコリア層・段丘礫層（基本層序の第Ⅷ層・第Ⅸ層・第Ⅹ層）が面的な広がりをみせていた。こうした状況を考えると，Ａ区はＪ23グリッド付近を舌状の先端部にもち，Ｏ17付近を頂部とする丘陵地であり，造成の状況から高低差は調査前状況の６ｍ以上であったことが推定できる。

また，弥生時代の調査終了後，Ｘ軸Ｍ～Ｏライン・Ｙ軸22～24ラインの約400㎡を掘り下げ，第Ⅵ層の調査を行った。調査の結果，遺構は検出されなかったが，旧石器時代～縄文時代早期の遺物が出土した。

検出された遺構は竪穴住居跡89軒（ＳＡ１～ＳＡ89）・土坑21基（ＳＣ１～21）・炉穴２基・集石遺構２基・溝状遺構１条であり，出土した遺物から竪穴住居跡と土坑は弥生時代，炉穴と集石遺構は縄文時代に帰属するものと考えられる。溝状遺構については，弥生時代に属すると考えられる竪穴住居跡を切る形で検出され，それ以降の遺構と考えられる。

竪穴住居跡の遺構計測値は第１表～第３表に，土器・石器などの遺物観察表・計測表は第４表～第６表・第７表～第32表に掲載している。なお，縄文時代に帰属すると考えられる礫群と炉穴は後述「第６節　旧石器時代～縄文時代の調査」に掲載している。

■竪穴住居跡（ＳＡ１～ＳＡ89）

Ａ区全体で89軒検出された。住居跡は，包含層の残存状況との関係もあるが，東側から南側にかけての周縁部に集中する。竪穴住居跡群は，この周縁部に幅５～10ｍ程の帯状をなし，切り合いながら検出された。竪穴住居跡は，多くの切り合いのためコーナー付近のみ検出や土坑と区別がつかないものがあり，竪穴住居跡であるかどうかの検討が充分に行えないものがあったが，多くが一辺3.0～4.5ｍの方形をなす。竪穴住居跡の主軸は，主に傾斜面に直交するように配置されている。柱穴は，４本検出されたものがＳＡ84の１軒，２本検出が数軒と非常に少なく，ほとんどの住居跡で柱穴が検出されなかった。柱穴をもたない構造が本遺跡住居跡群の特徴の１つとして挙げられる。

Ａ区において，竪穴住居跡群は切れ目がない程密集しているが，Ｍライン付近に竪穴住居跡が無い空白地帯が幅約20ｍ程ある。ここを境界として東側をＡ群・南西側をＢ群とする。さらにＡ・Ｂ各群の中でも小グループが細分できる。以下にＡ群の北側より個別の竪穴住居跡の説明を若干くわえるが，調査時の調査方法（検出された順に遺構番号を付けた）の問題で，住居跡番号がランダムになっていることを予め断っておく。

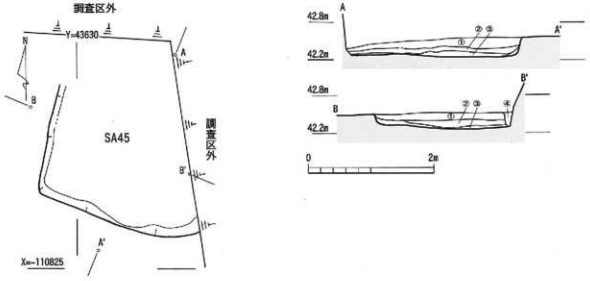
第34図　A・C区地形図及び遺構配置図（1／1,000）

（1）A群

Nラインより東側の一群である。群集状態によってさらにA1～A5の小グループに細分できる。①A－1群…A群の中でも最北部，X軸は14～16・Y軸はO～Qライン内に位置する。SA45・44・43の3軒から成る。

45号竪穴住居跡（SA45・第35図・第36図－343～349）

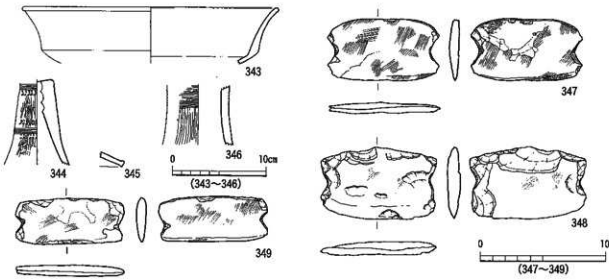
遺構：A－1群の最北部，A群全体でも最北部の北東隅P14グリッドで検出された。後世の造成で北側と東側が消失しており，全体の1／3程の残存状態と推測される。平面形態は，残った南辺と西辺が直交しておらず，歪んだ四角形と考えられる。規模は不明であるが，現存する南辺が曲がり始めで集束していることや南辺長約2.6mであることを考えれば，一辺3m前後であると推測できる。遺物は遺構面全体から万遍なく出土した。



45号竪穴住居跡土層注記（SA45）
①黒 褐 色 土(Hue 10YR-2/2)…住居跡埋土。径2cm以下の褐色粒を少量含む。土質はやわらかく粘性がある。
②黒 褐 色 土(Hue 10YR-2/2) …住居跡埋土。径2cm以下の褐色粒を多く含む。土質は①層と似ている。
③褐色粘質土(Hue 7.5YR-4/4)…床土もしくは初期流入土。①②層に比べ土質は硬い。
④黒　色　土(Hue 10YR-2/2)…後世の攪乱土。

第35図　45号竪穴住居跡（SA45）図（1／60）

遺物：343～345は高坏である。343は一度屈曲し，外反しながら立ち上がる坏部形態B類をもつ。344・345は同一個体高坏の脚部である。344は縦方向のミガキを施した脚柱部に横走する凹線文と羽状の連続刺突文を施す。345はおそらく高坏の脚裾部である。345と同様外面に羽状の連続刺突文を施し，裾端部に凹線文を施す。346は器台である。縦方向のミガキの後に脚柱部に横走する数条の凹線文をもつ。SA107出土のものなどと類似点がある。344～346は瀬戸内系凹線文の流れをくむ。347～349は石庖丁である。本遺跡では1軒の竪穴住居跡から通常1本が出土する例が多いが，この住居跡においては3本である。いずれも抉りのあるⅡ類に分類される。347はⅡD類・348・349はⅡC類に分類される。



第36図　45号竪穴住居跡（ＳＡ45）出土遺物図（１／４・１／３）

44号竪穴住居跡（ＳＡ44・第37図・第38図－350～364）

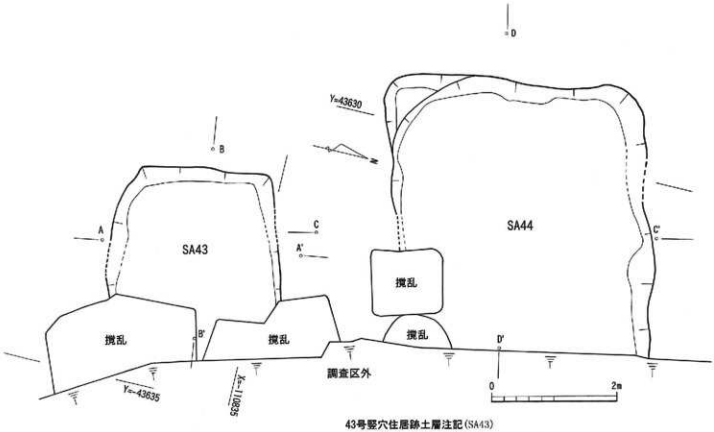
遺構：Ａ－１群の中位，Ｐ15グリッドで検出された。東辺が後世の造成で東側が消失しているが，遺構は東側の一部以外ほぼ残っている。平面形態は北辺の現存長がほぼ4.7m，西辺長が４mであることから，方形に近い長方形であったと考えられる。遺物は西壁と中央部に若干の集中がみられる。

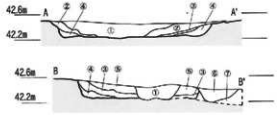
遺物：350～352は甕である。350は口唇部形態Ｂ類・口縁部形態Ａ類・胴部形態Ａ類の特徴をもつ甕Ⅰ類である。351は口唇部形態Ｂ類・口縁部形態Ｂ類・胴部形態Ｃ類の特徴をもつ甕Ⅱ類である。352は小型甕である。形状は350に似ており，甕Ⅰ類である。353～355は壺である。354は小型壺で，口縁部形態Ａ類・胴部形態Ａ類・底部形態Ａ類をもつ。357～358・361は鉢である。いずれも鉢ＩＣ類であるが，357は底部形態Ｂ類をもつ。361は欠損しているが，欠損状態から底部形態Ａ類かＢ類と考えられる。359・360・362は高坏である。359・360は小型である。362は脚裾部が膨らむ脚部形態Ｃ類で，高坏Ⅲ類と考えられる。363は石庖丁である。抉りをもつ直背直刃タイプである。刃部は比較的よく磨かれているが，表裏面は粗く打ち欠いた後に研磨を施している。抉りは浅く，未完成品のような印象をうける。364は緑色頁岩製の剥片で，石鏃などの未製品もしくは素材剥片と考えられる。

43号竪穴住居跡（ＳＡ43・第37図・第39図－365～369）

遺構：Ａ－１群の南部，Ｐ15グリッドで検出された。ＳＡ44同様，東辺が後世の造成と攪乱で東側が消失しているが，遺構は東側の一部以外ほぼ残っている。平面形態は一辺約2.6mの方形だと考えられる。遺物は中央部から北壁にかけて出土した。

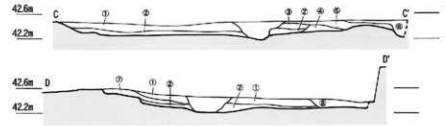
遺物：365・366は壺である。366は肩部片であり，ヘラ描きに２本の沈線が確認される。366は脚台付





43号竪穴住居跡土層注記(SA43)

①**黒褐色土**…後世の撹埋土。
②**黒褐色土**…①層と同じく後世の撹埋土
③**暗褐色土**…住居跡埋土。径１㎜程の明褐色粒を含む。
④**暗褐色土**…アカホヤ火山灰土ブロックや少量の炭化物を含む。住居跡の初期流入土と考えられる。
⑤**黒褐色土**…住居跡埋土。③層と似ているが，色調が黒色がかっている。
⑥・⑦**黒色土**…土質は柔らかい。後世の撹乱土。

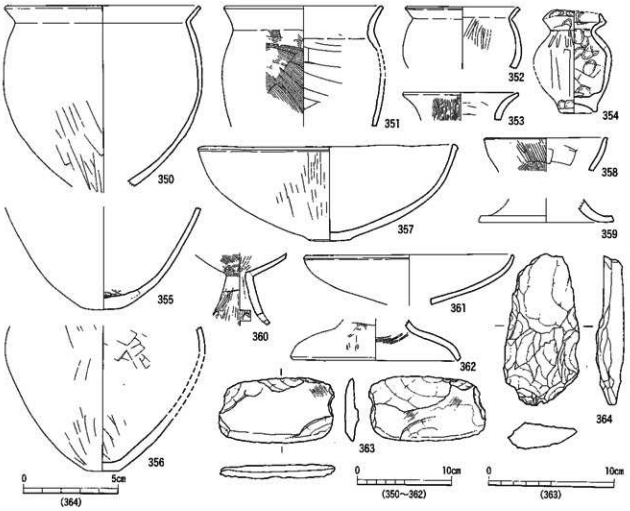


44号竪穴住居跡土層注記(SA44)

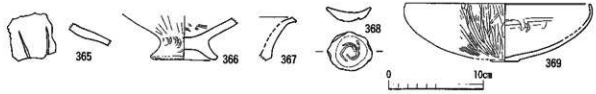
①**黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…住居跡埋土。径１㎜程の黄褐色粒を含む。土器片を多く含む。
②**暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…住居跡床土か埋土。径１～３㎝程の褐色を含む。上層に土器片を多く含む。
③**黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…住居跡埋土。炭化細粒や土器片を含む。
④**黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…住居跡埋土。径２㎝程の褐色土のブロックを含む。
⑤**黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…住居跡埋土。炭化細粒や土器片を含む。③層と似ているが，黒色土のブロックを多く含む。
⑥**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…後世の撹乱土。土質はやわらかく，土器片を多く含む。
⑦**黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…住居跡埋土。径２㎝程の褐色土のブロックを含む。②層と似ているが，色調が黒色かかっている。
⑧**黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…後世の撹乱土。ブロック土などは含まず，堆積層と考えられる。
⑨**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…後世の撹乱土。

第37図　43・44号竪穴住居跡（ＳＡ43・44）図（１／60）

きの底部形態A類をもつ。367・368は高坏である。367は屈曲して直立気味に立ち上がる坏部形態A類とB類の中間形態をもつ。368は脚部の補充部分と考えられる。下側に木棒で押さえた痕跡のようなものが残る。369は胴部形態C類と底部形態B類をもつ鉢ⅠC類である。



第38図　44号竪穴住居跡（ＳＡ44）出土遺物図（1／4・1／3・2／3）

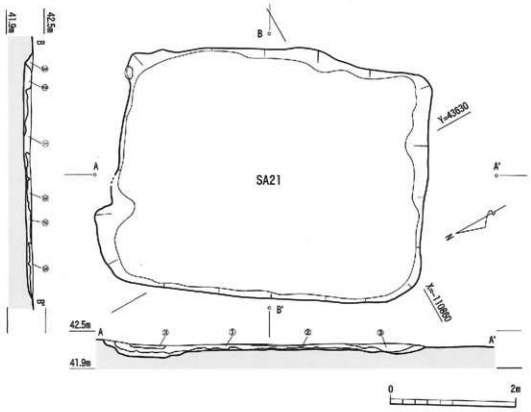


第39図　43号竪穴住居跡（ＳＡ43）出土遺物図（1／4）

②A－2群…A群の中でも北東側の最東部，X軸は16～19・Y軸はP～Rライン内に位置する。ＳA21・34～42・63～64の12軒と土坑３基（ＳC11・15・21）から成る。

21号竪穴住居跡（ＳＡ21・第40図・第41図－370～387）

遺構：Ａ－２群中でも他の密集地から少し離れてＰ17グリッド南西部に単独で位置する。上部が削平によりほとんど消失しており，検出面からの深さは約10cm前後と浅い。しかし，遺構面全体の床面付近から多くの遺物が検出された。平面形態は約南北５ｍ×東西４ｍと長方形を呈し，床面積は18.9㎡を測る。

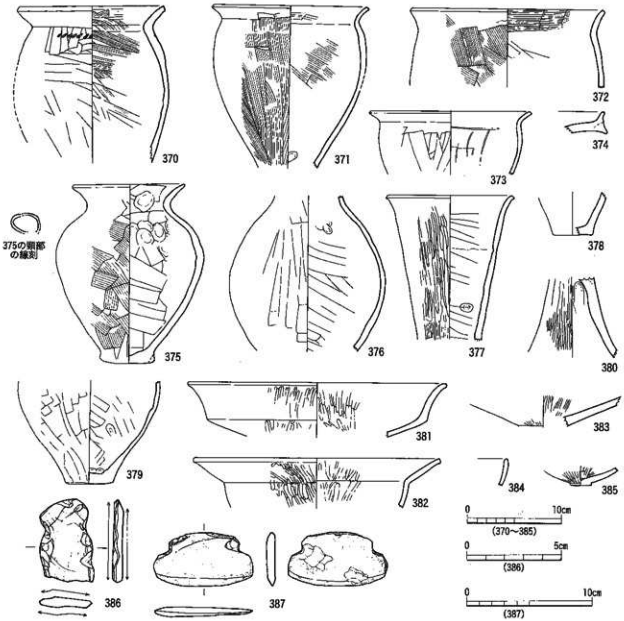


21号竪穴住居跡土層注記(SA21)
①黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…住居跡埋土。径３cm以下の黄褐色ブロックを含む。
②暗褐色土(Hue 10YR-3/4)…住居跡床土。径５cm以下の黄褐色土ブロックを含む。
③黒褐色土(Hue 7.5YR-2/2)…後世の撹乱土。やわらかく，しまりがない。

第40図　21号竪穴住居跡（ＳＡ21）図（１／60）

遺物：370～373は甕である。370・371・373は頸部で明瞭に屈曲する甕Ⅱ類である。370は頸部に斜位の連続刻文を施している。371・373は胴部形態Ｃ類，370は胴部形態Ｄ類の特徴をもつ。更に373の口唇部は凹面状にくぼむ口唇部形態Ａ類である。372は緩やかに屈曲する口縁部形態Ｂ類である。374～378・379は壺である。374は二重口縁壺の二次口縁部であり，楔状の連続刺突文が施されている。375は緩やかに外反する口縁部形態Ｄ類・胴部形態Ａ類に円盤状貼付底系の平底をもち，壺Ⅳ類である。肩部付近にはヘラ描きによる円弧状の記号が認められる。377は長頸の壺Ⅴ類の頸部である。378は底部と考えられるが，鉢の底部の可能性がある。380・381・383は高坏である。381は一度屈曲した後に外反しながら立ち上がる坏部形態Ｂ類である。382・383・384は鉢である。382は一度屈曲した後に外反する胴部形態

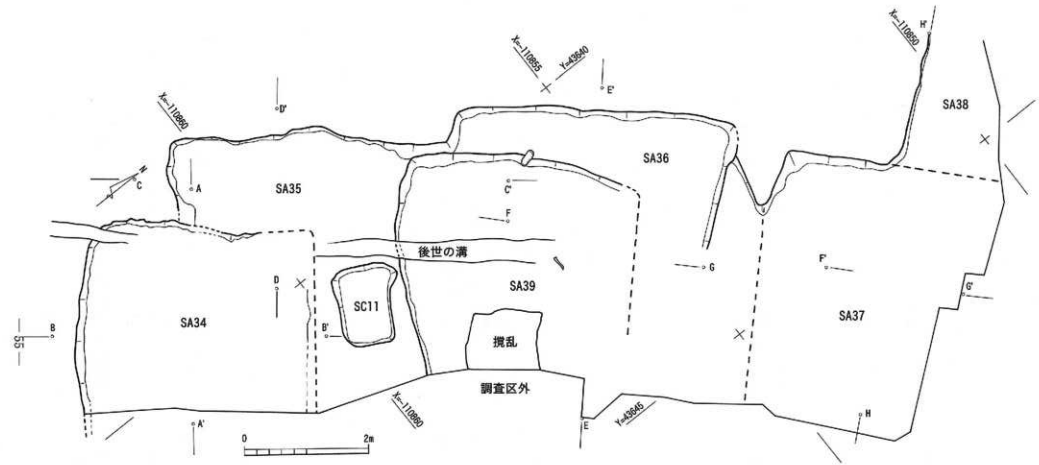
B類である。386は砥石である。頁岩製のⅡ類（不定形剥片砥石）である。両端を打ち欠き，上部に抉りをもつ。抉りに紐をかけて携帯用としていたのでろうか。387は頁岩製石庖丁である。両端に抉りをもち，比較的直線的な背部に弧状の刃部をもつ，ⅡB類に分類される。



第41図　21号竪穴住居跡（ＳＡ21）出土遺物図（1／4・1／2・1／3）

34号竪穴住居跡（ＳＡ34・第42・43図・第44図・388）

遺構：Ａ－２群中でも最南部，Ｐ18グリッド北東部で検出された。遺構は，ＳＡ35を北辺と西辺で切り，南側を造成によって切られており，一部境界が不明瞭である。平面形態は南辺と西辺を基に考えると，方形または長方形になる。方形と仮定すると，一辺約3.8m前後となりそうである。遺物は西壁近くに細片が数点出土したのみである。傾斜上部の壁面近くに遺物が集中しているのは，流れ込みの可能性が大きい。

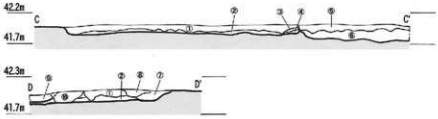


34号竪穴住居跡土層注記(SA34)

①**暗褐色土**…住居跡の埋土。暗オリーブ褐色土ブロックを含む。

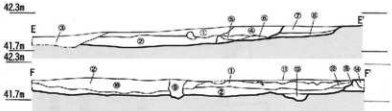
②**暗オリーブ褐色土**…住居跡埋土か床土。地山（基本層序の第Ⅳ層）の土質に近い。③**黒色土**…他遺構埋土か後世の撹乱土。しまりなくボロボロしている。④**暗褐色土**…住居跡埋土か他遺構埋土。暗オリーブ褐色土を多く含む。⑤**暗褐色土**…ＳＡ35の埋土。①層に比べ土質はしまりがあり硬い。⑥**オリーブ褐色土**…ＳＡ35の埋土。②層に比べ土質はしまりがあり硬い。⑦**褐色土**…他遺構埋土か後世の撹乱土。しまりなくボロボロしている。⑧**黒褐色土**…他遺構埋土か後世の撹乱土。しまりなくボロボロしている。⑨**黒オリーブ褐色土**…おそらく住居跡埋土。①②層と少し土質が似ている。

第42図　34・35・36・37・38・39号竪穴住居跡（ＳＡ34・35・36・37・38・39）・11号土坑（ＳＣ11）図（１／60）



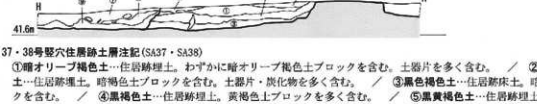
35・39号竪穴住居跡土層注記(SA35・SA39)

①**黒色土**…住居跡埋土。1㎝以下の炭化物と土器片を多く含む。／②**暗オリーブ褐色土**…住居跡埋土か床土。地山（基本層序の第Ⅳ層）の土質に近い。／③**黒オリーブ褐色土**…SA35構築時SA39からの流入土と考えられる。／④**暗オリーブ褐色土**…住居跡埋土。黄褐色軽石ブロックを多く含む。／⑤**黒オリーブ褐色土**…住居跡埋土。下部より多量の土器片をともなう。／⑥**黒オリーブ褐色土**…SA39の埋土か床土。径3㎝以下の暗褐色土ブロックを多く含む。／⑦**褐色土**…後世の攪乱土。黄褐色軽石ブロックを多く含む。／⑧**黒色土**…トレンチャーによる攪乱土。／⑨**暗褐色土**…SA34埋土。一部⑩**黒色土層**…に切られている。／⑩黒色土…後世の土坑らしき別遺構の埋土。



36・39号竪穴住居跡土層注記(SA36・SA39)

①**黒褐色土**…住居跡埋土。わずかに暗オリーブ褐色土ブロックを含む。土器片を多く含む。／②**暗褐色土**…住居跡埋土。わずかに暗オリーブ褐色土ブロックを含む。地山（基本層序の第Ⅳ層）の土質に近い。／③**黒色土・黄褐色混合土**…後世の攪乱土。しまりなくボロボロしている。／④**暗オリーブ褐色土**…住居跡埋土。黄褐色軽石ブロックを多く含む。／⑤**暗褐色土**…住居跡埋土。褐色軽石ブロックを多く含む。／⑥**黒オリーブ褐色土**…わずかに径2㎜以下の橙色軽石粒含む。／⑦**暗オリーブ褐色土**…住居跡(SA36)埋土。下部に土器片を多く含む。／⑧**暗褐色土**…住居跡(SA36)埋土。褐色土ブロックを含む。／⑨**黒オリーブ褐色土**…木根による攪乱土。／⑩**黒褐色土**…おそらく住居跡埋土。①層と似ているが、木根がびっしりと生えている。／⑪**黒褐色土**…流入土。／⑫**黒黄灰褐色土**…住居跡埋土。しまりなくボロボロしている。／⑬**オリーブ褐色土**…木根による攪乱土。しまりなくボロボロしている。



37・38号竪穴住居跡土層注記(SA37・SA38)

①**暗オリーブ褐色土**…住居跡埋土。わずかに暗オリーブ褐色土ブロックを含む。土器片を多く含む。／②**黒オリーブ褐色土**…住居跡埋土。暗褐色土ブロックを含む。土器片・炭化物を多く含む。／③**黒色褐色土**…住居跡床土。暗黄褐色土ブロックを含む。／④**黒褐色土**…住居跡埋土。黄褐色土ブロックを多く含む。／⑤**黒黄褐色土**…住居跡埋土。しまりがあり硬い。／⑥**暗オリーブ褐色土**…住居跡床土か埋土。③層と似ているが硬い。／⑦**黒色土**…後世の攪乱土。しまりがなくボロボロしている。／⑧**暗褐色土**…後世の攪乱土。炭化粒を多く含む。／⑨**暗褐色土**…後世の攪乱土。⑤層と似ているが、褐色土ブロックを多く含む。

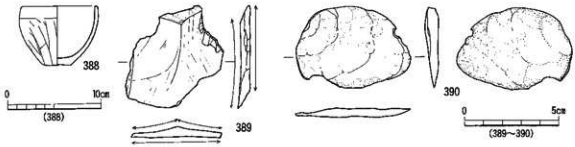
第43図　35・36・37・38・39号竪穴住居跡（ＳＡ35・36・37・38・39）・11号土坑（ＳＣ11）土層断面図（1／60）

遺物：388は小型の鉢である。内湾しながら立ち上がる口縁部に平底の底部をもち，器面調整は，外面工具ナデ・内面ナデを施している。

35号竪穴住居跡（ＳＡ35・第42・43図・第44図－389～390）

遺構：Ａ－２群中で南側，Ｐ17グリッド南東側で検出された。ＳＡ34に南東側，ＳＣ11に東側，ＳＡ39に北東側を切られており，当群中で古い段階のものと考えられる。多くの遺構に切られており，規模・平面形態は不明であるが，平面形態は南辺と西辺を基に考えると方形または長方形になり，一辺約3.6ｍ前後と推測される。遺物はＳＡ34と同じく傾斜上面に細片が数点出土しており，同様に流れ込みの可能性が大きい。

遺物：389は頁岩製の砥石である。不定形剥片素材のⅡ類であり，表裏面ともに研磨痕が確認できる。上部に石匙に付くような摘みのようなものがある。紐でも掛けて携帯用にしていたのであろうか。390は砂岩製の鮫形剥片石器である。片面に自然面を残すⅠ類である。縄文時代早期に属する遺物の可能性もある。



第44図　34・35号竪穴住居跡（ＳＡ34・35）出土遺物図（１／４・１／２）

36号竪穴住居跡（ＳＡ36・第42・43図）

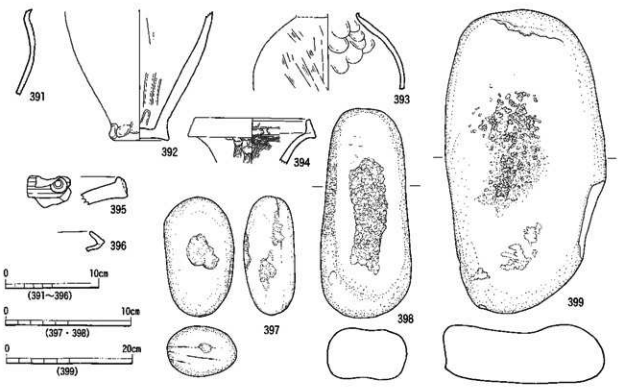
遺構：Ａ－２群中で中位，Ｑ17グリッド西側で検出された。ＳＡ39に東側の大部分を切られ，北側を攪乱によって遺構の大部分が消失している。平面形態は北辺と西辺を基に考えると方形または長方形になり，一辺約4.5ｍ前後と推測される。遺物は攪乱された東部より出土したが，住居跡のものと判断できない。

37号竪穴住居跡（ＳＡ37・第42・43図・第45図－391～399）

遺構：Ａ区中でも最東部，Ｑ17グリッド中央付近で検出された。北側をＳＡ38との切り合い，西側を攪乱によって遺構立ち上がり部分が不明瞭である。平面形態は不明であるが北西隅に唯一残るコーナー部分から判断して，方形もしくは長方形を呈すると考えられる。遺物は遺構面の少し上の全面から多量に出土した。流れ込みの可能性もあるが，この区画だけ完形に近い土器片が多量に集中すること，遺構掘削面の１層上の層中から出土していることから考えて，遺構掘削面上の１層は床土で，その上に床面があると判断した。

遺物：391～392は甕である。392は頸部～胴部片である。緩やかに屈曲する頸部と肩の張らない胴部，タタキによる器面調整を特徴とする。392は端部が指ナデによる小さな張り出しをもち，わずかな上底

をもつ底部形態B類である。393～396は壺である。394・396は二次口縁部に櫛描波状文をもつ口縁部形態A類である。395は肥厚した口唇部に凹線文と円形浮文を施す口縁部形態B類である。397～398は砂岩製の敲石である。ともに表面中央部と側面に明瞭な敲打痕を残す。特に，398の敲打痕は著しく，窪んでいる。399は長さ約32cmの砂岩製の台石である。中央部に敲打痕が認められる。

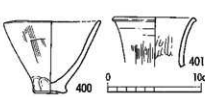


第45図　37号竪穴住居跡（ＳＡ37）出土遺物図（1／4・1／3・1／6）

38号竪穴住居跡（ＳＡ38・第42・43図・第46図－400～401）

遺構：ＳＡ37とＳＡ40の間にわずかに残る竪穴住居跡である。あまりにもわずかな残存状況のため，住居跡と判断することが難しかった。しかし，埋土が上坑のように単一層的ではなく，水平近く堆積していたことから住居跡であるとの判断に到った。遺物は細片が散見される程度であった。

遺物：400は小型の鉢である。指ナデによってわずかに張り出した端部と若干上底気味の底部をもち，直線的に外側に開く器形である。401は壺の口縁部である。長頸の口縁部形態E類で，口唇部をわずかに肥厚させ口縁帯を形成している特徴をもつ。



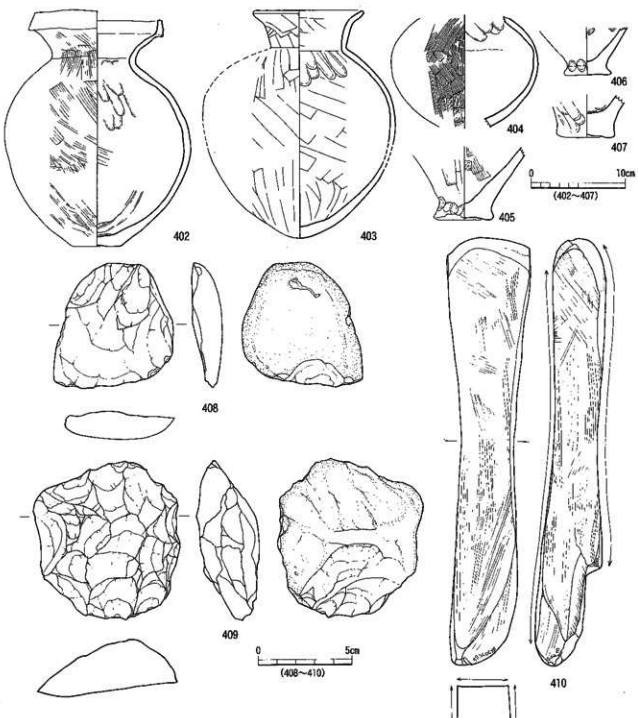
第46図　38号竪穴住居跡（ＳＡ38）出土遺物図（1／4）

39号竪穴住居跡（ＳＡ39・第42・43図・第47図－402～410）

遺構：Ａ－２群中で南側，Q17グリッド南西側で検出された。西側でＳＡ35・ＳＡ36を切り，南側が造成により撹乱された形で検出された。西辺と南辺が直交はしているが，南辺が弓状に曲がっており，多少歪んだ方形を呈する平面形態となりそうである。規模は西辺長より約４ｍ前後だと考えられる。遺物は傾斜上面

の西壁付近に集中しており，ＳＡ35・36同様に流れ込みの可能性が大きい。

遺物：402～406は壺である。402は口縁部形態Ａ類・胴部形態Ｂ類・底部形態Ｂ類をもつ壺Ⅰ類である。403は口縁部形態Ｃ類・胴部形態Ｂ類・底部形態Ｄ類の壺Ⅲ類である。404は胴部形態Ｃ類である。405・406は指ナデによって端部を張り出させた平底タイプで底部形態Ｄ類である。407は底部片であり



第47図　39号竪穴住居跡（ＳＡ39）出土遺物図（1／4・1／2）

不明であるが，おそらく甕の底部である。408は砂岩製の鉾形剥片石器である。片面に自然面を残し，ド端を剥離によって刃部作出を行っている。409は泥岩製の礫器である。風化著しいが，片面に自然面の残る礫の周縁部を打ち欠いて鋭利な刃部に仕上げている。410は貞岩製の砥石である。断面方形でⅠA類の定型柱状砥石である。４面全て凹面に窪んでおり，ｂ種研磨痕（擦痕）が顕著に認められる。

40号竪穴住居跡（ＳＡ40・第49図・第48図－411）

遺構：Ａ－２群中で北側，Ｑラインと17ラインの交点周辺で検出された。北西側をＳＡ41に，東側をＳＡ38との切り合いによって境界が不明瞭となり，北側を後世の攪乱によって消失している。平面形態は南辺と東辺を基に考えると，一辺約3.7m前後の方形か長方形を呈すると考えられる。

遺物：411は甕の胴部～底部である。上底で端部が張り出さない底部形態Ｃ類である。

41号竪穴住居跡（ＳＡ41・第49図・第48図－412）

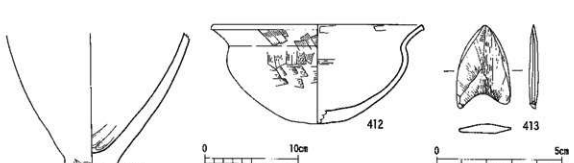
遺構：Ａ－２群中で北側，Ｐ16グリッド東側で検出された。南東側をＳＡ40と，北側をＳＡ42と切り合っており，北側は後世の造成によって攪乱され，遺構の半分近くが消失している。平面形態は，一部検出された南辺と西辺を基に考えると，一辺約5.7m前後の方形もしくは長方形となり，本遺跡では最大級の竪穴住居跡になると推測される。

遺物：412は鉢である。頸部付近で緩やかにＳ字状をえがく胴部形態Ａ類とＢ類の中間的要素をもつ。底部は若干レンズ状に肥厚した丸底（底部形態Ｃ類）である。

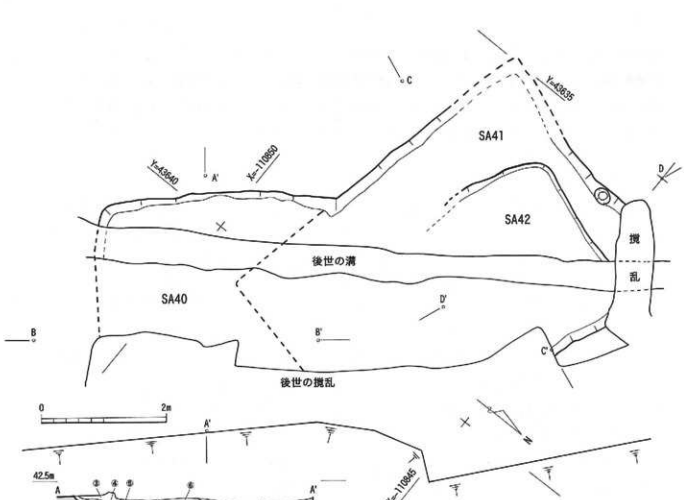
42号竪穴住居跡（ＳＡ42・第49図・第48図－413）

遺構：Ａ－２群中で北側，Ｐ16グリッド東側で検出された。ＳＡ41に包含される形で，後世の造成による攪乱によって不明瞭な検出状況である。辛うじて北辺と南辺が平行し，南辺と西辺が直交することから，平面形態は一辺３m前後の方形を呈する。遺物は細片が数点と磨製石鏃が１点出土したのみである。

遺物：413は緑色貞岩製の磨製石鏃である。欠損部分はなく，ほぼ全形を留める。形状は，基部がやわらかい弧を描く凹基であり，中央に鏑をもつ。



第48図　40・41・42号竪穴住居跡（ＳＡ40・41・42）出土遺物図（１／４・２／３）



40号竪穴住居跡土層注記(SA40)

①**黒褐色土**(Hue 7.5YR-2/1)…後世の撹乱土。
②**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…後世の溝覆削による撹乱土。／③**暗褐色土**(Hue 7.5YR-2/4)…住居跡の埋土。径1㎜程の褐色と橙色土粒を含む。2㎜前後の炭化物細粒を若干含む。／④**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…土質・含有物ともに③と似ているが，色調が少し暗い。／⑤**褐色土**(Hue 7.5YR-4/6)…住居跡の埋土か床土。暗褐色土が多く混じる。／⑥**暗褐色**(Hue 7.5YR-3/4)…住居跡の埋土。／⑦層と似ているが，含有物の量が多く，炭化物が4㎜前後と若干大粒である。／⑦**褐色土**(Hue 7.5YR-4/6)…SA41の埋土か床土。径1㎜程の褐色と橙色土粒を多量に含む。1㎜以下の炭化物細粒を若干含む。

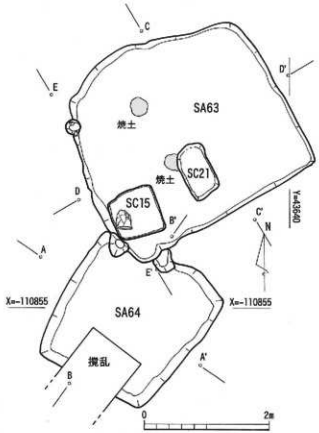
41・42号竪穴住居跡土層注記(SA41・SA42)

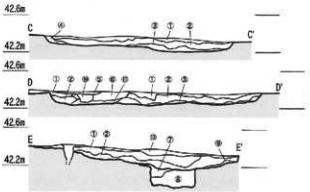
①**暗褐色土**(Hue 10YR-3/4)…後世の溝覆削による撹乱土。／②**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…SA42の埋土。径1㎜程の褐色と橙色土粒を含む。5㎜以下の炭化物細粒を多量に含む。／③**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…木根による撹乱土。／④**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…SA42の埋土か床土。明褐色土ブロックを多量に含む。2㎜以下の炭化物細粒を含む。／⑤**褐 色 土**(Hue 7.5YR-4/4)…SA41の埋土。径1㎜程の褐色・橙色・白色土粒を含む。5㎜以下の炭化物細粒を多量に含む。／⑥**黒褐色土**(Hue 10YR-2/3)…トレンチャーによる撹乱土。／⑦**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…⑤層と似ているが，暗褐色土ブロックを多く含み，色調が若干暗い。／⑧**黒褐色土**(Hue 7.5YR-2/2)…SA41の埋土。褐色土ブロックを多量に含む。5㎜以下の炭化物細粒を含む。／⑨**褐 色 土**(Hue 7.5YR-4/4)…地山の可能性。土質は粘性・しまりともにあり。

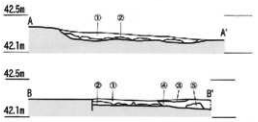
第49図　40・41・42号竪穴住居跡（SA40・41・42）図（1／60）

63号竪穴住居跡（ＳＡ63・第50図・第51図－414）

遺構：Ａ－２群中位，Ｐ17グリッド北東側で検出された。ＳＡ40とは東辺で近接するが，切り合いはない。ＳＡ64を南西隅付近で，ＳＣ11とＳＣ15を切った形で検出された。北辺が一部弧状に曲がっており，整然とではないがおよそ一辺2.3m前後の方形である。遺物は西壁周辺で細片がわずかに出土した。







64号竪穴住居跡土層注記(SA64)

①**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…住居跡埋土。炭化粒を多く含む。
②**褐色土**(Hue 7.5YR-4/6)…住居跡埋土。暗褐色土ブロックと少量の炭化粒を含む。
③**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…後世の攪乱土。褐色土粒・炭化粒を少量含む。
④**黒褐色土**(Hue 7.5YR-4/3)…トレンチャーによる攪乱。土質はしまりなくボロボロしている。
⑤**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…トレンチャーによる攪乱。④層と類似しているが，色調が暗い。

63号竪穴住居跡土層注記(SA63)

①**褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…住居跡埋土。炭化粒・褐色土粒を含む。
②**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…住居跡埋土。径１cm以下の明褐色土ブロックと少量の炭化粒を含む。
③**暗褐色土**(Hue 7.5YR-2/3)…住居跡床土か埋土。①層と似ているが硬い。
④**明褐色土**(Hue 7.5YR-5/8)…住居跡埋土。褐色土粒を含む。
⑤**暗褐色土**(Hue 7.5YR-2/2)…トレンチャーによる攪乱。
⑥**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…明褐色土ブロックを含む。
⑦**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…ＳＣ15の埋土。土質はやわらかくしまりがない。
⑧**黒褐色土**(Hue 7.5YR-2/2)…ＳＣ15の埋土。褐色土粒・炭化粒を少量含む。
⑨**明褐色土**(Hue 7.5YR-5/8)…ＳＣ15の埋土。土質は比較的硬い。
⑩**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…後世の溝構埋土。褐色土ブロック含む。
⑪**暗褐色土**(Hue 7.5YR-2/3)…住居跡床土か埋土。①②層と似ているが硬い。
⑫**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…住居跡埋土か基本層序の第Ⅳ層。褐色土粒と炭化物を含む。
⑬**黒褐色土**(Hue 7.5YR-2/2)…後世の攪乱土。黒色土がブロック状にはいる。

第50図　63・64号竪穴住居跡（ＳＡ63・64）・15・21号土坑図（ＳＣ15・21）図（１／60）

遺物：414は頁岩製の砥石である。断面方形でⅠA類の定型柱状砥石である。一部欠損しているが，４面全て凹面に窪んでおり，ｃ種研磨痕（光沢痕）が顕著に認められ，部分的にａ種研磨痕（線状痕）が認められる。

64号竪穴住居跡（ＳＡ64・第50図）

遺構：Ａ－２群中位，Ｐ17グリッド東側で検出された。ＳＡ64に北隅を切られ，南西側も後世の攪乱によって消失している。平面形態は一辺３～3.5ｍの略方形で比較的小さい。遺物は全面より出土したが，量的に多くなく細片であった。床面検出の際に中央よりやや南西よりの場所２カ所に径30㎝程度の赤褐色土の集中が確認できた。

11号土坑（ＳＣ11・第50図・第52図－415）

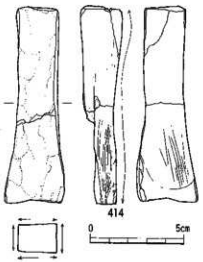
遺構：Ａ－２群南端部，Ｑ17グリッド南西側のＳＡ35の中で検出された。長軸125㎝・短軸82㎝の隅丸方形を呈する。深さはＳＡ35床面より約20㎝である。ＳＡ35との関係は，土坑のある場所のＳＡ35の床面レベル付近から遺物が多く出土しており，ＳＡ35に穿孔するものと考えることができる。

遺物：415は鉢である。内湾しながら立ち上がる口縁部形態Ｃ類，底部は貼付円盤状平底の底部形態Ｂ類をもつ鉢ⅠＣ類である。

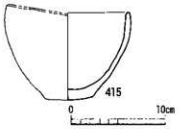
15号土坑（ＳＣ15・第50図・第53図－416）

遺構：Ａ－２群中位，ＳＣ11同様，Ｐ17グリッド北東側のＳＡ63の中で検出された。一辺約80㎝の方形を呈する。土層断面の観察によると，ＳＡ63がＳＣ15を切っていることがわかる。深さはＳＡ63の床面より約30㎝である。遺物は西壁近くから完形の甕が壁にもたれるように１点出土した。土坑の性格についてはっきりとしたことは不明であるが，貯蔵土坑の可能性がある。

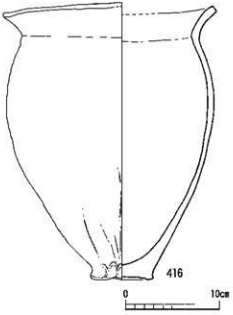
遺物：416は甕である。口縁部は緩やかに屈曲する口縁部形態Ｂ類，長形胴で上部に最大径のある胴部形態Ｃ類，平底で端部の張り出さない底部形態Ｅ類を特徴にもつ。甕Ⅱ類と甕Ⅲ類の中間的要素をもつ。



第51図　63号竪穴住居跡（ＳＡ63）
出土遺物図（１／２）



第52図　11号土坑（ＳＣ11）
出土遺物図（１／４）



第53図　15号土坑（ＳＣ15）
出土遺物図（１／４）

21号土坑（ＳＣ21・第50図）

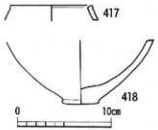
遺構：Ａ－２群中位，Ｐ17グリッド北東側のＳＡ63の中で検出された。長軸88cm・短軸47cmの隅丸方形を呈する。ＳＡ63の図面では，赤褐色土を切るような形となっているが，ＳＡ63との関係は，後述するＳＣ15同様ＳＡ63に穿孔するものと考えられる。ＳＡ63検出作業中の検出であるために不明な点は多い。しかし，土坑の規模や主軸方向などＳＣ15と共通するものは多い。遺物は出土しなかった。

③Ａ－３群…Ａ群の中でも最大の群集部，Ｘ軸は17～24・Ｙ軸はＮ～Ｑライン内に位置する。ＳＡ１～３・９～20・25～26・65～88の40軒と土坑４基（ＳＣ４・５・14・16）から成る。

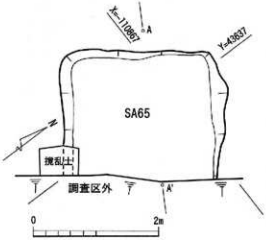
65号竪穴住居跡（ＳＡ65・第55図・第54図－417～418）

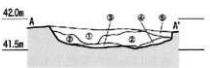
遺構：Ａ－３群北端部，Ｐ18グリッドで，Ａ－２群との境界付近で検出された。他の住居跡と切り合いはなく，単独で存在する。東側が後世の造成により消失しており，規模や平面形態は不明であるが，一辺2.5m前後の方形もしくは長方形である。遺物は西壁の北コーナー部分に集中して検出された。

遺物：417・418は壺である。417は二重口縁をもつ壺Ｉ類と考えられる。二次口縁部には櫛描波状文を施している。418は底部であり，貼付円盤状の平底をもつ。



第54図　65号竪穴住居跡（ＳＡ65）出土遺物（１／４）





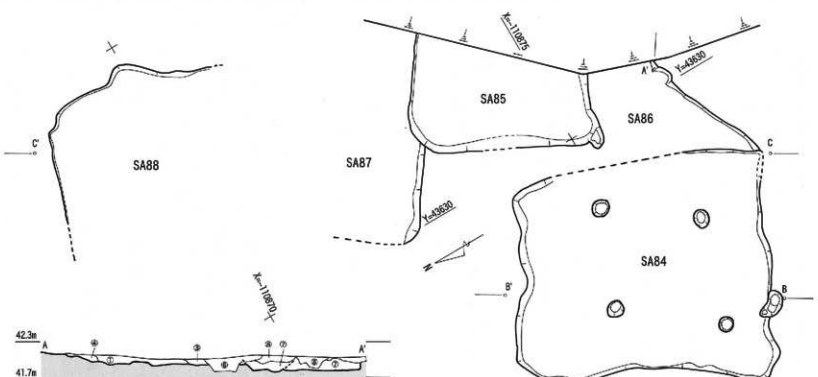
65号竪穴住居跡土層注記(SA65)

①黒褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…住居跡埋土と判断しているが，中央部が窪んでおり，別遺構の可能性もある。下部に弥生土器片を多く含む。／ **②暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…住居跡埋土。しまりなく柔らかく，含有物を殆ど含まない。／ **③暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…住居跡埋土か床土。全体的に黄褐色土ブロックを多く含む。**④褐色土**(Hue 10YR-4/4)…住居跡埋土か床土。暗褐色土ブロックを多く含む。／ **④黒褐色土**(Hue 10YR-3/3)…木根による撹乱土。

第55図　65号竪穴住居跡（ＳＡ65）図（１／60）

84号竪穴住居跡（ＳＡ84・第56図）

遺構：Ａ－３群北側Ｏ19グリッド東側で，一部削平により消失しているが完全に近い形で検出された。４辺は歪みながらもほぼ方形を呈し，南北約４ｍ・東西約3.6ｍの規模を測る。検出面が水平でなく凹凸が激しく，住居であるかどうか疑問が残るが，４基のピットが柱穴配置のように確認されたことから住居跡と確認した。遺物は出土しなかった。



84・85・86・87・88号竪穴住居跡土層注記（SA84・85・86・87・88）

①暗褐色土（Hue 10YR-3/4）…ＳＡ84の埋土。径１mm程の褐色土粒と炭化物を含む。／ ②暗褐色土（Hue 7.5YR-3/4）…ＳＡ84の埋土。径１mm程の褐色土粒を含むと炭化物細粒を多量に含む。／ ③暗褐色土（Hue 7.5YR-3/4）…ＳＡ84の埋土。①層と似ているが，含まれる炭化物が多い。／ ④暗褐色土（Hue 10YR-3/4）…ＳＡ84の埋土。③層と似ている。／ ⑤暗褐色土（Hue 10YR-3/4）…小礫を多く含む。後世の撹乱土。／ ⑥黒褐色土（Hue 10YR-2/3）…後世の漂白剤による撹乱土。／ ⑦黒褐色土（Hue 10YR-2/2）…ＳＡ84の埋土か床土。黄褐色土ブロックを多く含む。／ ⑧黒褐色土（Hue 7.5YR-2/2）…後世の撹乱土。／ ⑨暗褐色土（Hue 10YR-3/4）…基本層序の第Ⅳ層。／ ⑩にぶい黄褐色土（Hue 10YR-4/3）…ＳＡ87の埋土。褐色土ブロックと炭化物を含む。／ ⑪褐色土（Hue 10YR-4/6）…ＳＡ87の床土だと考えられる。／⑫褐色土（Hue 10YR-4/4）…ＳＡ88の埋土か床土。ＳＡ87によって削平されている。

第56図　84・85・86・87・88号竪穴住居跡（ＳＡ84・85・86・87・88）図（１／60）

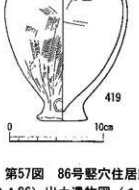
85号竪穴住居跡（ＳＡ85・第56図）

遺構：Ａ－３群北側Ｐ19グリッド西側で，東側約半分が後世の造成のために消失している形で検出された。西辺に対し北辺と南辺が直交しており，平面形態は一辺2.8m前後の方形か長方形だと推測できる。遺物は出土しなかった。

86号竪穴住居跡（ＳＡ86・第56図・第57図－419）

遺構：Ａ－３群北側Ｐ19グリッド西側で，ＳＡ84・85に切られ，東側約半分が後世の造成のために消失している形で検出された。平面形態や規模は不明であるが，南辺が直線的に2.3m残っていることから，一辺2.3m以上の方形または長方形と推測できる。遺物はわずかに弥生土器片が数点出土した。

遺物：419は鉢である。深鉢タイプで，内湾しながら立ち上がる鉢ＩＣ類である。底部は張り出しをもつ平底タイプである。



第57図　86号竪穴住居跡
（ＳＡ86）出土遺物図（１／４）

87号竪穴住居跡（ＳＡ87・第56図）

遺構：Ａ－３群北側Ｐ19グリッド北西側で，ＳＡ85に切られ，ＳＡ88と切り合う形で検出された。ＳＡ88ともに上部が削平され，床面付近のみの検出となり，平面形態・規模等不明である。しかし，わずかに検出された南辺などから，一辺3.4m以上の方形または長方形と推測できる。さらにＳＡ88との切り合い関係は，土層断面観察によって，ＳＡ88をＳＡ87が切る形であると判明した。遺物は南側に集中して出土したが，量的に少なく，細片ばかりで遺構に伴うと判断できる遺物は確認されなかった。

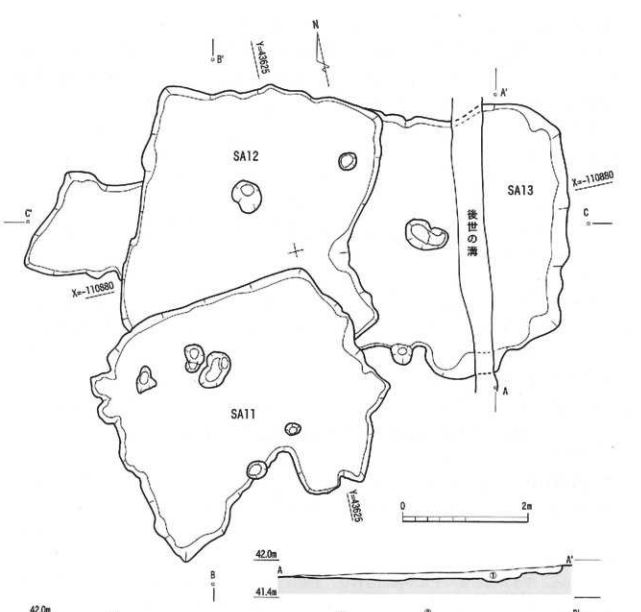
88号竪穴住居跡（ＳＡ88・第56図）

遺構：Ａ－３群北側Ｐ18グリッド南西側で，ＳＡ87と切り合う形で検出された。ＳＡ87との切り合い関係は，土層断面観察によってＳＡ88によって切られる形であると判明した。ＳＡ87同様，上部が削平され，床面付近のみの検出となり，平面形態・規模等不明である。しかし，わずかに検出された北辺・東辺から，一辺2.6m以上の方形または長方形と推測できる。遺物は遺構面が残っていた東側に土器片がわずかに集中しているが，細片ばかりで遺構に伴うと判断できる遺物は確認されなかった。

11号竪穴住居跡（ＳＡ11・第58図・第59図－420～425）

遺構：Ａ－３群北側，Ｏ20グリッド北側でＳＡ12を切る形で検出された。平面形態は一辺約3.5m～4.2m程度の方形基調であるが，南壁部分が一部最大で約100cm入り込む不正方形を呈する。上部が削平によりほとんど消失しており，検出面からの深さは約10cm前後と浅い。しかし，遺物は東側に比較的集中して出土した。

遺物：420は壺の底部である。底部付近は工具ナデを施している。鉢の底部の可能性もある。421は高坏の脚柱部である。残存している形状より脚部形態Ｂ類のものだと考えられる。422は一部欠損しており全形がわからないが土製の勾玉であると考えられる。423は頁岩製の石庖丁である。両端の抉りと直線的な背部に曲線的な刃部をもつⅡＢ類である。424は砥石である。ｃ種砥石をもつ砥面が４面ある

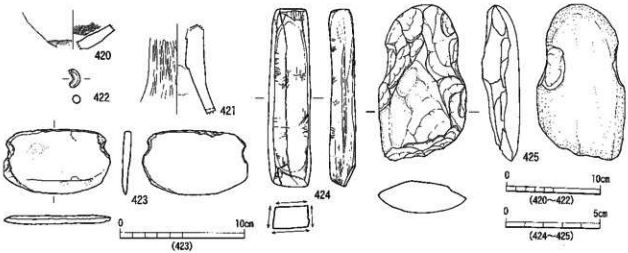


11・12号竪穴住居跡土層注記(SA11・SA12)

①**黒褐色土**(Hue 10YR-2/3)…ＳＡ13の埋土。／ ②**にぶい黄褐色土**(Hue 10YR-4/3)…ＳＡ11の埋土。／ ③**にぶい黄褐色土**(Hue 10YR-4/3)…ＳＡ11の埋土。５cm以下の明黄褐色土ブロックを多く含む。／ ④**褐色土**(Hue 10YR-4/6)…ＳＡ11の埋土。はじめに堆積した土。／ ⑤**黒褐色土**(Hue 10YR-3/2)…土坑の埋土。しまりなくボロボロしている。／ ⑥**褐色土**(Hue 10YR-4/6)…土坑の埋土。１cm程度の明黄褐色土ブロックを多く含む。／ ⑦**暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ11と同時期か先行するピット。おそらく柱穴痕。／ ⑧**黒褐色土**(Hue 10YR-3/2)…ＳＡ13より後に造られたピット。遺構とは無関係。

第58図　11・12・13号竪穴住居跡（ＳＡ11・12・13）図（１／60）

柱状のＩＡ類であり，ところどころに横方向の短いａ種研磨痕（線状痕）が認められる。425は凝灰岩製の打製石斧である。裏面は自然面を残し，上部に抉りをもつ形状をもつ。先端部分が欠損しているようにも見えるが，先端部に刃部らしき調整が施されている。本来こういう形であったのか，先端部欠損の後に刃部を新たに作出したものと考えられる。

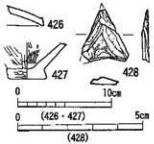


第59図　11号竪穴住居跡（ＳＡ11）出土遺物図（1／4・1／3・1／2）

12号竪穴住居跡（ＳＡ12・第58図・第60図－426～428）

遺構：Ａ－３群北側，Ｏ19グリッド南側でＳＡ13の東側を切り，ＳＡ11に南側を切られる形で検出された。平面形態は南北約４ｍ・東西約3.5mの長方形基調であるが，東壁部分が一部突出し不正方形を呈する。上部が削平によりほとんど消失しており，検出面からの深さは約10cm前後と浅い。中央部より径40～50cm，深さ30cm程度の土坑が検出された。土坑は土層断面を観察すると，住居跡と同時期に掘り込まれ，住居跡に伴うものと考えられる。土坑の埋土はアカホヤ火山灰ブロックをわずかに含むだけで炭化物や焼土など検出できなかった。遺物は量的にそれほど多くはないが，遺構面北壁東側に集中している。

遺物：426は高坏の脚裾部と考えられる。端部に凹線文を施す。427は小型壺の底部と考えられる。底部には横方向，胴部には斜方向のミガキを施す。底部形態はわずかに端部の張り出しをもつ平底タイプである。428は石鏃である。緑色頁岩製で，平面形態は基部がわずかにくぼむ三角形を呈する。表面は中心部の一部分の研磨面を除いて打製による剥離を施している。一見，縄文時代の打製石鏃のようにも見えるが，使用石材や部分的に残る研磨面から弥生時代の磨製石鏃の一種と考えられる。



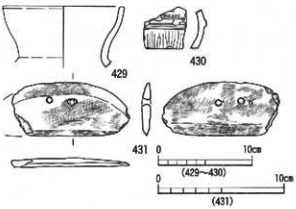
第60図　12号竪穴住居跡（ＳＡ12）出土遺物図（1／4・2／3）

13号竪穴住居跡（ＳＡ13・第58図・第61図－429～431）

遺構：Ａ－３群北側，Ｏ19グリッド南側で，西側をＳＡ12に切られる形で検出された。平面形態は，東辺と南辺・北辺を基に考えると，一辺約4.3m前後の方形もしくは長方形と推測される。ＳＡ11・12

同様，上部が削平によりほとんど消失しており，検出面からの深さは約10cm前後と浅い。遺物は北東隅で僅かに自然礫と土器片が集中した以外，細片が散見される程度である。

遺物：429は壺の口縁部である。緩やかにS字を描く頸部の長い形態をもつ。430は壺の胴部である。台形状の貼付突帯と櫛形の連続刺突文をもつ。431は頁岩製の石庖丁である。抉りがなく2穴をもち，弧状の背部と直線的な刃部をもつⅠA類である。



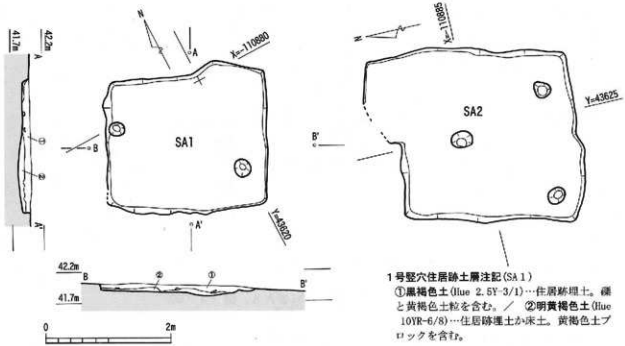
第61図　13号竪穴住居跡（ＳＡ13）
出土遺物（1／4・1／3）

1号竪穴住居跡（ＳＡ１・第62図）

遺構：Ａ－３群では西側，20ラインとＯラインの交点付近で検出された。他の住居跡と切り合わず単独であるが，上部が削平によりほとんど消失しており，検出面からの深さは約10cm前後と浅い。平面形態は一辺約2.5mの方形基調であるが，北壁部分が一部約20cm入り込んでいる不正方形を呈する。柱穴が東辺と西辺壁際に１基ずつ検出されたが，住居跡の主軸と柱穴の軸は一致しない。遺物は遺構面全面から細片が出土したが，遺構に伴うようなものは出土しなかった。また，出土した遺物の中には段丘礫らしき礫を多く含む。

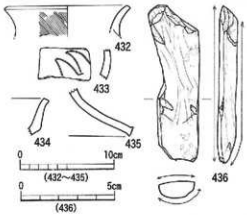
2号竪穴住居跡（ＳＡ２・第62図・第63図－432～436）

遺構：Ｏ20グリッド東側，他の住居跡と切り合わず単独で検出された。平面形態は，南北3.3m・東西2.8mの長方形基調であるが，ＳＡ１同様，北壁部分が一部約40cm入り込んでいる不正方形を呈する。柱穴は南壁付近に２基，中央付近に１基検出された。遺物は遺構面全面から細片を中心に出土した。



第62図　１・２号竪穴住居跡（ＳＡ１・２）図（1／60）

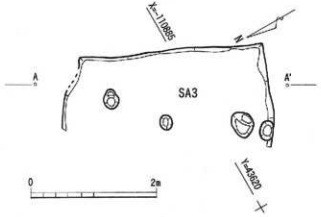
遺物：432～433は壺である。432は比較的短く外反する口縁部をもち，外面には斜方向のハケ目を施す。433は部位が不明であるが，おそらく壺の胴部片である。外面にヘラ描きによる線刻文が確認できる。細片であるので，何が描かれているか不明であるが，記号的でなく絵画的な意図が伺える。鏡冠や鰭のようなものにも見えないでもない。434は高坏の坏口縁部である。一度明瞭に屈曲して直立気味に立ち上がる坏部形態A類である。435は器台の裾部である。裾端部には凹線文を施す。436は頁岩製砥石である。棒状の礫を用いたⅢA類である。砥面は表裏２面にあり，１面は平坦状，もう１面は凸状である。凸状砥面はⅢA類に多いタイプであり，携帯用として用いられた可能性がある。



第63図　２号竪穴住居跡（ＳＡ２）
出土遺物（１／４・１／２）

３号竪穴住居跡（ＳＡ３・第64図）

遺構：N20グリッド東側，ＳＡ１の南隣，他の住居跡と切り合わず単独で検出された。後世の攪乱のため，北側の約半分が消失している。平面形態は，東辺長から考えると一辺3.3m前後の方形または長方形と推測できる。柱穴が３基検出されたが，住居跡と関連しているのかは不明である。遺物出土状況は，ＳＡ１と同じく遺構面全面から弥生土器細片と径10～20cm程度の自然礫を中心に出土した。床面は水平でなく，住居跡にしては凹凸が激しく安定していないところに検討の余地を残す。



３号竪穴住居跡土層注記(SA３)
①**黒褐色土**(Hue 10YR-3/2)…住居跡埋土。
②**褐色土**(Hue 10YR-4/6)…住居跡埋土。炭化物粒・褐色土粒をわずかに含む。
③**黄褐色土**(Hue 10YR-5/6)…住居跡埋土か床土。黄褐色土ブロックを含む。
④**黄褐色土**(Hue 10YR-5/6)…柱穴の埋土。

第64図　３号竪穴住居跡（ＳＡ３）図（１／60）

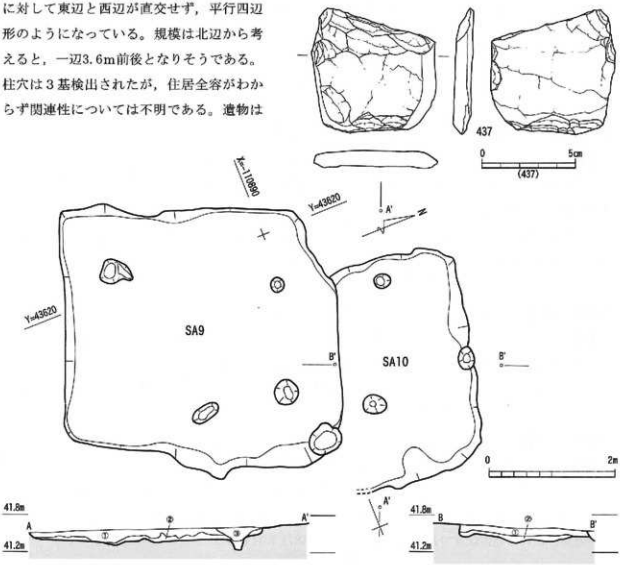
9号竪穴住居跡（ＳＡ９・第66図・第65図－437）

遺構：O21グリッド北西隅部，ＳＡ10を切る形で検出された。平面形態は多少歪んでいるが一辺4.2m前後の方形である。柱穴が４基確認できたが，４基の間隔・方向・規模全てが不揃いで，住居跡との関連は不明である。遺物は全面より出土したが，量的に多くなく細片であった。

遺物：437は剥片石器である。凝灰岩の自然礫を剥離し，板状の剥片にした後に，上下の端部に剥離を施し刃部作出を行っている。

10号竪穴住居跡（ＳＡ10・第65図）

遺構：O20グリッド南西隅部，ＳＡ９に切られる形で検出された。平面形態は北辺に対して東辺と西辺が直交せず，平行四辺形のようになっている。規模は北辺から考えると，一辺3.6m前後となりそうである。柱穴は３基検出されたが，住居全容がわからず関連性については不明である。遺物は



9・10号竪穴住居跡土層注記(SA9・SA10)
①**黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…ＳＡ10の埋土。５cm前後の礫・弥生土器片・１cm程の炭化物を含む。／ ②**暗褐色土**(Hue 10YR-3/4)…ＳＡ10の埋土か床土。黒褐色土ブロックをわずかに含む。／ ③**黒褐色土**(Hue 7.5YR-2/2)…後世の撹乱土。

第65図　９・10号竪穴住居跡（ＳＡ９・10）図（１／60）・９号竪穴住居跡（ＳＡ９）出土遺物図（１／２）

全面より出土したが，量的に多くなく細片であった。

66号竪穴住居跡（ＳＡ66・第66図）

遺構：Ａ－３群中央部，Ｏ21グリッド北側で，ＳＡ70に包含された形で検出された。更に，北側にはＳＡ68，東側にはＳＡ67が切り合っており，遺構の全容は不明であるが，西壁の検出状況から考えると，一辺約2.5m前後の方形もしくは長方形と推測される。遺物は僅かに細片が散見される程度である。

67号竪穴住居跡（ＳＡ67・第66図）

遺構：Ａ－３群中央部，Ｏ21グリッド北東隅で，ＳＡ66・68と切り合う形で検出された。東半が後世の造成により消失しており全容は不明である。平面図（第66図）ではＳＡ67がＳＡ66・68を切っているような図になっているが，実際は，土層断面観察などから，ＳＡ66・68がＳＡ67を切っている。ＳＡ67の東壁は上部がＳＡ66・68によって削平されているのである。平面形態は，一辺4.2m前後の方形もしくは長方形基調であるが，西壁部分が一部突出し不正方形を呈すると考えられる。遺物は遺構面全面から出土した。

68・69号竪穴住居跡（ＳＡ68・69・第66図）

遺構：Ａ－３群中央部，Ｏ20グリッド南東隅で，ＳＡ66と切り合う形で検出された。東半が後世の造成により消失しており全容は不明である。ＳＡ68とＳＡ69は西壁や床面の検出状況により２軒と判断したが，１軒の可能性もある。１軒と仮定すると一辺3.2m以上の方形か長方形であり，２軒と仮定するとＳＡ68・69共に一辺2.7m以上の方形か長方形である。ＳＡ68部分の中央に２基の柱穴がある。遺物はわずかに細片が散見される程度である。

70号竪穴住居跡（ＳＡ70・第66図）

遺構：Ａ－３群中央部，Ｏ21グリッド北側で，ＳＡ71と南側で，ＳＡ68と北部で，ＳＡ67と東部で切り合い，ＳＡ66を包含するような形で検出された。ＳＡ66との切り合いで，規模や平面形態は不明であるが，ＳＡ66を包含すると考えれば，一辺4.3m前後の方形もしくは長方形と推測できる。

71号竪穴住居跡（ＳＡ71・第67図）

遺構：Ａ－３群中央部，Ｏ21グリッド中央部で，北部でＳＡ70と切り合い，南部でＳＡ72・75を切るような形で検出された。北西コーナー付近が一部出土したのみで，規模や平面形態など全容については不明である。また，住居跡検出中にＳＣ16が検出された。平面図ではＳＣ16がＳＡ71を切ったようになっているが，これは完掘状況であって，両者の前後関係は不明である。

72号竪穴住居跡（ＳＡ72・第67図）

遺構：Ａ－３群中央部，Ｏ21グリッド中央部で，大部分がＳＡ73に切られ，全容が不明である。規模は不明である。東側は撹乱により消失しており確認できなかったが，他にも竪穴住居跡が数軒あったと考えられる。

73号竪穴住居跡（ＳＡ73・第67図）

遺構：Ａ－３群中央部，Ｏ21グリッド南側で，北部でＳＡ71・72を，南部でＳＡ74を切るような形で検出された。平面形態は南北3.3m・東西2.8mの長方形を呈する。床面中央部やや北寄りに直径約25cmのピットが１基検出された。深さは約20cmと浅く，柱穴かどうか不明である。

67・68・69・70・71・号竪穴住居跡土層注記(SA67・68・69・70・71)
①**黒褐色土**(Hue 10YR-2/3)…ＳＡ68の埋土。径１mm程の褐色土粒と２mm程の炭化物細粒を多量に含む。／ ②**黒褐色土**(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ68の埋土。①と似ているが，色調が少し明るい。／ ③**黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…ＳＡ68の埋土か床土。黄燈褐色大山灰土ブロックを含む。／ ④**黒褐色土**(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ70の埋土。径１mm程の褐色土粒と２mm程の炭化物細粒を含む。／ ⑤**黒褐色土**(Hue 10YR-5/3)…ＳＡ67の埋土。径１mm程の赤褐色土粒と炭化粒を含む。／ ⑥**黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…ＳＡ67の埋土。土質は③層と似ている。／ ⑦**暗褐色土**(Hue 7.5YR-2/3)…ＳＡ70の埋土か床土。径１mm程の明褐色土ブロックと炭化粒を含む。／ ⑧**黒褐色土**(Hue 7.5YR-2/2)…ＳＡ70の埋土。径１mm程の褐色土粒と２mm程の炭化物細粒を含む。／ ⑨**暗褐色土**(Hue 7.5YR-2/3)…ＳＡ70の埋土か床土。土質は⑦層と同じ。／ ⑩**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ71の埋土か床土。基本層序の第Ⅳ層らしき暗褐色土ブロック・１cm以下の炭化物細粒を多量に含む。／ ⑪**黒褐色土**(Hue 10YR-2/3)…径１mm程の褐色土粒と２mm程の炭化物細粒を含む。／ ⑫**褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ68・ＳＡ69の埋土か床土。基本層序の第Ⅳ層らしき暗褐色土ブロックを含む。

第66図 66・67・68・69・70号竪穴住居跡（ＳＡ66・67・68・69・70）図（１／60）

74号竪穴住居跡（ＳＡ74・第67・68図）

遺構：Ａ－３群南側，Ｏ22グリッド北側で，北西コーナー付近でＳＡ73に切られ，北部でＳＡ75と78を切るような形で検出された。北東と南東のコーナー付近が消失しているが，一辺2.5m前後の方形を呈することがわかる。遺物はわずかに細片が散見される程度である。

75号竪穴住居跡（ＳＡ75・第67・68図）

遺構：Ａ－３群南側，Ｏ22グリッド北側で，北西コーナー付近でＳＡ74に切られ，北部でＳＡ78を切るような形で検出された。東半分は攪乱により削平され不明瞭である。東辺に対し北辺と南辺が直交しており，平面形態は一辺４m前後の方形か長方形と推測できる。遺物はわずかに細片が散見される程度である。

76号竪穴住居跡（ＳＡ76・第67・68図）

遺構：Ａ－３群南側，22ラインとＰラインの交点付近，東側は後世の造成により消失している形で検出された。さらに隣に並ぶＳＡ83と切り合い，南西隅部をＳＡ78に切られた形で検出された。東辺に対し北辺と南辺が直交しており，平面形態は一辺３m前後の方形か長方形と推測できる。遺物はわずかに細片が散見される程度である。

77号竪穴住居跡（ＳＡ77・第67・68・69図）

遺構：Ａ－３群南側，Ｏ22グリッド東側で，東側は後世の造成により消失している形で検出された。西壁中央部にピットが１基伴うが，ＳＡ77との関係は不明である。東辺に対し北辺と南辺が直交しており，平面形態は一辺3.2m前後の方形か長方形と推測できる。ただし，北辺が弧状に曲がっており多少歪んだ形態をなすものと考えられる。遺物はわずかに細片が散見される程度である。

78号竪穴住居跡（ＳＡ78・第67・68図）

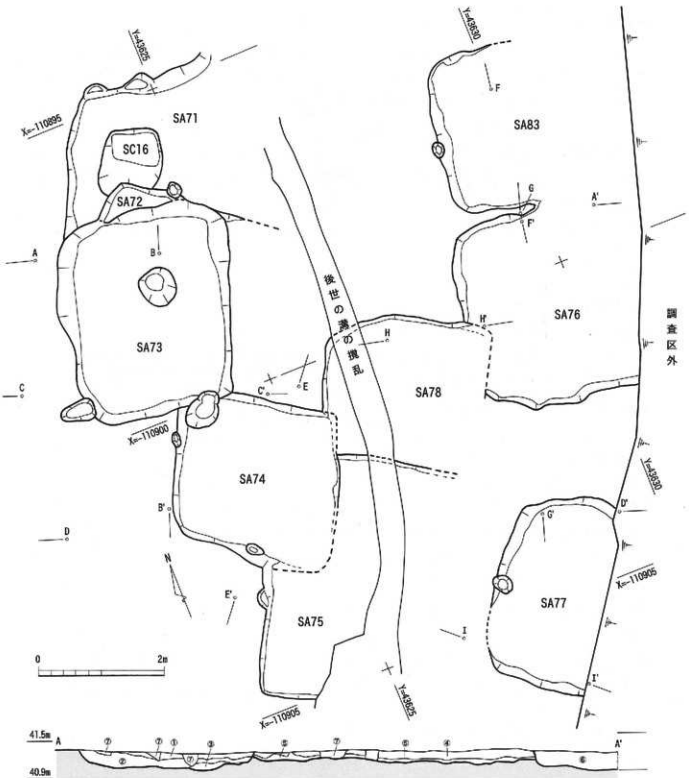
遺構：Ａ－３群南側，Ｏ21とＯ22グリッドの境界で，南西隅部をＳＡ74・75と，北東隅部をＳＡ76と切り合った形で検出された。東側は後世の造成により消失している。北西部が一部残っており，平面形態は一辺2.5m前後の方形と推定できる。遺物はわずかに細片が散見される程度である。

83号竪穴住居跡（ＳＡ83・第67・68図）

遺構：Ａ－３群中央部，Ｏ21グリッド東側で，東側は後世の造成により消失している形で検出された。南辺はＳＡ76との切り合いで不明瞭になっているが，西辺に対し北辺と南辺が直交しており，平面形態は一辺2.5m前後の方形か長方形と推測できる。

16号土坑（ＳＣ16・第67図）

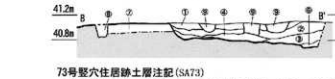
遺構：Ａ－３群中央部，ＳＡ71床面付近で検出された。ＳＡ72に切られ全形が残存していないが，長軸約120cm・短軸100cmの方形に近い長方形を呈する。断面形は北片側だけがくぼむ。遺物は出土しなかった。

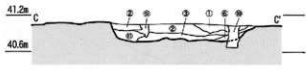


71・73・76号竪穴住居跡土層注記(SA71・73・76)

①黒褐色土(Hue 10YR-2/2)…ＳＡ73の埋土。径１mm程の橙色土粒を含む。１cm程の炭化物粒と弥生土器片を含む。／ **②黒褐色土**(Hue 10YR-2/3)…ＳＡ73の埋土。径１mm程の褐色と橙色土粒を含む。１mm程の炭化物粒と弥生土器片を含む。／ **③暗褐色土**(Hue 10YR-2/3)…ＳＡ73の埋土か床土。基本層序の第Ⅳ層らしき暗褐色土ブロックと弥生土器片を含む。／ **④黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…ＳＡ71の埋土。径１mm程の橙色軽石粒・１cm程の黄褐色火山灰土（二次アカプロック）・弥生土器片を含む。／ **⑤暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ71の埋土か床土。基本層序の第Ⅳ層らしき暗褐色土ブロック・１cm以下の炭化物細粒を多量に含む。／ **⑥黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)……一部木根による攪乱も含まれるが，ＳＡ76とＳＡ83の埋土と考えられる。／ **⑦暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…後世の攪乱土。

第67図　71・72・73・74・75・76・77・83号竪穴住居跡（ＳＡ71・72・73・74・75・76・77・83）・16号土坑（ＳＣ16）図（1／60）



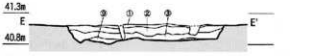


73号竪穴住居跡土層注記(SA73)

①黒褐色土(Hue 10YR-2/2)…ＳＡ73の埋土。径１mm程の黄褐色土粒・弥生土器片を含む。／ ②暗褐色土(Hue 7.5YR-2/2.5)…ＳＡ73の埋土。径１mm程の黄褐色土粒・弥生土器片を含む。／ ③黒褐色土(Hue 7.5YR-2/2)…ＳＡ73の埋土か床土。径１mm程の黄褐色土粒・炭化物・弥生土器片を含む。／ ④黒褐色土(Hue 7.5YR-2/2.5)…ＳＡ73の埋土か床土。明褐色土ブロックを含む。下部に弥生土器片を含む。／ ⑤黒褐色土(Hue 7.5YR-2/2)…ＳＡ73の埋土か床土。径１mm程の黄褐色土粒・炭化物・弥生土器片を含む。／ ⑥暗褐色土(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ73の床土。基本層序の第Ⅳ層らしき暗褐色土ブロックを含む。／ ⑦褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…おそらく基本層序の第Ⅳ層。／ ⑧黒褐色土(Hue 7.5YR-2/2)…後世の撹乱土。／ ⑨黒褐色土(Hue 7.5YR-2/2)…後世の撹乱土。／ ⑩黒褐色土(Hue 7.5YR-2/2)…ＳＡ73の埋土か床土。④層と同じ。

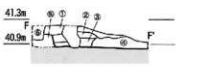
74・75・77号竪穴住居跡土層注記(SA74・75・77)

①黒褐色土(Hue 7.5YR-2/2)…ＳＡ74の埋土。径１mm程の橙色土粒を含む。／ ②黒褐色土(Hue 7.5YR-3/2)…ＳＡ74・ＳＡ75の埋土。径１mm程の橙色土粒と炭化粒を含む。／ ③暗褐色土(Hue 7.5YR-3/4)…ＳＡ74の埋土か床土。基本層序の第Ⅳ層らしき暗褐色土ブロックと炭化物を含む。／ ④黒褐色土(Hue 7.5YR-2/2))…ＳＡ74の埋土。①層と似ているが，橙色土粒の割合が多い。／ ⑤褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…おそらく基本層序の第Ⅳ層。／ ⑥黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…ＳＡ77の埋土。径１mm程の橙色と赤褐色土粒を含む。／ ⑦暗褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ77の埋土。径１mm程の黄褐色土粒を含む。／ ⑧黒褐色土(Hue 7.5YR-3/2)…ＳＡ75の埋土。②層と同じだとも考えられる。／ ⑨暗褐色土(Hue 7.5YR-2/3)…地山の可能性。土質は粘性・しまりともにあり。



83号竪穴住居跡土層注記(SA83)

①暗褐色土(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ83の埋土。黒褐色土をわずかに含む。／ ②黒褐色土(Hue 10YR-2/2)…ＳＡ83の埋土。①層に似ているが，色調が暗い。／③黒褐色土(Hue 2.5YR-3/1)…ＳＡ83の埋土。明黄褐色土ブロックを多く含む。／④灰黄褐色土(Hue 10YR-4/2)…ＳＡ83の埋土。径１mm程の黄褐色土粒・炭化物粒を多量に含む。／ ⑤黄橙褐色土(Hue 10YR-7/6)…基本層序の第Ⅴ層。／ ⑥黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…木根による撹乱土。



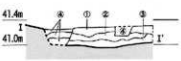
76号竪穴住居跡土層注記(SA76)

3①黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…ＳＡ76の埋土。炭化物粒・褐色土を含む。／ ②黒褐色土(Hue 10YR-3/2)…ＳＡ76の埋土。炭化物粒・褐色土をわずかに含む。／ ③暗褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ76の埋土。２cm程の炭化物を多く含む。／ ④黒褐色土(Hue 7.5YR-3/2)…径１mm程の淡黄色土粒・炭化物粒をわずかに含む。／ ⑤黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…白灰色火山灰土・褐色・炭化物粒を含む。／⑥黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…黒褐・褐色粒を含む。

78号竪穴住居跡土層注記(SA78)

①黒褐色土(Hue 10YR-2/2)…ＳＡ78の埋土。炭化物粒・径２mm程の橙色土を含む。②黒褐色土(Hue 7.5YR-3/2)…ＳＡ78の埋土か床土。おそらく基本層序の第Ⅳ層の褐色土ブロックを含む。／ ③暗褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…①層に似ているが，色調は明るく含有物が少ない。ＳＡ78によって撹乱されたＳＡ76の埋土だと考えられる。④暗褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…②層に似ているが，色調は明るく含有物が少ない。③層同様，ＳＡ78によって撹乱されたＳＡ76の埋土だと考えられる。／⑤黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…木根による撹乱土。

第68図　71・72・73・74・75・76・77・83号竪穴住居跡
（ＳＡ71・72・73・74・75・76・77・83）・16号土坑（ＳＣ16）土層断面図（１／60）

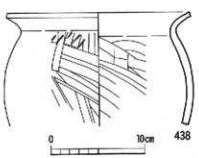


77号竪穴住居跡土層注記(SA77)
①黒褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ77の埋土。炭化物粒・赤褐色土を含む。
②褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ77の埋土。黄褐色・明褐色土粒をわずかに含む。
③暗褐色土(Hue 7.5YR-3/2)…ＳＡ77の埋土。径１㎜程の赤褐色土粒を含む。
④黒褐色土(Hue 7.5YR-3/2)…後世の攪乱土。

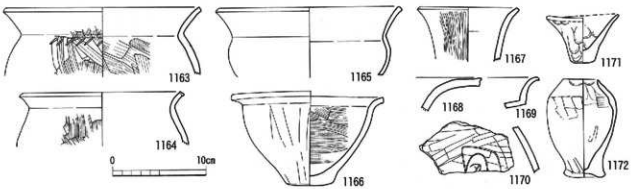
第69図　77号竪穴住居跡（ＳＡ77）土層断面図（１／60）

18号竪穴住居跡（ＳＡ18・第71図・第70図－438・1163～1172）

遺構：Ａ－３群南側，Ｎ22グリッド北東側で検出された。北辺をＳＡ80に切られているが，ほぼ全形を留めている。平面形態は一辺2.5ｍの方形を呈する。北壁中央近くに１基のピットが検出されたが，ＳＡ18の柱穴に伴うものかどうか不明である。



遺物：438は甕である。平坦状の口唇部形態Ａ類・頸部で緩やかに屈曲する口縁部形態Ｂ類をもつ甕Ⅱ類である。外面調整は工具ナデで，頸部に斜位の連続刻文を施す。1163～1164は甕である。1163は明瞭に頸部で屈曲する口縁部形態Ａ類である。

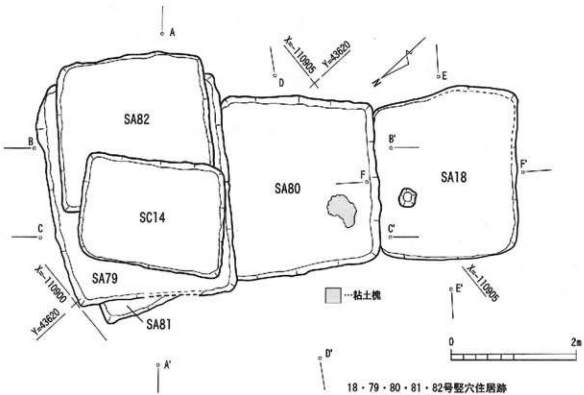


第70図　18号竪穴住居跡（ＳＡ18）出土遺物図（１／４）

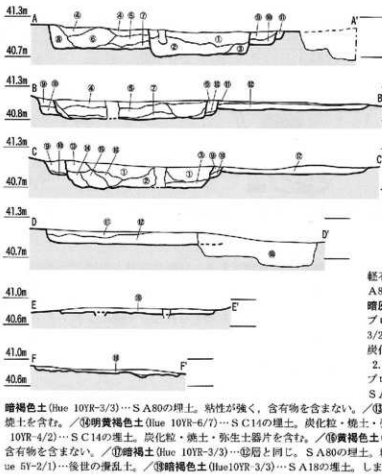
1165～1166は鉢である。1165は頸部で屈曲する胴部形態Ｂ類である。1166は底部から緩やかに内湾しながら立ち上がり，口縁部付近で短く外反する器形である。1167・1168は壺であり，1167は長頸の口縁部形態Ｅ類，1168は口縁部形態Ｂ類である。1170は壺の肩部付近と考えられる。全面に工具ナデが施されているが，その中に線刻が認められる。絵画なのか記号なのかは不明である。1171・1172は手捏土器である。1171は鉢，1172は壺であるが，1171を蓋にしたセット関係と見ることもできる。

79号竪穴住居跡（ＳＡ79・第71図）

遺構：Ａ－３群南側，22ラインとＯラインの交点付近，ＳＡ80・81を切り，ＳＡ82・ＳＣ14に切られ，周縁部のみ検出された。平面形態は東西3.3ｍ・南北2.6ｍの長方形を呈する。主軸はN-36-Eで，切り合い関係にあるＳＡ18・80・81・82とはほぼ主軸を同じくし，規模や形態も類似していることから近い時期に構築されたと考えられる。遺物は細片のみの出土である。



18・79・80・81・82号竪穴住居跡
(SA18・79・80・81・82)・
14号土坑土層注記(SC14)



①暗褐色土(Hue 10YR-3/3)…ＳＣ14の埋土。炭化物・焼土を含む。／②にぶい黄褐色土(Hue 10YR-4/3)…ＳＣ14の埋土。2cm前後の黒色土ブロックを多く含む。／③明黄褐色土(Hue 10YR-6/7)…ＳＣ14の埋土。基本層序の第Ⅳ層と似ているが，炭化物・焼礫・弥生土器片を含む。／④灰黄褐色土(Hue 10YR-4/2)…ＳＡ82の埋土。明褐色土ブロックを多く含む。／⑤灰オリーブ褐色土(Hue 5Y-4/2)…ＳＡ82の埋土。含有物は少ない。／⑥灰オリーブ褐色土(Hue 5Y-4/2)…ＳＡ82の埋土。色調は⑤層に似ているが，径1mm前後の暗橙色軽石粒を含む。／⑦黄褐色土(Hue 10YR-5/8)…ＳＡ82の床土か。明黄褐色土ブロックを含む。／⑧暗灰黄色土(Hue 2.5Y-4/2)…ＳＡ82の埋土の一種。ブロック状堆積。／⑨オリーブ黒色土(Hue 5Y-3/2)…ＳＡ79の埋土。径1cm程の暗橙色軽石粒・炭化粒を多く含む。／⑩暗オリーブ褐色土(Hue 2.5Y-3/3)…ＳＡ79の埋土。2cm程度の黄褐色土ブロックを多く含む。／⑪黒色土(Hue 5Y-2/1)…ＳＡ80の埋土。黄褐色土ブロックを含む。／⑫暗褐色土(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ80の埋土。粘性が強く，含有物を含まない。／⑬黒色土(Hue 5Y-2/1)…ＳＣ14の埋土。炭化粒・焼土を含む。／⑭明黄褐色土(Hue 10YR-6/7)…ＳＣ14の埋土。炭化粒・焼土・弥生土器片を含む。／⑮灰オリーブ褐色土(Hue 10YR-4/2)…ＳＣ14の埋土。炭化粒・焼土・弥生土器片を含む。／⑯黄褐色土(Hue10YR-6/8)…ＳＣ14の埋土。しまりがあり，含有物を含まない。／⑰暗褐土(Hue 10YR-3/3)…⑫層と同じ。ＳＡ80の埋土。粘性が強く，含有物を含まない。／⑱黒色土(Hue 5Y-2/1)…後世の攪乱土。／⑲暗褐色土(Hue10YR-3/3)…ＳＡ18の埋土。しまりがあり，含有物を含まない。

第71図　18・79・80・81・82号竪穴住居跡（ＳＡ18・79・80・81・82）・
14号土坑（ＳＣ14）図（1／60）

80号竪穴住居跡（ＳＡ80・第71図）

遺構：Ａ－３群南側，Ｎ22グリッド北東側で検出された。南辺でＳＡ18を切り，北辺でＳＡ79に切られているが，ほぼ全形を留めている。平面形態は一辺2.7m前後の方形である。遺物は細片のみでほとんど出土しなかったが，南西コーナー部に50cm程の粘土塊が検出された。

81号竪穴住居跡（ＳＡ81・第71図）

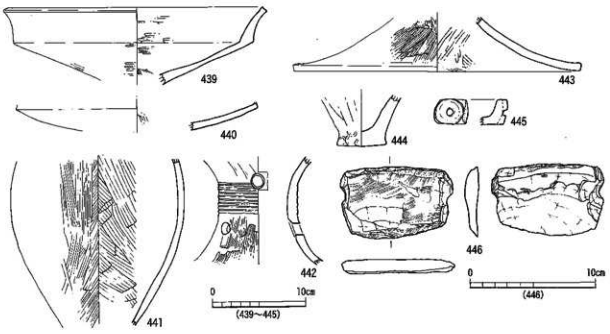
遺構：Ａ－３群南側，22ラインとＯラインの交点付近，ＳＡ79に切られ，北西コーナー部分のみ検出された。コーナーのわずかな部分のみの検出であるため，規模や平面形態は不明である。遺物は出土しなかった。

82号竪穴住居跡（ＳＡ82・第71図）

遺構：Ａ－３群南側，22ラインとＯラインの交点付近，西側をＳＣ14に切られ，ＳＡ79を切った形で検出された。西辺が消失しているがほぼ全形を留めている。平面形態は一辺2.5m前後の方形である。遺物は完形に近い弥生土器の甕や壺が壁面を中心に出土した。

14号土坑（ＳＣ14・第71図・第72図－439～446）

遺構：Ａ－３群南側，22ラインとＯラインの交点付近，ＳＡ79・82を切った形で検出された。長軸228cm・短軸163cmの長方形を呈し，深さは検出面から約30cmである。遺物は北東と南西のコーナー付近から完形に近い弥生土器の高坏や甕をはじめ高い密度で土器片が出土した。

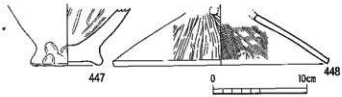


第72図　14号土坑（ＳＣ14）出土遺物図（１／４・１／３）

遺物：439・440は高坏である。439は，一度屈曲した後に，外反するが直立気味に立ち上がる口縁部をもつ。坏部形態A類とB類の中間形態である。440は屈曲部の粘土の繋ぎ目から口縁部が欠損しているが，屈曲部が確認でき，内湾しながら立ち上がる坏部形態A類かB類と考えられる。高坏の脚部の可能性もある。441は甕の胴部で，胴部形態C類である。442・443は器台である。442は柱部である。２段の円形透かしをもち，縦方向のハケ目の後に10条の凹線を施す。ＳＡ45・ＳＡ95・ＳＡ107などに出土例がある。備讃瀬戸地方などに類例がある。443は脚部の裾付近ある。大きく「八」字状に開く。444は甕の底部片である。わずかに指ナデによる張り出しをもつ平底タイプである。445は壺の口縁部である。口縁部形態A類の二重口縁壺である。二次口縁部にドーナツ形の浮文をもつ。446は頁岩製の石庖丁で，両端に抉りをもち，直背直刃タイプのⅡC類である。

14号竪穴住居跡（ＳＡ14・第75図・第73図－447～448）

遺構：Ａ－３群南側，Ｏ22グリッド南西側で，西辺をＳＣ４に，東辺をＳＡ15に切られる形で検出された。東側が若干消失しているが，おおよその平面形態を捉えることは可能であり，南北約3.5m・東西2.2mの少し平行四辺形気味の長方形を呈する。



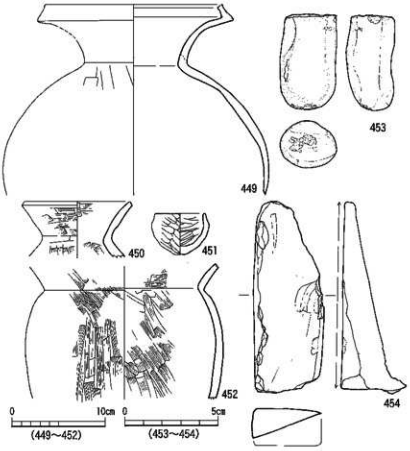
第73図　14号竪穴住居跡（ＳＡ14）出土遺物図（１／４）

遺物：447は壺の底部である。指ナデによって張り出しをもつ上底タイプである。448は器台の脚裾部である。円形の透かしをもち，柱部は細い。

15号竪穴住居跡（ＳＡ15・第75図・第74図－449～451）

遺構：Ａ－３群南側，Ｏ22グリッド南側で，ＳＡ14を東辺で，ＳＡ16を北辺で切る形で検出された。遺構南端部は後世の造成のため消失している。平面形態は残存状況から一辺3.5m前後の方形もしくは長方形と考えられる。遺物は北西隅の壁際に集中している。

遺物：449～450は壺である。449は櫛描波状文をもつ二重口縁

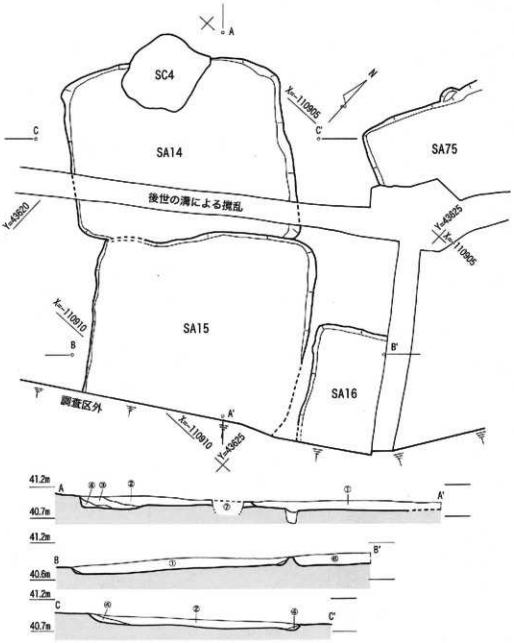


第74図　15号竪穴住居跡（ＳＡ15）出土遺物（１／４・１／２）

壺である。449は櫛描波状文をもつ二重口縁壺である。450は頸部径の小さい口縁部で，直線的に開く形状をなす。451は手捏土器である。丸底の鉢形を呈し，全体的に斜方向に指ナデを施している。452は甕である。頸部で明瞭に屈曲する口縁部形態Ａ類で，外面に斜方向のハケ目を施す。453は砂岩製の敲石である。直方体状礫の一方の端部が欠損しているが，残ったもう一方の端部に敲打痕が認められる。454は凝灰岩製の砥石である。片面が欠損しており砥面が１面のみであるが，本来ＩＡ類の柱状であったと推察される。

16号竪穴住居跡（ＳＡ16・第75図）

遺構：Ａ－３群南側，Ｏ22グリッド南側で，南側と東側は後世の造成で消失しており，南辺はＳＡ15，北辺は後世の配水管埋設溝によって切られている。検出された部分は，西辺と南辺の一部が残っており，



14・15・16号竪穴住居跡土層注記
(SA14・15・16)
①にぶい黄褐色土 (Hue 10YR-4/3)…ＳＡ15の埋土。／**②暗褐色土** (Hue 10YR-3/3)…ＳＡ14の埋土。１cm程の炭化物を含む。焼土らしき土を含む。／**③褐色土** (Hue10YR-4/4)…ＳＡ14の埋土。基本層序の第Ⅳ層らしき暗褐色土ブロックを含む。／**④褐色土** (Hue 10YR-4/4)…ＳＡ14の埋土。③層と似ているが，暗褐色土ブロックの含有物の割合が大きい。／**⑤褐色土** (Hue 10YR-4/4)…ＳＡ14の埋土。基本層序の第Ⅳ層らしき暗褐色土ブロックを含む。／**⑥暗褐色土** (Hue 10YR-3/3)…ＳＡ16の埋土。基本層序の第Ⅳ層らしき暗褐色土ブロックを含む。／**⑦黒褐色土** (Hue 10YR-2/3)…ＳＡ41の埋土。おそらく後世の撹乱土。弥生土器片を含む。

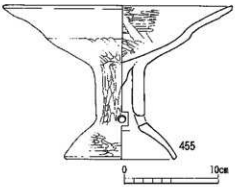
第75図　14・15・16号竪穴住居跡（ＳＡ14・15・16）・４号土坑（ＳＣ４）図（１／60）

平面形態が方形もしくは長方形であることがわかる。埋土は，弥生時代包含層である基本層序の第Ⅳ層と類似した単一層で，土坑の可能性もある。

4号土坑（ＳＣ４・第75図・第76図－455）

遺構：Ｂ－１群北側，M22グリッド北西側で，ＳＡ28を切る形で検出された。長軸約2.5m・短軸約0.8mの不正楕円形で深さは約50cm以上と深い。埋土状況からＳＡ28の埋まった後に掘られていることがわかる。

遺物：４点出土したが図化は455のみ行った。455は高坏である。屈曲点はあるが明瞭ではなく，緩やかに外反する坏部形態Ｃ類をもつ。脚部は内湾しながら立ち上がる裾部と直立する柱部の脚部形態Ｃ類をもつ。図化していない３点は甕の口縁部～胴部片・高坏の脚部・鉢である。甕は凹面状にくぼむ口唇部形態Ａ類に頸部で緩やかに屈曲する口縁部形態Ｂ類をもつ。高坏の脚部は柱部の上半のみの出土で，全形が推定できないが，直立気味ながら裾部に向かってわずかに開くタイプと考えられる。鉢は底部が尖底気味の平底で，口縁部にむかって内湾しながら立ち上がる鉢ＩＣ類である。



第76図　４号土坑（ＳＣ４）出土遺物図（１／４）

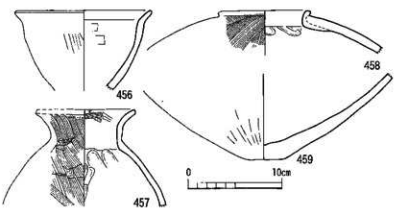
17号竪穴住居跡（ＳＡ17・第78図）

遺構：Ａ－３群南側，N23グリッド北東側で検出された。西壁中央部をＳＡ20に切られ，東側を後世の造成によって削平されている。平面形態は，東辺と南辺・北辺を基に考えると，南北約4.3m・東西５m程度の長方形と考えられる。遺物は僅かに弥生土器の細片が散見される程度である。

19号竪穴住居跡（ＳＡ19・第78図・第77図－456～459）

遺構：Ａ－３群南側，N22グリッド南側で検出された。ＳＡ20を東辺で切り，西壁付近が後世の掘削によって消失している。平面形態は，東辺と南辺・北辺を基に考えると，一辺約2.5mの方形もしくは長方形と推測される。遺物は傾斜上面の西壁側に集中している。

遺物：456は鉢である。頸部で屈曲し大きく外反する胴部形態Ｂ類をもつ鉢ＩＢ類である。457～459は壺である。457は頸部径が小さく，一度上に延びてから外反する口縁部形態Ｄ類をもち，外面にはハケ目を施す。458・459は同一個体と考えられ，458が口縁部～肩部，459が胴部～底部である。458は，口縁部形態Ａ類やＢ類の口縁部が剥離



第77図　19号竪穴住居跡（ＳＡ19）出土遺物（１／４）

して生じた形態とも考えられるが，無頸の口縁端部を折り返すことによって丸みのある口縁部を形成しているとも考えられる。外面には丁寧なハケ目が施されている。459は尖底気味の平底タイプの底部をもつ。

20号竪穴住居跡（ＳＡ20・第79図）

遺構：Ａ－３群南側，Ｎ22グリッド南側で，西側がＳＡ19に切られ，東側がＳＡ17を切る形で検出された。消失部分が多く，全体の規模は不明であるが，検出状況から東西2.6m・南北1.4m程の小型の長方形を呈する。出土遺物はなく，埋土は炭化物を含むものの基本層序の第Ⅳ層と似た単一層である。遺構規模や埋土状況などから考えて，住居跡でなく土坑である可能性が高い。

25号竪穴住居跡（ＳＡ25・第79・80図・第78図－460～465）

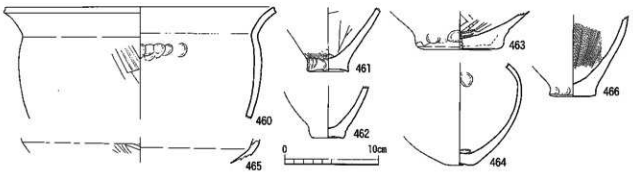
遺構：Ａ－３群南端部，Ｎ22グリッド南西側で，南側がＳＡ26を切る形で検出された。長軸2.5m・短軸2.1mで，円形と隅丸方形の中間形態を呈する。遺物は遺構面全体から比較的高い密度で出土した。規模の面から考えて，住居跡ではなく土坑である可能性が高い。

遺物：460～461は甕である。460は凹面状に窪む口唇部形態Ａ類・緩やかに「く」字に屈曲する口縁部形態Ｂ類・長形胴で最大径が胴部上部にある胴部形態Ｃ類の特徴をもつ。461は指ナデによってわずかに端部が張り出し，わずかに上底気味の底部形態Ｂ類である。462～464は壺である。462・463は大きさが異なるが，貼付円盤状の平底である。464は胴部～底部片である。偏球形胴の胴部形態Ｃ類・尖底気味の平底をもつ。465は鉢の一部か高坏の坏部の一部だと考えられる。外面に縦方向のミガキを施す。

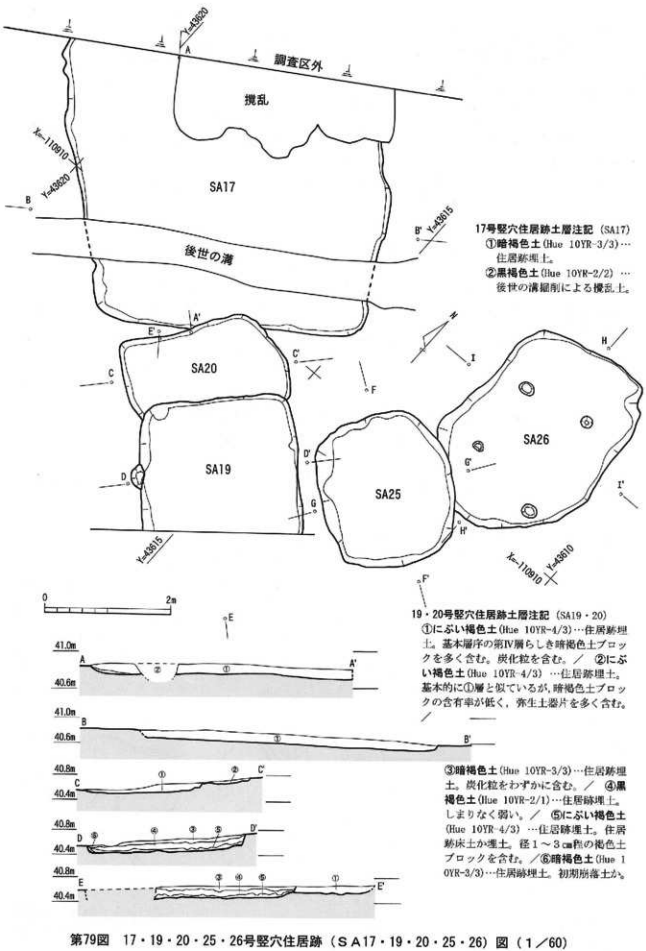
26号竪穴住居跡（ＳＡ26・第79・80図・第78図－466）

遺構：Ａ－３群南端部，Ｎ22グリッド南西側で，南側がＳＡ25に切られる形で検出された。長軸3.5m・短軸2.4mで，円形と隅丸方形の中間形態を呈する。深さは10～20cm程度と浅いが，四隅に柱穴をもつ。ＳＡ25同様，規模の面から土坑の可能性も考えられるが，４基の柱穴があることから住居跡であると判断した。

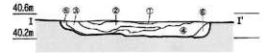
遺物：466は甕の底部である。指ナデによってわずかに張り出した端部をもつ平底で，底部形態Ｄ類をもつ。



第78図　25・26号竪穴住居跡（ＳＡ25・26）出土遺物図（１／４）



第79図　17・19・20・25・26号竪穴住居跡（ＳＡ17・19・20・25・26）図（１／60）



25号竪穴住居跡土層注記(SA25)

①黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…住居跡埋土。径1㎜程の黄褐色粒を含む。弥生土器片を含む。／ ②黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…住居跡埋土。黒色土ブロックを多く含む。弥生土器片を含む。／ ③黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…住居跡埋土。1㎝以下の炭化物を多く含む。／ ④褐色土(Hue 10YR-4/6)…住居跡埋土か床土。2㎝程の褐色土のブロックを含む。5㎜程の炭化物を含む。／ ⑤褐色土(Hue 10YR-4/6)…住居跡埋土。かたくしまっている。／ ⑥暗褐色土(Hue 10YR-3/4)…褐色土をわずかに混入する。

26号竪穴住居跡土層注記(SA26)

①黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…住居跡埋土。5㎝程の褐色土のブロックを含む。炭化物と弥生土器片を含む。／ ②褐色土(Hue 10YR-4/6)…住居跡床土か埋土。炭化物をわずかに含む。／ ③暗褐色土(Hue 10YR-3/3)…住居跡埋土か床土。基本層序の第Ⅳ層らしき暗褐色土ブロックを多く含む。炭化粒を含む。／ ④褐色土(Hue 10YR-4/6)…住居跡埋土か床土。②層と似ている。／ ⑤黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…おそらく後世の撹乱土。弥生土器片を含む。

第80図　25・26号竪穴住居跡（ＳＡ25・26）土層断面図（１／60）

（２）Ｂ群

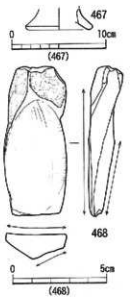
Ｎグリッドラインより西側の一群である。群集状態によってさらにＢ－１～Ｂ－３の小グループに細分できる。

①Ｂ－１群…Ｂ群の中でも最東部，Ｘ軸は22～25・Ｙ軸はＫ～Ｎライン内に位置する。ＳＡ４～８・28～33・46～50・59～62の20軒から成る。

28号竪穴住居跡（ＳＡ28・第82図・第81図－467～468）

遺構：Ｂ－１群北側Ｌ22グリッドとM22グリッドの境界上で，ＳＡ29と並列する形で検出された。ＳＣ10に切られており一部攪乱されているが，東西3.6m・南北3.3mのおよそ方形をなす。遺物は東壁周辺に集中して出土した。

遺物：467は内外面に丁寧なナデを施しており，甕の脚台と考えられる。468は砥石である。上から1/3程にくびれがあり，このくびれを境にして上方には研磨痕が無い。砥面は凹面状にくぼむ。

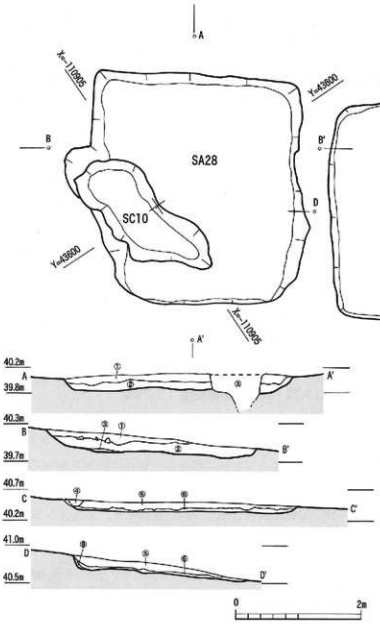


29号竪穴住居跡（ＳＡ29・第82図・第83図－469～479）

遺構：Ｂ－１群北側，M22グリッド北西側で，ＳＡ28と並列する形で検出された。平面形態は，傾斜上面の北東側は削平されて不明瞭であったが，一辺約3.6mの方形または長方形と推測される。遺物は多少疎らではあるが南西側に集中している。

遺物：469～470は壺である。 469は狭くなった頸部から直立した短い口縁

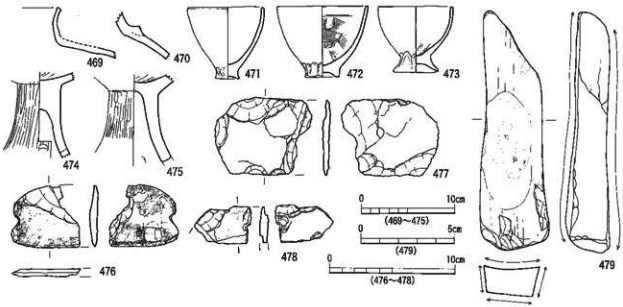
第81図　28号竪穴住居跡検出（ＳＡ28）出土遺物（1/4・1/2）



28・29号竪穴住居跡・10号土坑土層注記
(SA28・SA29・SC10)
①**褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ28の埋土。径１㎜程の褐色土粒を含む。／②**暗褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ28の埋土。①層との境目に礫を含む。／③**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…ＳＣ10の埋土。／④**明褐色土**(Hue 7.5YR-5/8)…ＳＡ28の埋土。比較的早い段階に堆積したと考えられる。／⑤**黒褐色土**(Hue 10YR-3/2)…ＳＡ29の埋土。径１㎜程の明赤褐色土粒を含む。／⑥**暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ29の埋土か床土。暗黄褐色土ブロックを含む。／⑦**黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…後世の攪乱土。

第82図　28・29号竪穴住居跡（ＳＡ28・29）・10号土坑（ＳＣ10）図（１／60）

部が延びる口縁部～肩部である。壺にしては珍しく外面に平行タタキを施す。470は頸部付近に斜位の連続刻文を施す三角状の貼付突帯を有する。471～473は鉢である。いずれも内湾しながら立ち上がる鉢ＩＣ類であるが，471・472は指ナデによって摘み出した上底気味の底部を有する。一方，473は脚台状の底部をもつタイプである。474・475は高坏である。いずれも欠損部分があり全形が推測しにくいが，比較的短くラッパ状に開く脚部形態Ｂ類であろう。476～478は石庖丁である。476は両端に抉りをもち，弧状の背部と直線状の刃部をもつⅡＡ類である。477は抉りや穿孔をもたない打製のⅣ類である。未製品または製作途上品とも考えられる。478は破片であるが，１か所の穿孔が認められる。479は砥石である。直方体を基調としているが，若干自然礫の名残を残している。４面に砥面があり柱状のＩＡ類の範疇に入る。



第83図　29号竪穴住居跡（ＳＡ29）出土遺物図（１／４・１／３・１／２）

10号土坑（ＳＣ10・第82図）

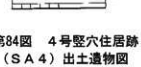
遺構：Ｂ－１群北側，Ｌ22グリッドとM22グリッドの境界上，ＳＡ28を切る形で検出された。長軸約2.5m・短軸約0.9mの不正楕円形で深さは約60cm以上と深い。ＳＡ28の埋まった後に掘られている。

遺物：細片を中心に出土した。図化は行っていないが壺の底部が出土している。壺の底部は下半1/3程残っており，平底の底部形態Ｂ類である。縦方向の粗いハケ目の後に底部付近に横位にタタキを施している。胴部形態は残存状況から長形胴と考えられる。

４号竪穴住居跡（ＳＡ４・第85図・第84図－480～481）

遺構：Ｂ－１群北西側，Ｌ22グリッド北西側で，ＳＡ５と並列する形で検出された。平面形態は，傾斜上面の北東側は削平されて不明瞭であったが，遺構面は残っており，長軸３m・短軸1.5m一辺約3.6mの長方形である。遺物は全面から疎らに出土している。調査時には竪穴住居跡として認識していたが，規模や単一層の埋上から，土坑と考える方が妥当だと思われる。

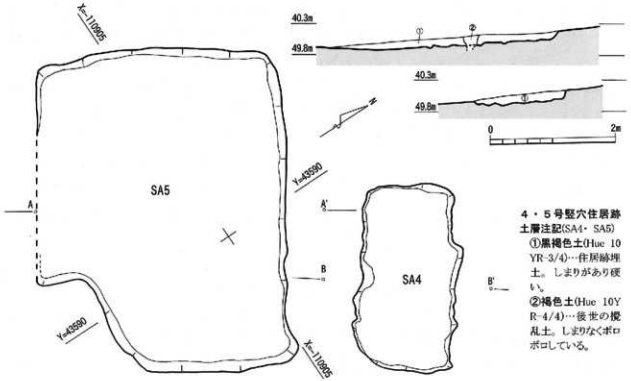
遺物：480～481は高坏である。480は坏部であり，一度屈曲し直立気味に立ち上がる坏部形態Ａ類である。481は脚部片である。部分的で全形が不明であるが，短く開く脚部形態Ｂ類と考えられる。



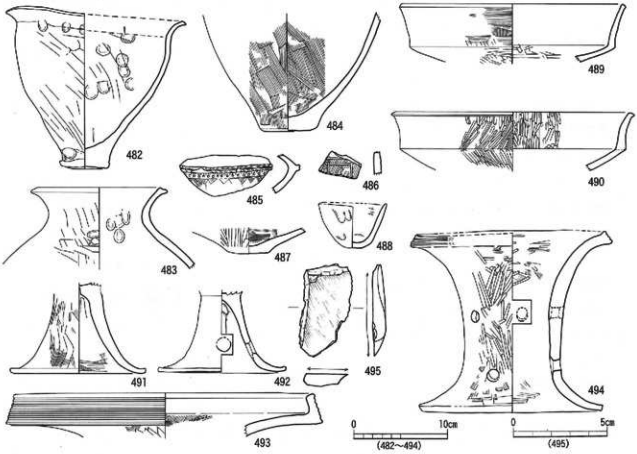
第84図　４号竪穴住居跡（ＳＡ４）出土遺物図（１／４）

５号竪穴住居跡（ＳＡ５・第85図・第86図－482～495）

遺構：Ｂ－１群北西側，K22グリッド北東側で，ＳＡ４と並列する形で検出された。傾斜上面の北東側は削平されて不明瞭な部分があったが，平面形態は，長辺約5.2m・短辺約４mの長方形基調のプランであるが，南東コーナー部が1.5m×１mほど入り込む不正方形を呈する。遺物は遺構面全体から検出された。



第85図　4・5号竪穴住居跡（SA4・5）図（1／60）



第86図　5号竪穴住居跡（SA5）出土遺物図（1／4・1／2）

遺物：482は甕である。全体的に歪であり，緩やかにS字に屈曲する口縁部，口縁部から緩やかに底部まで窄む胴部，張り出しのない平底の形態的特徴をもつ。483～487は壺である。483は頸部から口縁部にかけて緩やかにS字状に外反する口縁部形態D類である。485は壺の胴部である。残存する形状より，胴部は算盤玉のような器形を呈していると考えられる。斜位の連続刻文をもつ方形突帯を有し，突帯の下には連続する竹管文と線刻による三角形の幾何学文を施す。486は壺の胴部片であり，斜方向のハケ目の後に線刻による直線的な文様を施している。489～492は高坏である。489・490は坏部で，一度明瞭に屈曲し，わずかに外反するが直立気味に立ち上がる坏部形態A類とB類の中間形態である。491・492は脚部で，短くラッパ状に開く脚部形態B類である。493・494は器台である。493は受部であり，二重口縁壺のように拡張した口縁帯に丁寧な凹線文を施している。494は肥厚させた口縁部に凹線文，脚柱部に2段の円形透かしを施す。器形は寸胴タイプで，受部の方が裾部より広い。495は砥石である。

30号竪穴住居跡（SA30・第87図・第88図－496～499）

遺構：B－1群東側，L23グリッド北西側で，SA32に切られ，SA31を切る形で検出された。一部攪乱され不明であるが，平面形態は一辺2.5m前後の方形を呈する。北隅部がピットによって切られているが，このピットは遺構より後の時代のものと考えられる。規模や主軸が周りで切り合うSA31・32・33と似ており，この4軒は近い時期に構築された可能性がある。遺物は疎らではあるが東側に集中する。

遺物：496は自然礫を素材とした砥石である。砥面は1面であり，全面に光沢のあるc種研磨痕が確認され，斜方向のb種研磨痕（擦痕状研磨痕）がところどころで確認できる。下方の端部に切り込み状の痕跡がある。これが研磨工程に付随するものか砥石成形行程に付随するものなのか不明である。497は甕である。緩やかにS字状に屈曲する口縁部形態C類である。498は壺である。小さく屈曲する口縁部形態C類である。499は鉢である。浅いU字状を呈する鉢IC類である。

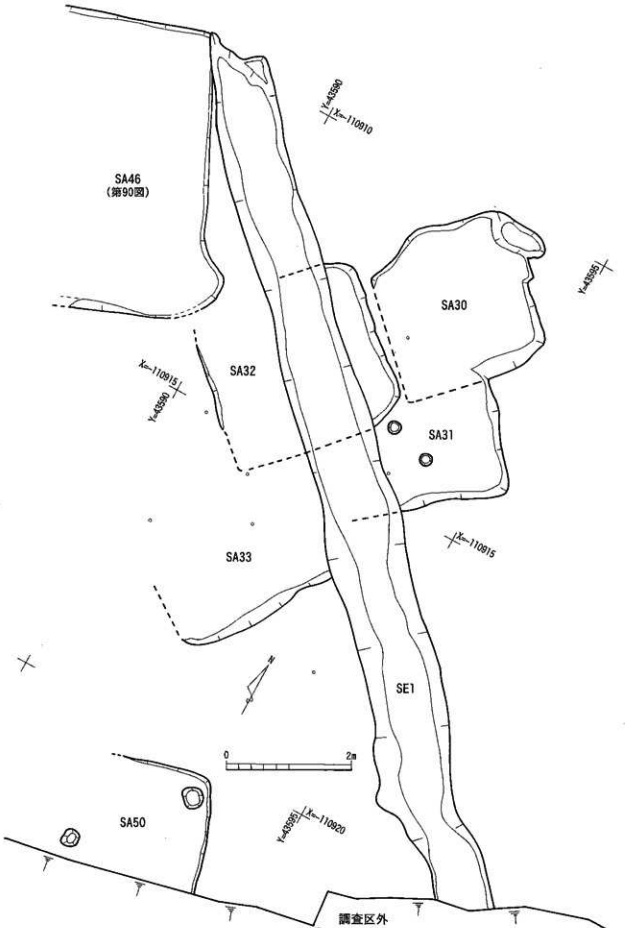
31号竪穴住居跡（SA31・第87図）

遺構：B－1群東側，L23グリッド北西側で，SE1とSA30・32に切られる形で検出された。平面形態は，大部分が削平され正確に把握できないが，検出された南壁と東壁の一部から，一辺2m以上の方形もしくは長方形と推測される。ピットが2基検出されたが，SA31との関係は不明である。遺物は出土しなかった。

32号竪穴住居跡（SA32・第87図・第88図－500～501）

遺構：B－1群東側，L23グリッド北西側で，SE1に切られ，SA30・31を切る形で検出された。上部の大部分が削平されていたが，朧気ながら遺構の輪郭が検出できた。この輪郭から考えると，平面形態は，一辺2.7m前後の方形である。遺物はわずかに北壁あたりで出土した。

遺物：500・501は磨製石鏃である。両方とも緑色頁岩製で，基部形態は凹基である。500は砲弾形・501は三角形を呈する。501は粗い剥離を施した後に研磨によって仕上げを行っている。さらに木遺跡の50%近くの磨製石鏃で確認されているように，先端が欠損している。



第87図　30・31・32・33・46・50号竪穴住居跡（ＳＡ30・31・32・33・46・50）図（1／60）

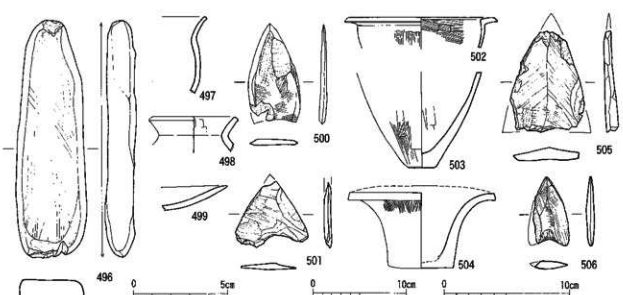
33号竪穴住居跡（ＳＡ33・第87図・第88図－502～506）

遺構：Ｂ－１群東側，Ｌ23グリッド西側で，ＳＥ１に切られ，ＳＡ31・32と切り合う形で検出された。上部が削平され平面形態・規模など不明であるが，東壁が一部残っており，ＳＡ30・31・32と同じような主軸をもつことがわかる。さらに東壁は南側でコーナー部分らしきカーブを描く。このことより方形もしくは長方形の可能性がある。遺物はわずかではあるが東壁付近に集中している。

遺物：502はＬ字に曲がる甕の口縁部である。外面は縦方向のハケ目を施す。503は壺の底部である。尖底に近い平底で，長形胴の胴部形態Ａ類である。504は，幅の広い平底で，大きく緩やかに外反する口縁部をもつ鉢である。上下反対で蓋の可能性もある。505・506は頁岩製の磨製石鏃である。505は切っ先・両翼の３方が欠損しているが，中央に鏑をもつ平基タイプである。本遺跡で平基タイプは少なく，42～45など比較的大型のものに集中する傾向がある。

50号竪穴住居跡（ＳＡ50・第87図）

遺構：Ｂ－１群東端，Ｌ24グリッド北西側で検出された。遺構の大部分が後世の削平とＳＡ６に切られ，北東部コーナー付近のみの検出であった。正確な規模や平面形態は不明であるが，検出状況から考えて，一辺1.9m以上の方形または長方形と推測される。遺物は出土しなかった。

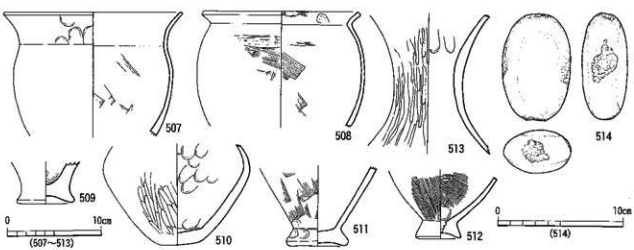


第88図　30・32・33号竪穴住居跡（ＳＡ30・32・33）出土遺物図（１／２・１／４・２／３）

46号竪穴住居跡（ＳＡ46・第90図・第89図－507～514）

遺構：Ｂ－１群北西側，Ｋ23グリッド西側で，ＳＥ１に切られ，ＳＡ47・59と切り合う形で検出された。部分的に攪乱され検出状況が不明なところがあるが，北壁・東壁・南壁の大部分が残っており，一辺約4.7m前後の方形とわかる。遺物は攪乱の少ない東側に集中する。この周辺Ｂ－１群では最大級の床面積23.7㎡を測る。

遺物：507～509は甕である。507はS字状に屈曲した口縁部形態C類である。508は短い口縁部が「く」字状に屈曲するロ縁部形態A類である。509は上底で端部が張り出すロ縁部形態B類である。510・511は壺の底部である。510は半底の底部形態B類で，偏球胴で胴部形態C類である。511は底部で細く窄まった上底の脚台状底部をもつ。512は鉢である。底部は脚台状の上底の底部形態A類で，内湾しながら立ち上がる胴部形態C類をもつ鉢ⅠC類である。513は器台である。受部と裾部の両端が欠損しており，全形が把握しにくいが，ほぼ上下対象の形状を呈すると考えられる。514は砂岩製の敲石である。上下両端と両側面中央部の4カ所に敲打痕が認められる。

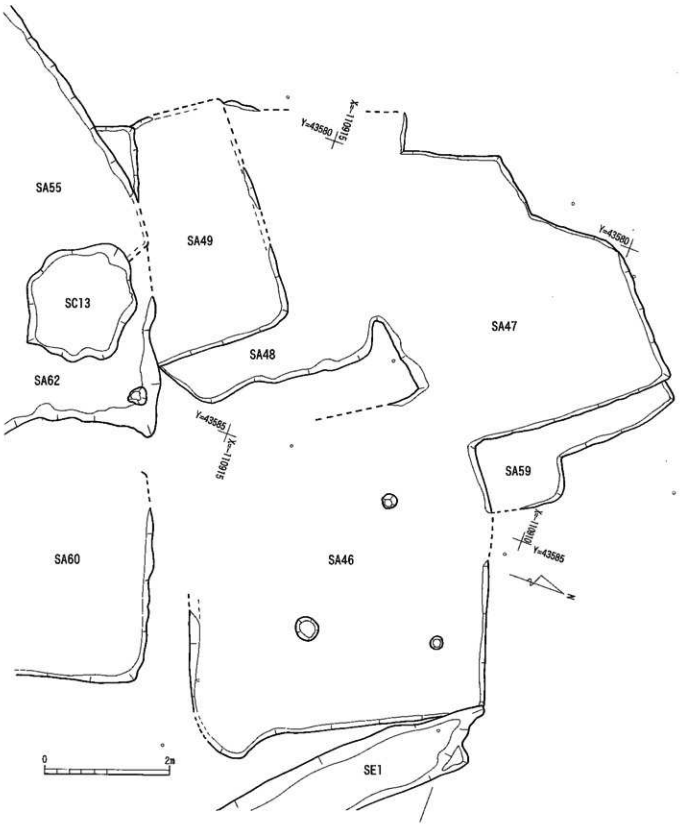


第89図　46号竪穴住居跡（ＳＡ46）出土遺物図（1／4・1／3）

47号竪穴住居跡（ＳＡ47・第90図・第91図―515～528）

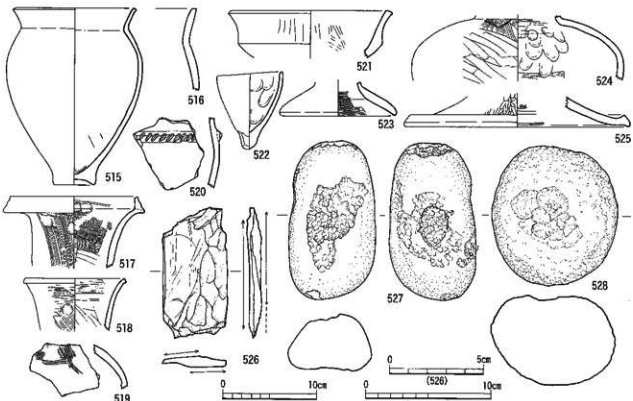
遺構：Ｂ－1群北西側，K22グリッドとK23グリッドの境界付近で，ＳＡ59を切り，ＳＡ46・48と切り合う形で検出された。他の住居跡より少し傾斜上面だったので，上面削平が著しく，不明瞭な検出状態であった。平面形態は，東西4.8m・南北3.8mの長方形基調であるが，北西コーナー部が東西2m×南北1m程入り込む不正方形を呈する。遺物は南東隅部付近に集中している。

遺物：515～516・520は甕である。515は平坦状の口唇部形態B類，口縁部が緩やかに「く」字状に屈曲するロ縁部形態A類，長形胴で最大径が上部にある胴部形態C類，上底で端部が張り出さない底部形態C類をもつ甕Ⅱ類である。516は緩やかに「く」字状に屈曲し，上方に少し延びた口縁部形態B類とC類の中間形態をもつ。517～519・524は壺である。517は二重口縁をもつ口縁部形態A類，518は長頸と直口縁の中間形で，緩やかに外反するロ縁部である。519は壺の肩部である。外面に沈線文と押圧文が施されている。意図的な施文と判断することは難しく，むしろ製作上偶発的に付着した痕跡だと考えられる。524は頸部に「U」字状のヘラ描き文が施されている。形状は肩部が張っており，偏球形の胴部をもつと考えられる。522は鉢と分類したが，底部は蒲鉾形を呈し，底部というよりも取っ手という解釈もできる。釣錘形土製品としておく。521・523は高坏である。521は一度屈曲してわずかに外反しながら直立気味に立ち上がる坏部形態A類とB類の中間形態をもつ。523は内湾しながら立ち上がる裾部であり，脚部形態C類に伴うことが多い。ＳＡ47の遺物群を概観して，この裾部だけが新しい様相を呈する。出土位置も比較的高位にあり，流れ込みの可能性がある。525は器台の裾部である。526は頁岩



第90図　46・47・48・49・59・60・62号竪穴住居跡（ＳＡ46・47・48・49・59・60・62）・
１号溝状遺構（ＳＥ１）図（１／60）

製の砥石である。剥落・剥離が激しいが，両側縁が平行であることからＩＢ類の板状砥石であった可能性がある。砥面は表裏２面あり，部分的に縦と斜方向の線状痕をもつ。527は凝灰岩製の敲石である。上下両端，及び表裏面中心部に敲打痕が集中し，凹面を形成しており，凹石の用途も兼ねている。528は凝灰岩製の凹石であり，中心部に敲打痕が集中している。

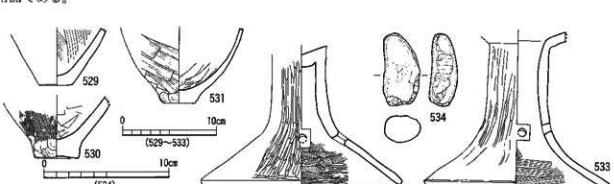


第91図　47号竪穴住居跡（ＳＡ47）出土遺物図（1／4・1／2・1／3）

48号竪穴住居跡（ＳＡ48・第90図・第92図－529～534）

遺構：Ｂ－Ｉ群北西側，Ｋ23グリッドの北西隅付近，ＳＡ47・49に切られる形で検出された。平面形態は，削平された不明な部分が多くあるが，検出された部分から考えて，南北4.3m・東西3.5mの長方形を呈する。遺物は遺構面から疎らに出土した。

遺物：529～531は壺の底部である。529は半底の底部形態Ｂ類，530は円盤状平底付き，531は平底とレンズ状の中間形態をもつ。532・533は高坏の脚部であり，細長くラッパ状に開く脚部形態Ａ類である。533はやや柱部が太い特徴をもつ。534は砂岩製で，側面に磨痕，下端部に敲打痕をもつ磨石と敲石の兼用品である。



第92図　48号竪穴住居跡（ＳＡ48）出土遺物図（1／4・1／3）

49号竪穴住居跡（ＳＡ49・第90図）

遺構：Ｂ－１群北西側，K23グリッドの北西隅付近，ＳＡ62に切られる形で検出された。平面形態は，約１／２の検出状況ではあるが，東辺や北辺から一辺3.8m前後の方形と考えられる。遺物は出土しなかった。

59号竪穴住居跡（ＳＡ59・第90図）

遺構：Ｂ－１群北西側，K22グリッドとK23グリッドの境界付近，ＳＡ46・47に切られる形で検出された。全体の平面形態や規模は不明であるが，東辺が東西２m・南北0.5m程入り込む不正方形を呈する。遺物は壁際から弥生土器の細片が出土した。

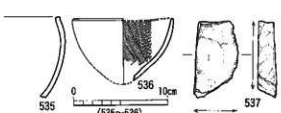
６号竪穴住居跡（ＳＡ６・第94図）

遺構：Ｂ－１群南側，23ラインとＬラインの交点付近，ＳＡ７を切る形で検出された。ＳＡ60とは並列関係にある。南側が傾斜により消失しているが，平面形態は，一辺約3.2m前後の方形もしくは長方形である。

７号竪穴住居跡（ＳＡ７・第94図・第93図－535～537）

遺構：Ｂ－１群南側，K23グリッドの西側，ＳＡ62・ＳＡ８に切られ，ＳＡ61・ＳＡ６を切る形で検出された。平面形態は，切り合いにより攪乱が著しいが，東辺と南辺の残存状態から一辺4.2mの方形もしくは長方形と考えられる。

遺物：535～536は鉢である。535は内湾しながら立ち上がる口縁部形態Ｃ類をもつ。536は尖底の底部形態Ｄ類，内湾しながら立ち上がる口縁部形態Ｃ類をもつ鉢ＩＣ類である。537は砥石であり，本来板状のＩＢ類であったものが欠損したものと考えられる。砥面は全面に光沢状研磨痕が残るが，周縁に擦痕状研磨痕も確認できる。



第93図　７号竪穴住居跡（ＳＡ７）出土遺物図（１／４・１／２）

８号竪穴住居跡（ＳＡ８・第94図）

遺構：Ｂ－１群南側，K24グリッドの北側，ＳＡ７を切る形で検出された。大部分が後世の造成のため削平されており，北側コーナー部分のみの検出である。平面形態は方形もしくは長方形と考えられる。

60号竪穴住居跡（ＳＡ60・第94図）

遺構：Ｂ－１群南側，K23グリッドの東側，ＳＡ61に切られる形で検出された。平面形態は，切り合いの攪乱のため南側が不明瞭であるが，一辺3.5mの方形と推測される。ＳＡ６やＳＡ62・ＳＡ61などとは主軸方向に類似性が認められ，近い時期に構築された可能性が考えられる。

第94図　6・7・8・55・60・61・62号竪穴住居跡（ＳＡ６・７・８・55・60・61・62）・３号（ＳＣ３）土坑図（１／60）

61号竪穴住居跡（ＳＡ61・第94図）

遺構：Ｂ－１群南側，K23グリッドの南東側，ＳＡ60を切り，ＳＡ７・62に切られる形で検出された。平面形態は，西側が消失しており全容は不明であるが，長辺3.5m以上・短辺2.3mの長方形である。ＳＡ60・62・６などと主軸を同じくし，時期近接の可能性があるが，平面形態から考えて，竪穴住居跡ではなく，土坑である可能性もある。

62号竪穴住居跡（ＳＡ62・第94図）

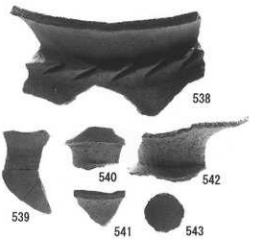
遺構：Ｂ－１群南側，K23グリッドの西側，ＳＡ７・61を切り，ＳＡ55・ＳＣ13に切られる形で検出された。部分的に切り合いによる撹乱が見られるが，平面形態は東西約4.9m・南北4.4mの長方形を呈する。推定床面積21.7㎡と本遺跡では比較的大型の竪穴住居跡と考えられる。遺物は弥生土器の細片が数点出土したのみである。

②B－2群…B群の中でも南西部，X軸は21～25・Y軸はⅠ～Lライン内に位置する。ＳＡ22～24・51～58・89の12軒とＳＣ１～３・８・12・17・18・20の８基の土坑から成る。

55号竪穴住居跡（ＳＡ55・第94図・写真図版３－538～544）

遺構：B－２群東側，K23グリッドの西側，ＳＣ３・ＳＣ13に切られ，ＳＡ62・ＳＣ３を切る形で検出された。平面形態は，南側が造成によって削平されており全容がわからないが，一辺4.7m前後の方形を呈する。推定床面積約22㎡と本遺跡ではＳＡ62などと並んで比較的大型の竪穴住居跡と考えられる。遺物は遺構面全体から出土した。

遺物：538・539は甕である。538は直径35.8cmと大型甕の口縁部であり，緩やかに大きく開く形態をもつ。頸部下には斜位の刻目文をもつ三角形貼付突帯を有する。全体的に外面が赤化しており，赤色を意識した土器である可能性がある。539は緩やかにＳ字を描きながら屈曲する口縁部形態Ｃ類である。540～542は壺である。540は二重口縁壺の一種である。二次口縁部を屈曲させるというよりも拡張しているという印象を受ける。二次口縁部は風化のためか，文様は確認できなかった。541は大きく開く口縁部形態Ｂ類であり，口唇部には凹線文らしき文様が確認できる。542は現況では大きく開く口縁部形態Ｂ類のような形状を呈しているが，実際観察すると二次口縁部の剥離した口縁部形態Ａ類と考えられる。口縁部と胴部を繋ぐ頸部が柱状に細い特徴をもつ。543は円盤状の土製品である。壺などからの転用と考えられる。544は平底の底部から直線的に外側に開く鉢Ⅰ類である。

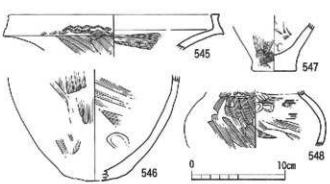


写真図版３　55号竪穴住居跡（ＳＡ55）出土遺物

３号土坑（ＳＣ３・第94図・第95図－545～548・写真図版４－549～558）

遺構：B－２群東側，24ラインとKラインの交点付近，ＳＡ55とＳＡ54に切られる形で検出された。規模は不明である。竪穴住居跡の可能性もある。狭い面積ながらも多くの遺物が出土した。

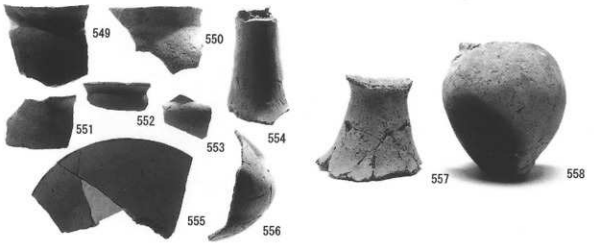
遺物：545～546は壺である。545は直立気味に立ち上がる二次口縁部には櫛描波状



第95図　３号土坑（ＳＣ３）出土遺物図（１／４）

文を施している口縁部形態A類である。546は底部であり，平底と丸底との中間形態の底部をもち，やや長形胴の胴部をもつ。547は甕の底部である。平底で張り出しのない底部形態E類である。548は壺の頸部～胴部である。549・552は甕の口縁部である。内外面に丁寧なハケ目調整を施している。549は頸部で「く」字状に曲がる口縁部形態A類で，口縁部が上方に大きく伸びるタイプである。552は短く明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態A類である。550・551は壺の口縁部である。550は直立気味に立ち上がる短頸の口縁部形態E類をもつ。551はわずかに外反するが直立気味に立ち上がる短頸タイプで，口縁部形態C類の要素をもつE類である。553は頸部中位でS字状に屈曲する鉢ⅠA類である。554は高坏の脚部である。直立気味の脚柱部から裾部にかけて急激に開く。555は器台である。556は壺の胴部～底部である。破片なので全形が推測でしか理解できないが，おそらく中央部より上に最大径がくる球形胴のタイプである。外面に縦方向のミガキを施す。557は高坏の脚部である。他の高坏は比較的含有物の少ない土で製作するのであるが，557の胎土は3㎜ほどの石粒を多く含む。558は壺の胴部～底部付近である。レンズ状の底部形態C類にやや縦長の偏球形胴をもつ。

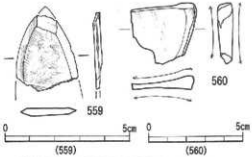
13号土坑（ＳＣ13・第94図・第96図－559～560）



写真図版4　3号土坑（ＳＣ3）出土遺物

遺構：Ｂ－1群南側，K23グリッドの西側，ＳＡ55とＳＡ62に切られる形で検出された。規模は一辺170㎝の隅丸方形である。遺物は石器のみ図化を行っていが，表面にタタキを施す甕の口縁部片1個体分，壺の口縁部片3個体分，壺の底部片2個体分，器台の裾部片2個体分の土器も出土した。

遺物：559は緑色頁岩製の磨製石鏃である。基部と先端部が欠損している。560は頁岩製の砥石である。表裏2面の凹面にくぼんだ砥面が確認される。



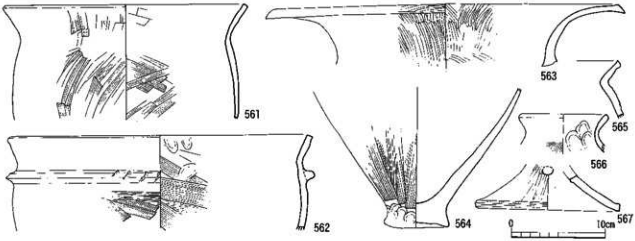
第96図　13号竪穴住居跡（ＳＡ13）出土遺物図（2/3・1/2）

51号竪穴住居跡（ＳＡ51・第99図・第97図－561～567）

遺構：Ｂ－2群西部，J23グリッドの北西部，ＳＡ52・ＳＣ9に切られる形で検出された。平面形態

は，南側が1／4程後世の造成によって削平されているが，東辺と北辺が直交することから，一辺2.8m以上の方形もしくは長方形と推定できる。遺物は数か所に集中しながら出土した。

遺物：561～562・564・565は甕である。561は緩やかなS字状に屈曲する口縁部形態C類である。562はわずかに内湾しながら立ち上がり，緩やかに「く」字状に屈曲する口縁部形態B類である。さらに頸部には斜位の連続刻目文をもつ台形状の貼付突帯を有する。565は大きく「く」字状に屈曲する口縁部形態A類である。563・567は高坏である。563は一度坏部の中位で明瞭に屈曲し，大きく外反しながら立ち上がる。

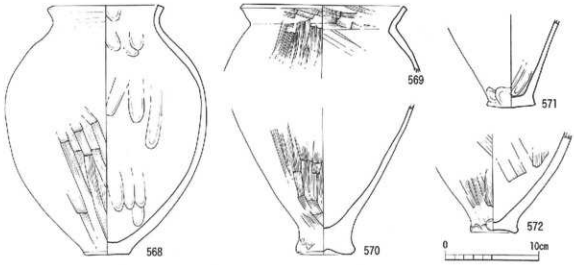


第97図　51号竪穴住居跡（ＳＡ51）出土遺物図（1／4）

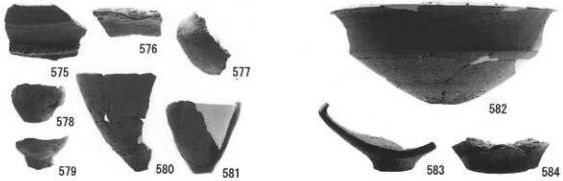
52号竪穴住居跡（ＳＡ52・第99図・第98図－568～572・写真図版５－573～584）

遺構：Ｂ－２群中央部，Ｊ23グリッドの中央部，ＳＡ51・ＳＣ９を切り，ＳＡ54に切られる形で検出された。南側が1／4程後世の造成によって削平されているが，一辺3.2m前後の方形を呈することがわかる。ただし，方形といっても各辺が直線的でなく歪んだ方形である。遺物は南コーナー部に集中する。

遺物：568・572は壺である。568は短く緩やかに外反する口縁部形態D類，長形胴の胴部形態A類，平底の底部形態B類をもつ壺Ⅵ類である。572はやや上底気味の底部をもつ。569・570は甕である。569は口縁部であり，平面状の口唇部形態A類，大きく明瞭に「く」字状に曲がる口縁部形態A類をもつ。570は底部であり，上底でわずかに端部の張り出しをもつ底部形態B類をもつ。571は鉢である。平底で外傾しながら立ち上がる鉢ＩＣ類である。573・574は壺である。574は小さく外反する口縁部形態C類である。575・576は壺である。575 は複合口縁的に拡張した口縁帯に凹線文を施し，頸部に斜位の連続刻目文を施す１条の三角状貼付突帯を有する。576は大きく開く口縁部形態B類で，拡張した口唇部には凹線文を施す。この凹線文は瀬戸内系土器の特徴の一つともいえるが，576の凹線文は粗雑で瀬戸内地方から直接の搬入品とは考えにくい。577は壺である。胴部中位上段で大きく屈曲し，算盤玉のような形状を呈すると考えられる。572・573は鉢であり，わずかに内湾しながら立ち上がる口縁部～胴部，指ナデによってわずかに張り出す底部をもつ鉢ＩＣ類である。578と579は手捏土器である。582は高坏であり，一度中位で明瞭に屈曲し，外反しながら立ち上がる坏部形態B類である。583・584は壺の底部である。583は円盤状平底をもち，胴部で大きく屈曲する算盤玉のような形状を呈すると考えられる。



第98図　52号竪穴住居跡（ＳＡ52）出土遺物図（１／４）

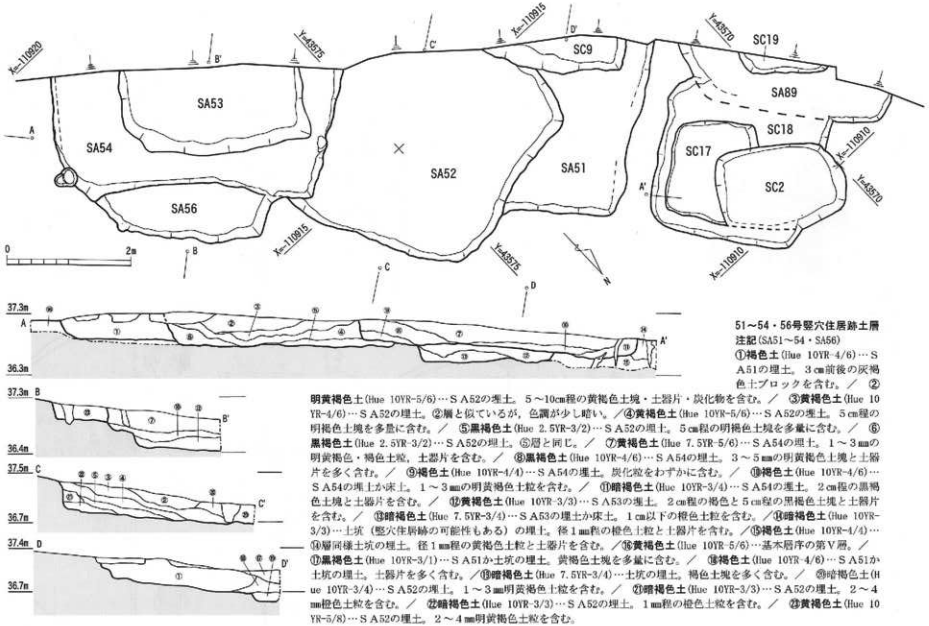


写真図版５　52号竪穴住居跡（ＳＡ52）出土遺物

53号竪穴住居跡（ＳＡ53・第99図・写真図版６－585～589）

遺構：Ｂ－２群東側，Ｊ23グリッドの中央部，ＳＡ54に切られる形で検出された。平面図を見るとＳＡ53が切っているように見えるが，実際はＳＡ53の上にＳＡ54が構築されたと考えられる。南西側が１／２ほど後世の造成のため削平されており，正確な平面形態は不明であるが，一辺2.9m前後の方形もしくは長方形を呈すると考えられる。全体の形態が検出できなかったため，土坑の可能性も考えられる。

遺物：585は壺の頸部～胴部であり，頸部で窄まり，胴部上位で最大径をもつ形状と考えられる。586は甕の口縁部である。内湾しながら立ち上がる口縁部で，頸部で明瞭に「く」字状に屈曲する甕Ｉ類である。587は貼付円盤状の平底をもつ底部である。588は小型甕である。頸部で明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態Ａ類に似ており，外面に丁寧なミガキを施す。589は壺か甕の胴部である。内外面にハ



51～54・56号竪穴住居跡土層注記(SA51～54・SA56)

①**褐色土**(Hue 10YR-4/6)…ＳＡ51の埋土。３cm前後の灰褐色土ブロックを含む。／ ②**明黄褐色土**(Hue 10YR-5/6)…ＳＡ52の埋土。５～10cm程の黄褐色土塊・土器片・炭化物を含む。／ ③**黄褐色土**(Hue 10YR-4/6)…ＳＡ52の埋土。②層と似ているが，色調が少し暗い。／④**黄褐色土**(Hue 10YR-5/6)…ＳＡ52の埋土。３cm程の明褐色土塊を多量に含む。／ ⑤**黒褐色土**(Hue 2.5YR-3/2)…ＳＡ52の埋土。５cm程の明褐色土塊を多量に含む。／ ⑥**黒褐色土**(Hue 2.5YR-3/2)…ＳＡ52の埋土。⑤層と同じ。／ ⑦**黄褐色土**(Hue 7.5YR-5/6)…ＳＡ54の埋土。１～３mmの明黄褐色・褐色土粒，土器片を含む。／ ⑧**黒褐色土**(Hue 10YR-4/6)…ＳＡ54の埋土。３～５mmの明黄褐色土塊と土器片を多く含む。／ ⑨**褐色土**(Hue 10YR-4/4)…ＳＡ54の埋土。炭化粒をわずかに含む。／ ⑩**褐色土**(Hue 10YR-4/6)…ＳＡ54の埋土か床土。１～３mmの明黄褐色土粒を含む。／ ⑪**暗褐色土**(Hue 10YR-3/4)…ＳＡ54の埋土。２cm程の黒褐色土塊と土器片を含む。／ ⑫**黄褐色土**(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ53の埋土。２cm程の褐色と５cm程の黒褐色土塊と土器片を含む。／ ⑬**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…ＳＡ53の埋土か床土。１cm以下の橙色土粒を含む。／⑭**暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…土坑（竪穴住居跡の可能性もある）の埋土。径１mm程の橙色土粒と土器片を含む。／⑮**褐色土**(Hue 10YR-4/4)…④層同様土坑の埋土。径１mm程の黄褐色土粒と土器片を含む。／⑯**黄褐色土**(Hue 10YR-5/6)…基本層序の第Ⅴ層。／⑰**黒褐色土**(Hue 10YR-3/1)…ＳＡ51か土坑の埋土。黄褐色土塊を多量に含む。／ ⑱**褐色土**(Hue 10YR-4/6)…ＳＡ51か土坑の埋土。土器片を多く含む。／⑲**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…土坑の埋土。褐色土塊を多く含む。／ ⑳暗褐色土(Hue 10YR-3/4)…ＳＡ52の埋土。１～３mm明黄褐色土粒を含む。／ ㉑**暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ52の埋土。２～４mm橙色土粒を含む。／ ㉒**暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ52の埋土。１mm程の橙色土粒を含む。／ ㉓**黄褐色土**(Hue 10YR-5/8)…ＳＡ52の埋土。２～４mm明黄褐色土粒を含む。

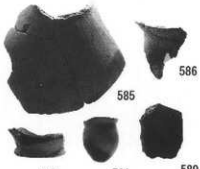
第99図　51・52・53・54・56・89号竪穴住居跡（ＳＡ51・52・53・54・56・89）・２・９・17・18・19号土坑（ＳＣ２・９・17・18・19）図（１／60）

ケ目と工具ナデを施した後，外面に斜方向に３条の液体が流れたような痕跡が確認される。整理段階に付着したとは考えにくく，土器制作時または使用時に付着したものと考えられる。原因については不明である。

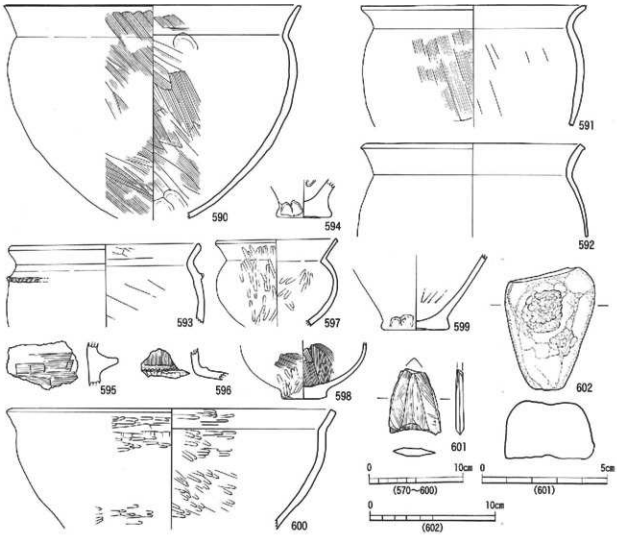
54号竪穴住居跡

（ＳＡ54・第99図・第100図－590～602）

遺構：Ｂ－２群東側，Ｊ23グリッドの南東側，ＳＡ53に切られ，ＳＡ56・ＳＡ52・ＳＣ３を切る形で検出された。しかし，土層などの検討の結果，ＳＡ53はＳＡ54が切ったもので，ＳＡ54の床面下のＳＡ53が検出されたものであると判断した。南西側が１／２ほど後世の造成のため削平されており，正確な平面形態は不明であるが，一辺4.3m前後の方形もしくは長方形を呈すると考えられる。遺物は全面で出土したが，特に北コーナー付近の壁際に集中している。



写真図版６　53号竪穴住居跡（ＳＡ53）出土遺物



第100図　54号竪穴住居跡（ＳＡ54）出土遺物図（１／４・２／３・１／３）